

8-4 動物・植物・生態系

8-4-1 動物

工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事並びに工事施工ヤード及び工事用道路の設置）又は鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地及び変電施設）の存在により、対象事業実施区域及びその周囲で重要な種及び注目すべき生息地への影響のおそれがあることから、環境影響評価を行った。

(1) 調査

1) 調査すべき項目

ア. 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物、土壌動物の状況

調査項目は、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物、土壌動物の状況とした。

イ. 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

調査項目は、重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況とした。

ウ. 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

調査項目は、注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況とした。

2) 調査の基本的な手法

ア. 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物、土壌動物の状況

文献調査により、地域に生息する動物関連の文献資料を収集し整理した。なお、必要に応じて専門家ヒアリングを行った。

現地調査の方法を、表 8-4-1-1 に示す。

表 8-4-1-1(1) 動物の調査方法

調査項目		調査方法	
哺乳類	捕獲調査	任意確認(フィールドサイン法)、夜間撮影	調査地域内を任意に踏査し、哺乳類の生息の根拠となる足跡、糞、食痕、掘り返し跡等のフィールドサイン(生息痕)の確認から、調査地域に生息する種の把握を行った。また、自動撮影装置を併用して、けもの道等の哺乳類の移動経路の把握に努めた。
		【ネズミ類】	ネズミ類、ヒミズ等の小型哺乳類の生息確認を目的として、調査地域内に見られる樹林、草地等の様々な環境に地点を設定し、トラップを設置した。トラップにはシャーマントラップ及び墜落かんを使用した。シャーマントラップの餌はピーナッツ、ソーセージ、サツマイモ等を用いた。シャーマントラップの設置数は30個/1地点、墜落かんの設置数は2~3個/1地点とし、2晩設置した。17地点で実施した。
		【カワネズミ】	カワネズミの生息確認を目的として、調査地域内に位置する河川にトラップを設置した。トラップにはカゴワナを使用し、餌は魚類を用いた。カゴワナの設置数は5箇所/1地点とし、2晩設置した。4地点で実施した。
		【モグラ類】	モグラ類の生息状況の把握を目的として、モグラ塚等が見られる地点にモールドトラップを設置した。モールドトラップの設置数は10個/1地点を基本とし、2晩設置した。17地点で実施した。
		【コウモリ類】	コウモリ類の生息種の確認及び生息状況の把握を目的として、調査地域内におけるコウモリ類の通過経路と判断される場所において、ハープトラップを用いて捕獲調査を実施した。ハープトラップの設置数は1箇所/1地点とした。4地点で実施した。
		【ヤマネ】	樹洞性小型哺乳類であるヤマネの生息確認を目的として、調査地域内の樹林地に巣箱を設置し、巣箱を利用する個体の確認、若しくは利用痕跡の確認を行った。巣箱設置数は20個/1地点とした。5地点で実施した。
鳥類	一般鳥類	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、出現した鳥類の種名を記録した。重要な種が確認された場合は、確認位置、個体数、行動等を記録した。また、フクロウ類等の夜行性鳥類の生息確認を目的とした夜間調査も実施した。
		ラインセンサス法	調査地域内に設定した調査ルート上を、時速2kmで歩きながら一定範囲内(草地は片側50m、林内は片側25m程度)に出現する鳥類の種名及び個体数を記録した。調査にあたっては、8~10倍程度の双眼鏡を用いるとともに、姿及び鳴き声により鳥類の確認を行った。調査時間帯は鳥類の活動が活発となる早朝に設定し、ルート数は14ルートとした。
		ポイントセンサス法	観察地点を定め、双眼鏡及び望遠鏡を用いて30分程度の観察を行い、姿及び鳴き声により確認される鳥類の種名及び個体数を記録した。19地点で実施した。
	希少猛禽類	定点観察法	猛禽類の営巣が考えられる地域について繁殖地特定のための行動の確認を目的として、設定した定点において簡易無線機による情報交換を行いながら、8~10倍程度の双眼鏡及び20~60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
		営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を歩き、樹林の状況、巣がかけられている営巣木の状況(樹種、樹高、胸高直径、地上〇mに営巣等)、巣の形状(直径、厚さ)、周辺の地形及び植生等を記録した。
爬虫類・両生類	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、目視観察及び捕獲、鳴き声等により確認された両生類・爬虫類の種名及び個体数、確認位置等を記録した。なお、昼間は目視により個体を確認し、夜間はカエル類の鳴き声等を確認した。	

表 8-4-1-1(2) 動物の調査方法

調査項目	調査方法	
昆虫類	任意採集	調査地域内を任意に踏査し、目視観察及び鳴き声等で確認された昆虫類の種名を記録した。また、目視観察で種名の確認が困難な場合は、捕虫網等を用いて採取した。さらに、現地での種の識別が困難なものは、標本として持ち帰り、同定を行った。
	ライトトラップ法	夜間に光に誘引されるコウチュウ類、ガ類等の確認を目的として、調査地域内に見られる代表的な環境において、ボックス法によるライトトラップを実施した。 【ボックス法】 光源（ブラックライト等）の下に、捕虫器（ボックス）を付け、飛来した昆虫類が光源にぶつかり捕虫器に落下した個体を捕獲した。設置は夕刻に行い、日没前に点灯を開始し、1晩放置した後、翌日、ボックス内の昆虫類を回収した。17地点で実施した。
	ベイトトラップ法	主に地表徘徊性のコウチュウ類、アリ類等の確認を目的として、調査地域内に見られる樹林、草地等の様々な環境に地点を設定し、トラップを設置した。トラップは、誘引餌を入れたプラスチックコップを20個/1地点で地中に埋設し、1晩設置した後、回収した。17地点で実施した。
魚類	任意採集	調査地域内に設定した調査地点・範囲（河川、湖沼等の水域）において、各種漁具（タモ網、投網、セルピン、カゴ網、サデ網、定置網）を用いて任意に魚類を採取し、種名、個体数、確認環境等を記録した。また、現地での種の識別が困難なものは、採取した魚類をホルマリン等で固定して標本として持ち帰り、同定を行った。
底生動物	任意採集	調査地域内に設定した調査地点・範囲（河川、湖沼等の水域）において、タモ網等を用いて任意に底生動物の採集を行った。採集した底生動物はホルマリンで固定して標本として持ち帰り、同定を行った。
	コドラート法	任意採集を実施した15地点において、サーバーネット（25cm×25cm×3回）を用いて、一定面積内に生息する底生動物の採集を行った。採集した底生動物はホルマリンで固定し、標本として持ち帰り、同定を行った。
土壌動物	コドラート法	50cm×50cmの方形枠を設置し、枠内の落葉、落枝、腐葉土等及び、深さ5cmまでの土壌を移植ゴテ等で集めた試料を、目合い5mm程度のふるい網にかけて、大型土壌動物を採集した。調査は1エリアあたり3地点程度、26地点で実施した。

イ. 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

生息が確認された種の内、表 8-4-1-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

なお、重要な種の選定にあたっては、必要に応じて専門家等の指導・助言を受け、選定した。

表 8-4-1-2(1) 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法（昭和25年、法律第214号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年、法律第75号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	自然環境保全法（昭和47年、法律第85号）	○：指定の地域
④	特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（昭和55年）	○：指定湿地
⑤	神奈川県文化財保護条例（昭和30年、神奈川県条例第13号）	県：県指定天然記念物
⑥	相模原市文化財の保存及び活用に関する条例（平成12年、相模原市条例第27号） 川崎市文化財保護条例（昭和34年、条例第24号） 横浜市文化財保護条例（昭和62年、条例第53号） 愛川町文化財保護条例（昭和35年、条例第1号）	市：市指定天然記念物 町：町指定天然記念物
⑦	神奈川県自然環境保全条例（昭和47年、神奈川県条例第52号）	○：自然環境保全地域
⑧	「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省） 「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 N：要注目種

表 8-4-1-2(2) 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
⑨	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧Ⅰ類 絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類 絶滅危惧Ⅱ類 準絶滅危惧 減少種 希少種 要注意種 注目種 情報不足 情報不足A 情報不足B 不明種 絶滅のおそれのある地域個体群
⑩	「日本の地形レッドデータブック第1集」(平成12年、小泉武栄・青木賢人)	○：動物及び植物の生息地としての重要な地形
⑪	「日本の地形レッドデータブック第2集」(平成14年、小泉武栄・青木賢人)	
⑫	「天然記念物緊急調査 植生図・主要動植物地図」(昭和50年、文化庁)	○：指定されている地域
⑬	「第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 神奈川県動植物分布図」(昭和56年、環境庁)	○：重要な種の生息が確認された地域
⑭	専門家の助言により選定した種	○：選定種
⑮	東京都(区部)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 *：留意種
⑯	東京都(南多摩)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)	
⑰	東京都(本土部)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)	

注1. 選定基準⑮、⑯、⑰は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

ウ. 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

文献調査により、注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息及び生息環境の状況に関し、表 8-4-1-2 に示す基準に該当するものを調査した。

3) 調査地域

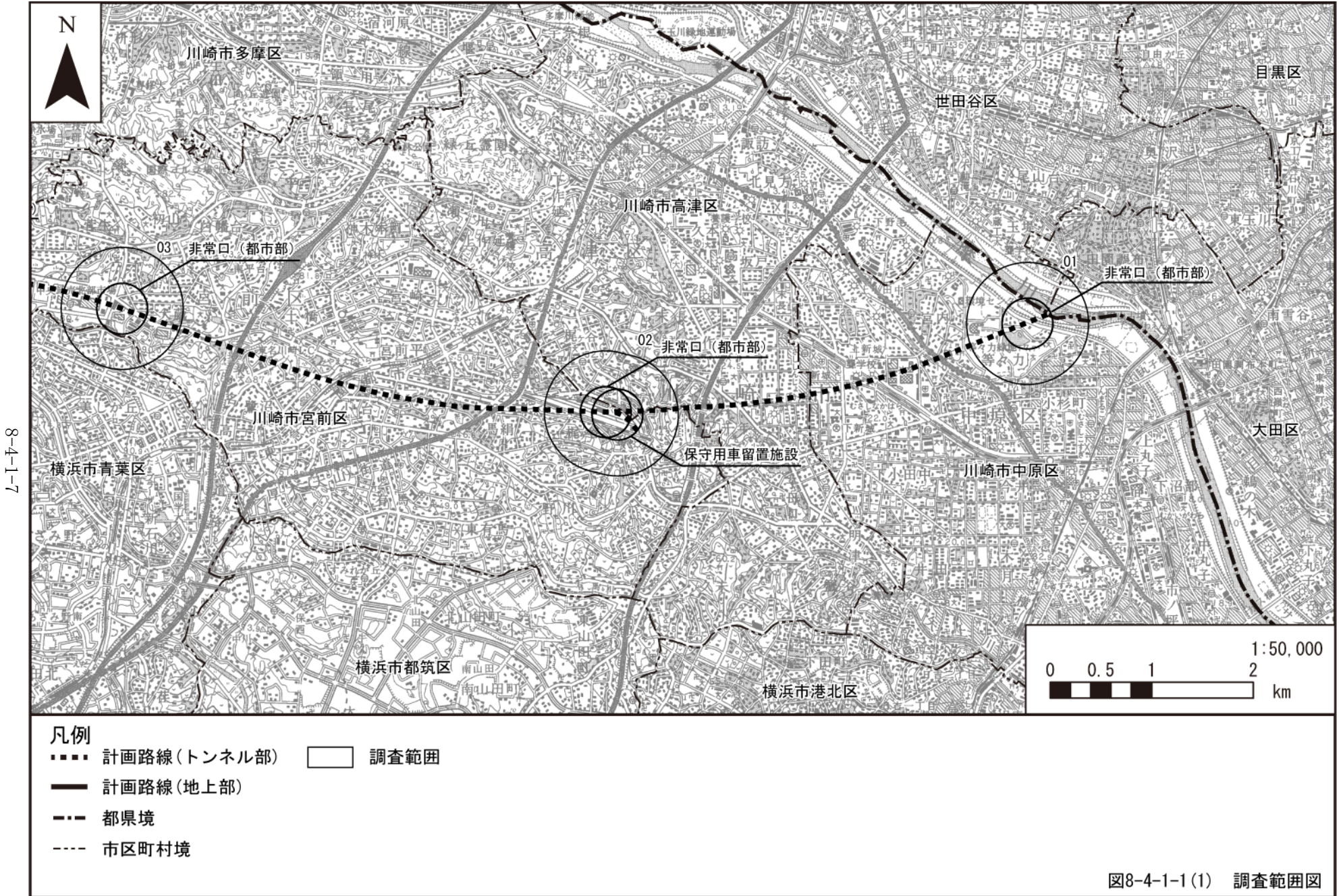
対象事業実施区域及びその周囲の内、都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋・橋梁、地下駅、車両基地及び変電施設を対象に工事の実施又は鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋・橋梁、地下駅、車両基地及び変電施設）の存在に係る動物への影響が生じるおそれがあると認められる地域とした。

4) 調査地点

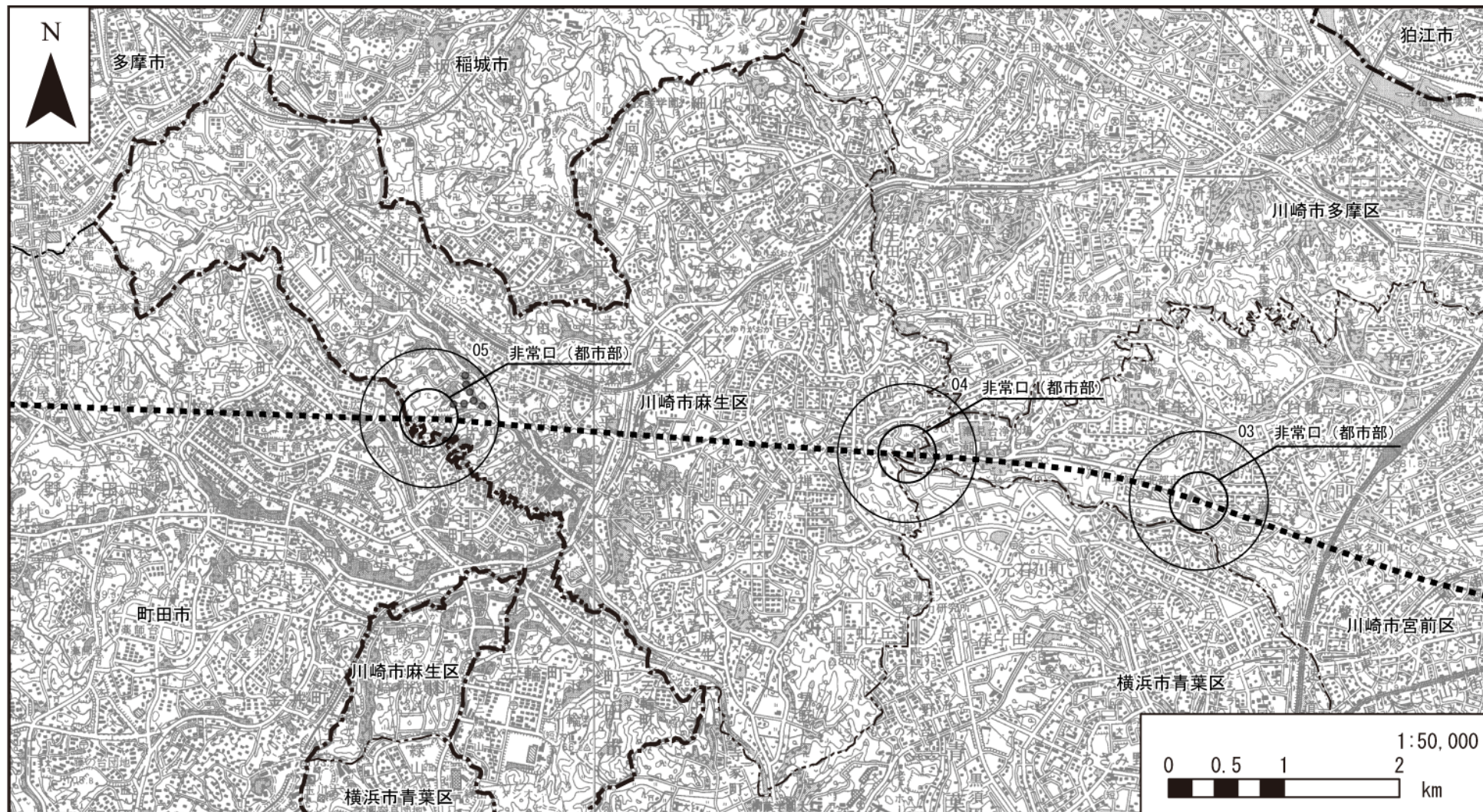
調査地域の内、自然環境の状況及び利用状況等を考慮し、動物相の現状を適切に把握することができる範囲とした。調査範囲は、土地改変区域から概ね 600m の範囲とし、猛禽類は「猛禽類保護の進め方（環境庁）」に基づき設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。調査範囲は、表 8-4-1-3 及び図 8-4-1-1 に示す。なお、橋本地区においては、橋本駅周辺の市街地が大部分を占め、自然環境はほとんど存在しないため、鳥類の任意確認調査のみ実施した。

表 8-4-1-3 調査範囲

地域番号	地域名称	対象施設
01	等々力地区	非常口（都市部）
02	梶ヶ谷地区	非常口（都市部）
03	犬蔵地区	非常口（都市部）
04	東百合丘地区	非常口（都市部）
05	片平能ヶ谷地区	非常口（都市部）
06	橋本地区	地下駅
07	小倉地区	高架橋・橋梁、変電施設
08	長竹地区	非常口（山岳部）
09	青山地区	地表式又は掘割式、橋梁、非常口（山岳部）
10	鳥屋地区	車両基地
11	牧馬地区	非常口（山岳部）
12	大羽根地区	非常口（山岳部）



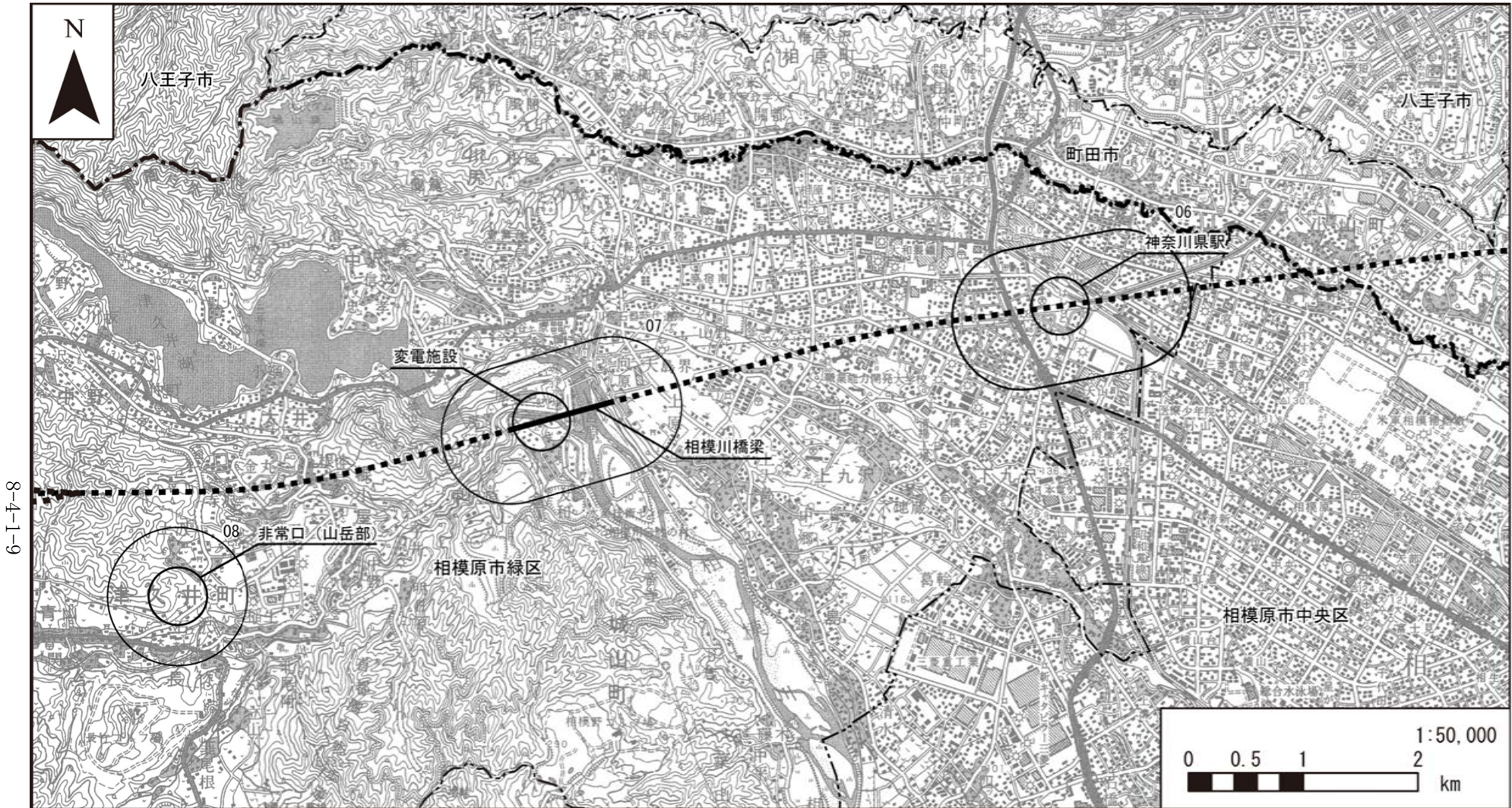
8-4-1-8



凡例

-
- 調査範囲
- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 工事用道路
- 都県境
- 市区町村境

図8-4-1-1(2) 調査範囲図

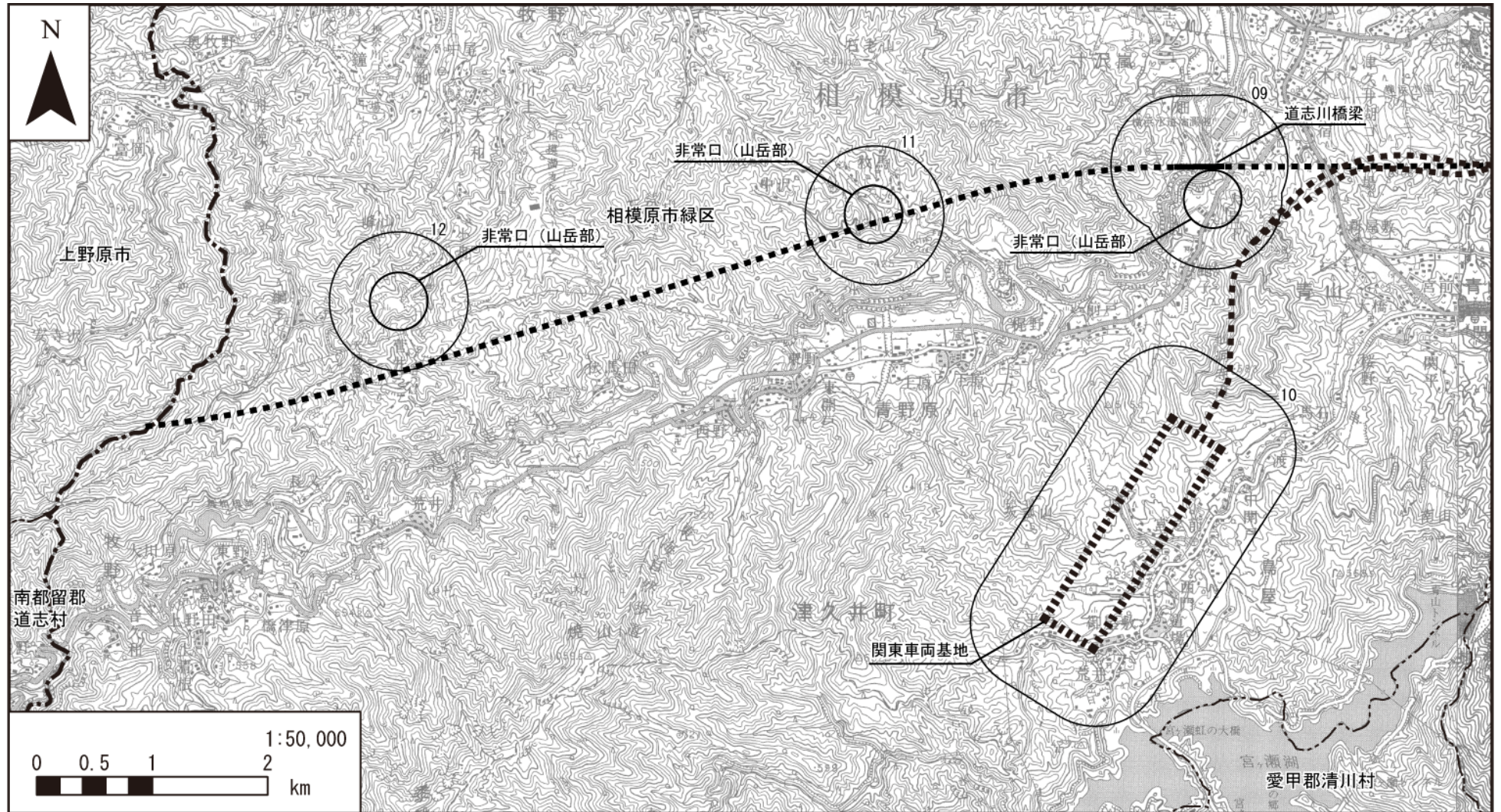


凡例

- 計画路線(トンネル部) □ 調査範囲
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

図8-4-1-1(3) 調査範囲図

8-4-1-10



凡例

- 計画路線(トンネル部) □ 調査範囲
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境
- ・ 関東車両基地は地上部で計画

図8-4-1-1(4) 調査範囲図

5) 調査期間等

動物の現地調査は表 8-4-1-4 に示す時期に実施した。

表 8-4-1-4(1) 調査期間等

調査項目		調査手法		調査実施日		
哺乳類	任意確認（フィールドサイン法）、夜間撮影（1晩設置）	春季		平成24年5月8～11日、14～16日、平成25年5月7～10日、20日		
		夏季		平成24年6月6日、11日、7月6～9日、16日、17日、8月1日、22日、23日、29日、30日、平成25年6月28日		
		秋季		平成24年10月9～12日、15～17日、11月21日		
		冬季		平成25年1月16～18日、21～23日、25日、26日、2月8日、3月13～15日		
	小型哺乳類捕獲調査（ネズミ類等）（2晩設置）	夏季		平成24年6月6～8日、11～13日、7月16～19日、8月1～3日、22～24日		
		秋季		平成24年10月10～12日、11月6～8日、13～15日、20～22日		
	小型哺乳類捕獲調査（カワネズミ）（2晩設置）	夏季		平成24年6月11～13日		
		秋季		平成24年11月13～15日、20～22日		
	小型哺乳類捕獲調査（モグラ類）（2晩設置）	夏季		平成24年6月6～8日、11～13日、7月16～19日、8月1～3日、22～24日		
		秋季		平成24年10月10～12日、11月6～8日、13～15日、20日～22日		
	コウモリ類捕獲調査（日没前後から3～4時間）	春季		平成25年5月9日		
		夏季		平成24年7月17日、18日、20日、8月22日		
		秋季		平成24年10月23～25日		
	小型哺乳類巣箱調査（ヤマネ確認調査）（巣箱は1年間設置）	巣箱設置		平成24年6月12日、7月18日～20日		
巣箱確認			平成24年10月23～25日、平成25年1月24日、平成25年5月7日～9日			
巣箱確認・回収			平成25年6月27日			
鳥類	任意確認（春季、繁殖期、冬季は夜間調査も実施）	春季		平成24年4月12日、13日、16日、17日、平成25年4月15日		
		繁殖期		平成24年5月17日、18日、21～23日、平成25年5月15日、20日		
		夏季		平成24年7月12日、13日、19日、20日、平成25年7月11日		
		秋季		平成24年9月24～27日		
		冬季		平成25年1月18日、19日、22日、23日		
	ライセンス法ポイントセンサ法（早朝に実施）	春季		平成24年4月12日、13日、16日、17日、平成25年4月15日		
		繁殖期		平成24年5月17日、18日、21～23日、平成25年5月15日		
		夏季		平成24年7月12日、13日、19日、20日		
		秋季		平成24年9月24～27日		
	夜間調査（日没後1～2時間）	春季		平成24年4月9日、10日、16日、平成25年4月15日		
		繁殖期		平成24年5月14日、15日、21～23日、平成25年5月15日、20日		
		冬季		平成25年1月16日、22日		
	希少猛禽類	定点観察法	第1営巣期	繁殖期		平成23年12月6～8日、20日～22日、26日～28日
						平成24年1月16～18日、23日～25日
					平成24年2月13～15日、20日～22日	
					平成24年3月5～7日、12日、14日、21日～23日	
					平成24年4月9～13日、16日～18日	
					平成24年5月14～18日	
					平成24年6月11～15日	
					平成24年7月9～13日	
					平成24年8月6～10日	
非繁殖期					平成24年10月15～17日、22～24日	
		平成24年11月12～15日				

注 1. 哺乳類、鳥類の任意確認調査は日中に行った。

表 8-4-1-4(2) 調査期間等

調査項目		調査手法		調査実施日		
鳥類	希少猛禽類	定点観察法	第2営巣期	繁殖期	平成24年12月19～21日、25～27日	
					平成25年1月15～17日	
					平成25年2月12～14日	
					平成25年3月11～15日	
					平成25年4月8～12日	
					平成25年5月13～17日	
					平成25年6月10～14日	
					平成25年7月8～12日	
					平成25年8月1～3日、5日、6日	
爬虫類		任意確認		春季	平成24年5月8～11日、14～16日、平成25年5月10日、20日	
				夏季	平成24年7月2～6日、9日、8月29日、30日、平成25年6月28日	
				秋季	平成24年10月9～12日、15～17日、11月21日	
				夜間調査 (日没後1～2時間)	春季	平成24年5月8～10日、14～16日、平成25年5月9日、20日
				夏季	平成24年7月2～5日、9日、8月29日、平成25年6月28日	
両生類		任意確認		早春季	平成24年4月10～13日、17～19日	
				春季	平成24年5月8～11日、14～16日、平成25年5月10日、20日	
				夏季	平成24年7月2～6日、9日、8月29日、30日、平成25年6月28日	
				秋季	平成24年10月9～12日、15～17日、11月21日	
				冬季	平成24年2月26～28日、3月1日	
		夜間調査 (日没後1～2時間)	早春季	平成24年4月9～10日、16日		
			春季	平成24年5月8～10日、14日～16日、平成25年5月9日、20日		
夏季	平成24年7月2～5日、9日、8月29日、平成25年6月28日					
昆虫類	任意確認 ライトトラップ法 (ボックス法:1晩設置) ベイトトラップ法 (1晩設置)		春季	平成24年5月14～18日、21～23日、平成25年5月7～10日、14日、15日、20日		
			夏季	平成24年7月17、18日、24～26日、8月6～10日、8月22日		
			秋季	平成24年10月9～12日、15～18日、24日、25日、11月21日		
魚類	任意採集		春季	平成24年5月21～24日、28日、平成25年4月23日、24日、5月10日		
			夏季	平成24年7月25日、27日、30日、31日、8月2日、6～8日、平成25年6月28日		
			秋季	平成24年10月10～12日、30日、31日、11月1日、6～9日、21日		
			冬季	平成25年2月5～8日、13～15日、19～22日		
底生動物	任意採集 コドラート法		春季	平成24年5月21～24日、28日、平成25年4月23日、24日、5月10日		
			夏季	平成24年7月25日、27日、30日、31日、8月2日、6～8日		
			秋季	平成24年10月10～12日、30日、31日、11月1日、6～9日、21日		
			冬季	平成25年2月5～8日、13～15日、19～22日		
土壌動物	コドラート法		夏季～秋季	平成24年8月20日、21日、23日、27日、28日		
			平成24年9月12日、13日、10月9日			

注 1. 猛禽類の定点観察法、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物の任意調査は日中に行った。

6) 調査結果

哺乳類、鳥類(一般鳥類、猛禽類)、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物及び土壌動物について現地調査の結果を、以下に示す。なお、確認地点における改変の可能性のある範囲からの位置関係は、表 8-4-1-5 に基づいて整理した。

表 8-4-1-5 改変区域と確認位置の距離に関する定義

用語		定義
範囲内	改変の可能性のある範囲	計画施設及び工事施工ヤードが設置され、改変される可能性がある範囲
範囲外	改変の可能性のある範囲の近傍	改変の可能性のある範囲外でかつ、改変の可能性のある範囲の周辺250m未満
	相当離れた地域	改変の可能性のある範囲外でかつ、改変の可能性のある範囲の周辺250m以上

改変の可能性のある範囲として、「第3章 表 3-4-2-1」に示す範囲を設定した。なお、非常口(都市部、山岳部)は、「環境影響評価関連図」に示した円の中心から半径100mの範囲を、トンネル坑口は「環境影響評価関連図」に示した中心から半径100mの範囲を、変電施設は「環境影響評価関連図」に示した円の中心から半径150mの範囲を設定した。

ア. 哺乳類

7) 哺乳類の状況

現地調査において7目15科24種の哺乳類が確認された（「資料編 19-1 動物出現種リスト」参照）。現地調査結果の概要は、表 8-4-1-6 に示す。

表 8-4-1-6 哺乳類現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	7目13科15種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、ハクビシン、ニホンジカ、ホンドアカネズミ等
夏季	7目13科20種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、ハクビシン、ニホンジカ、ニッコウムササビ等
秋季	6目12科20種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、ハクビシン、ホンドテン、ニホンリス等
冬季	6目11科16種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、ニホンイノシシ、ニホンジカ、ニッコウムササビ等
計	7目15科24種	アズマモグラ、ホンドタヌキ、ハクビシン、ニホンジカ、ニッコウムササビ等

4) 重要な哺乳類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な哺乳類は5目11科18種であった（「資料編 19-1 動物出現種リスト」及び「資料編 19-2 動物文献調査確認種リスト」参照）。文献及び現地で確認された重要な哺乳類とその選定基準は、表 8-4-1-7 に示す。

表 8-4-1-7(1) 重要な哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準										
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯		
1	モグラ	モグラ	アズマモグラ		○										*	
2		トガリネズミ	カワネズミ	○								準絶滅危惧		EX	VU	
3	コウモリ	キクガシラコウモリ	ニホンキクガシラコウモリ	○	○							絶滅危惧Ⅰ類		EX		
4			ニホンコキクガシラコウモリ	○	○							絶滅危惧Ⅱ類		EX		
5		ヒナコウモリ	モモジロコウモリ		○							準絶滅危惧		EX		
6			ヤマコウモリ	○						VU	絶滅危惧Ⅱ類		EX			
7			ヒナコウモリ	○							絶滅危惧Ⅱ類		VU	NT		
8	ネコ	イヌ	ホンドキツネ	○	○						準絶滅危惧		EX			
9		イタチ	ホンDOIタチ	○	○						準絶滅危惧		NT			

表 8-4-1-7(2) 重要な哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準									
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	
10	ネコ	イタチ	ホンドオコジョ	○						NT	絶滅				
11		クマ	ニホンツキノワグマ	○							絶滅危惧 I 類			CR	
12	ウシ	ウシ	ニホンカモシカ	○		特天					準絶滅危惧				
13	ネズミ	リス	ニホンリス	○	○						準絶滅危惧		EX		
14			ホンドモモンガ	○							絶滅危惧 II 類		EX	NT	
15	ネズミ	ネズミ	スミスネズミ	○							準絶滅危惧				
16			ハタネズミ	○							準絶滅危惧		NT		
17			ホンシュウカヤネズミ	○	○							準絶滅危惧		EX	VU
18			ヤマネ	ヤマネ	○	○	天					絶滅危惧 II 類			NT
計	5 目	11 科	18 種	16 種	9 種	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種	17 種	0 種	13 種	5 種	

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。

注2. 分類、配列等は、原則として「種の多様性（動植物分布調査）対象種一覧」（平成10年、環境庁）に準拠した。

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑤「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年、神奈川県条例第13号）

県：県指定天然記念物

⑥「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」（平成12年、相模原市条例第27号）

「川崎市文化財保護条例」（昭和34年、川崎市条例第24号）

「横浜市文化財保護条例」（昭和62年、横浜市条例第53号）

「愛川町文化財保護条例」（昭和35年、愛川町条例第1号）

市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）

「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A類、EN：絶滅危惧 I B類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、

DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種

⑨「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧 I 類、絶滅危惧 I A類、絶滅危惧 I B類、絶滅危惧 II 類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

⑭「専門家等の助言により選定した種」

○：選定種

⑮東京都（区部）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A類、EN：絶滅危惧 I B類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑯東京都（南多摩）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A類、EN：絶滅危惧 I B類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

注4. 選定基準⑮、⑯は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な哺乳類の確認地点を、表 8-4-1-8 に示す。

表 8-4-1-8 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			改変の 可能性 のある 範囲	改変の可能性のある 範囲外		改変の 可能性 のある 範囲	改変の可能性のある 範囲外	
				改変の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		改変の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
1	アズマモグラ	低茎草地、 耕作地		○	○			
2	ニホンキクガシラコウ モリ	森林、河川					○	
3	ニホンコキクガシラコウ モリ	森林、河川					○	
4	モモジロコウモリ	森林、河川					○	
5	ホンドキツネ	森林、 耕作地				○	○	○
6	ホンドイタチ	耕作地、 河川、森林				○	○	○
7	ニホンリス	森林					○	○
8	ホンシュウカヤネズミ	草地				○	○	○
9	ヤマネ	森林						○

ウ) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である哺乳類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

イ. 鳥類

ア) 鳥類の状況

現地調査において18目47科128種の鳥類が確認された（「資料編19-1 動物出現種リスト」参照）。現地調査結果の概要は、表8-4-1-9に示す。

表 8-4-1-9 鳥類現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	14目35科75種	ヒヨドリ、スズメ、メジロ、ムクドリ、シジュウカラ等
繁殖期	18目42科74種	スズメ、ヒヨドリ、ツバメ、ムクドリ、シジュウカラ等
夏季	16目37科61種	ツバメ、スズメ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ムクドリ等
秋季	16目36科72種	スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ等
冬季	16目37科90種	カシラダカ、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラ等
計	18目47科128種	スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、カシラダカ、メジロ等

イ) 重要な鳥類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な鳥類は17目40科132種であった（「資料編19-1 動物出現種リスト」及び「資料編19-2 動物文献調査確認種リスト」参照）。文献及び現地で確認された重要な鳥類とその選定基準は、表8-4-1-10に示す。

表 8-4-1-10(1) 重要な鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準											
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨		⑭	⑮	⑯		
										繁殖期	非繁殖期						
1	キジ	キジ	ウズラ	○						VU		絶滅危惧Ⅱ類			CR	CR	
2			ヤマドリ	○							絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類				EN	
3			キジ		○											EN	NT
4	カモ	カモ	ヒシクイ	○		天				VU					EX		
5			マガン	○		天					NT					EX	
6			シジュウカラガン	○				国内			CR						
7			アカツクシガモ	○							DD						
8			オシドリ	○	○						DD	希少種	減少種			EN	VU
9			シマアジ	○									希少種			DD	
10			トモエガモ	○							VU		希少種			CR	CR
11	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		○									NT	NT		
12	ハト	ハト	アオバト	○	○						注目種	注目種			NT		
13	ミズナギドリ	アホウドリ	コアホウドリ	○						EN							
14	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	○						NT	絶滅危惧Ⅱ類				CR	VU	
15			オオヨシゴイ	○						CR		絶滅危惧Ⅱ類			CR		
16			ミゾゴイ	○	○					VU	絶滅危惧Ⅰ類					EN	
17			ササゴイ	○	○							絶滅危惧Ⅱ類				CR	VU
18			アマサギ	○	○							減少種					
19			ダイサギ		○											VU	NT
20			チュウサギ	○	○						NT					VU	NT
21			コサギ		○									VU	NT		
22	ツル	クイナ	クイナ	○	○							絶滅危惧Ⅱ類			DD	NT	
23			ヒクイナ	○						NT	絶滅危惧Ⅰ類				CR	EN	
24			バン		○										VU	VU	
25			オオバン		○									VU	VU		
26	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	○	○						準絶滅危惧						
27			ホトトギス		○											NT	
28			カッコウ	○	○							絶滅危惧Ⅱ類					NT

表 8-4-1-10(2) 重要な鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準														
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨		⑭	⑮	⑯					
											繁殖期	非繁殖期								
29	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○	○							NT	絶滅危惧Ⅱ類				CR			
30	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	○	○								減少種				VU NT			
31	チドリ	チドリ	タゲリ	○										絶滅危惧Ⅱ類			VU	VU		
32			ケリ	○							DD	希少種		準絶滅危惧			VU	VU		
33			ムナグロ	○										減少種			VU	VU		
34			ダイゼン	○										減少種			VU	VU		
35			イカルチドリ	○	○									準絶滅危惧	注目種		DD	VU		
36			コチドリ	○	○									注目種			VU	VU		
37			シロチドリ	○							VU		絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			VU	VU		
38			メダイチドリ	○										準絶滅危惧			NT			
39			シギ	シギ	ヤマシギ	○									希少種			VU	VU	
40					タシギ	○	○									注目種			VU	VU
41					オグロシギ	○										絶滅危惧Ⅱ類			EN	VU
42					オオソリハシシギ	○							VU			絶滅危惧Ⅱ類			EN	
43					チュウシャクシギ	○										絶滅危惧Ⅱ類			VU	VU
44					ホウロクシギ	○							VU			絶滅危惧Ⅰ類			CR	
45					ツルシギ	○							VU			準絶滅危惧			CR	DD
46					コアオアシシギ	○										準絶滅危惧			EN	
47					アオアシシギ	○										準絶滅危惧			NT	NT
48					クサシギ	○	○									準絶滅危惧			EN	VU
49	タカブシギ	○									VU			準絶滅危惧			EN	VU		
50	キアシシギ	○												絶滅危惧Ⅱ類			VU	VU		
51	ソリハシシギ	○												絶滅危惧Ⅱ類			VU	VU		
52	イソシギ	○			○									希少種	注目種		VU	VU		
53	キョウジョシギ	○												絶滅危惧Ⅱ類			VU	VU		
54	オバシギ	○												絶滅危惧Ⅱ類			EN			
55	トウネン	○												絶滅危惧Ⅱ類			NT	VU		
56	ヒバリシギ	○												準絶滅危惧			VU	VU		
57	ウズラシギ	○										準絶滅危惧			VU	VU				
58	サルハマシギ	○										絶滅危惧Ⅱ類			CR					
59	ハマシギ	○							NT			絶滅危惧Ⅱ類			NT	VU				
60	エリマキシギ	○										準絶滅危惧			CR	DD				
61	タマシギ	タマシギ	○						VU		絶滅危惧Ⅰ類	希少種			EN	EN				
62	ツバメチドリ	ツバメチドリ	○						VU											
63	カモメ	コアジサシ	○	○			国際		VU		絶滅危惧Ⅰ類				EN	EN				
64	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○				NT		絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧			EN	EN				
65		タカ	ハチクマ	○	○				NT		絶滅危惧Ⅰ類						CR			
66			トビ	○	○											NT	NT			
67			オジロワシ	○			天	国内		VU										
68			チュウヒ	○						EN			絶滅危惧Ⅱ類			EN	VU			

表 8-4-1-10(3) 重要な鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準										
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨		⑭	⑮	⑯	
											繁殖期	非繁殖期				
69	タカ	タカ	ツミ	○	○							絶滅危惧Ⅱ類	希少種		CR	VU
70			ハイタカ	○	○					NT	情報不足	希少種		EN	VU	
71			オオタカ	○	○		国内			NT	絶滅危惧Ⅱ類	希少種		CR	VU	
72			サシバ	○	○					VU	絶滅危惧Ⅰ類					CR
73			ノスリ	○	○						絶滅危惧Ⅱ類	希少種		EN	VU	
74			イヌワシ	○		天	国内			EN						
75			クマタカ	○	○		国内			EN	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類				CR
76	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	○							絶滅危惧Ⅰ類	希少種			CR	
77			コノハズク	○							絶滅危惧Ⅰ類				CR	
78			フクロウ	○	○						準絶滅危惧			CR	EN	
79			アオバズク	○	○						絶滅危惧Ⅱ類				CR	EN
80			トラフズク	○								絶滅危惧Ⅰ類			CR	EN
81			コミミズク	○	○							絶滅危惧Ⅰ類			CR	EN
82	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	○	○						絶滅危惧Ⅱ類				CR	
83			カワセミ		○									VU	NT	
84			ヤマセミ	○							希少種				VU	
85		ブッポウソウ	ブッポウソウ	○	○				EN	絶滅危惧Ⅰ類				CR		
86	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	○							絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅰ類		EN	NT	
87			アオゲラ		○										VU	
88	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○									EN	VU	
89			ハヤブサ	○	○		国内			VU	絶滅危惧Ⅰ類	希少種		EN	VU	
90	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	○		国内			EN	情報不足						
91		サンショウクイ	サンショウクイ	○	○				VU	絶滅危惧Ⅱ類				CR		
92		カササギヒタキ	サンコウチョウ	○	○					絶滅危惧Ⅱ類			EX	VU		
93		モズ	チゴモズ	○					CR	絶滅危惧Ⅰ類			EX	CR		
94			モズ	○	○					減少種			VU	NT		
95		キクイタダキ	キクイタダキ	○	○					希少種				NT		
96		シジュウカラ	コガラ	○	○					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧					
97		ヒバリ	ヒバリ	○	○					減少種			VU	VU		
98		ツバメ	ツバメ	○	○					減少種						
99			コシアカツバメ	○	○					減少種			VU	NT		
100		ウグイス	ウグイス		○										NT	
101			ヤブサメ	○	○						準絶滅危惧				VU	
102		ムシクイ	メボソムシクイ	○	○						絶滅危惧Ⅱ類					
103			エゾムシクイ	○							準絶滅危惧					
104	センダイムシクイ		○	○						準絶滅危惧				VU		
105	ヨシキリ	オオヨシキリ	○	○						絶滅危惧Ⅱ類			VU	VU		
106		コヨシキリ		○						絶滅危惧Ⅰ類			EN	NT		
107	セッカ	セッカ	○	○					減少種	減少種						
108	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○							準絶滅危惧				EN		
109	カワガラス	カワガラス	○	○					減少種	減少種			VU			
110	ヒタキ	マミジロ	○							希少種						
111		トラツグミ	○	○						減少種			VU	VU		
112		クロツグミ	○	○						絶滅危惧Ⅱ類				NT		

表 8-4-1-10(4) 重要な鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準													
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨		⑭	⑮	⑯				
											繁殖期	非繁殖期							
113	スズメ	ヒタキ	アカハラ	○	○								減少種						
114			コマドリ	○										絶滅危惧Ⅰ類					
115			コルリ	○										絶滅危惧Ⅱ類					
116			ルリビタキ	○	○									絶滅危惧Ⅱ類					
117			コサメビタキ	○	○									絶滅危惧Ⅰ類			EX	VU	
118			キビタキ	○	○									減少種					
119			オオルリ	○	○									準絶滅危惧				NT	
120			ニュウナイスズメ	○											絶滅危惧Ⅰ類				
121			セキレイ	キセキレイ	○	○									減少種				
122				セグロセキレイ	○	○									減少種			VU	NT
123	ビンズイ	○		○									絶滅危惧Ⅱ類						
124	アトリ	カワラヒワ	○	○									減少種						
125		ベニマシコ		○												VU	NT		
126		ウソ		○												NT	NT		
127	ホオジロ	ホオアカ	○										絶滅危惧Ⅰ類						
128		ノジコ	○								NT		希少種						
129		アオジ	○	○									絶滅危惧Ⅱ類						
130		クロジ	○	○									絶滅危惧Ⅰ類	減少種		NT	NT		
131		コジュリン	○									VU		絶滅危惧Ⅱ類		DD	DD		
132		オオジュリン	○	○										絶滅危惧Ⅱ類		NT	NT		
計	17目	40科	132種	117種	74種	4種	8種	0種	0種	40種	73種	57種	0種	81種	95種				

- 注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。
 文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。
- 注2. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年、日本鳥学会)に準拠した。
- 注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。
- ① 「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)
 特天：特別天然記念物、天：天然記念物
 - ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)
 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
 - ⑤ 「神奈川県文化財保護条例」(昭和30年、神奈川県条例第13号)
 県：県指定天然記念物
 - ⑥ 「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」(平成12年、相模原市条例第27号)
 「川崎市文化財保護条例」(昭和34年、川崎市条例第24号)
 「横浜市文化財保護条例」(昭和62年、横浜市条例第53号)
 「愛川町文化財保護条例」(昭和35年、愛川町条例第1号)
 市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
 - ⑧ 「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」(平成24年、環境省)
 「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成25年、環境省)
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
 - ⑨ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)
 絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群
 - ⑭ 「専門家等の助言により選定した種」
 ○：選定種
 - ⑮ 東京都(区部)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
 - ⑯ 東京都(南多摩)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- 注4. 選定基準⑮、⑯は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な鳥類の確認地点を、表 8-4-1-11 に示す。

表 8-4-1-11(1) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
1	キジ	耕作地、 草地	○	○	○			
2	オシドリ	河川、池						○
3	カイツブリ	河川、池		○	○			
4	アオバト	森林				○	○	○
5	ミズゴイ	森林、水辺				○	○	○
6	ササゴイ	水辺						○
7	アマサギ	水辺			○			○
8	ダイサギ	水辺		○	○			
9	チュウサギ	水辺		○				
10	コサギ	水辺		○	○			
11	クイナ	水辺		○				○
12	バン	水辺		○	○			
13	オオバン	水辺		○	○			
14	ジュウイチ	森林						○
15	ホトトギス	森林、畑地		○				
16	カッコウ	森林、草原、 河川敷					○	
17	ヨタカ	森林					○	
18	ヒメアマツバメ	市街地、 陵地	○	○	○	○	○	○
19	イカルチドリ	河川敷		○			○	○
20	コチドリ	河川敷		○	○			○
21	タシギ	水辺（河川）			○			○
22	クサシギ	河川敷					○	○
23	イソシギ	河川敷	○	○	○		○	○
24	コアジサシ	河川		○	○			
25	ミサゴ	森林、河川、 湖沼		○	○	○	○	○
26	ハチクマ	森林				○	○	○
27	トビ	河川周辺		○	○			
28	ツミ	森林	○	○	○	○	○	○
29	ハイタカ	森林、 農耕地	○	○	○	○	○	○
30	オオタカ	森林	○	○	○	○	○	○
31	サシバ	森林				○	○	○
32	ノスリ	森林	○	○	○	○	○	○

表 8-4-1-11(2) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
33	クマタカ	森林				○	○	○
34	フクロウ	森林			○	○	○	○
35	アオバズク	森林				○		
36	コムミズク	河川敷、 農耕地		○				
37	アカショウビン	森林、水辺						○
38	カワセミ	河川		○	○			
39	ブッポウソウ	森林					○	
40	アオゲラ	森林		○	○			
41	チョウゲンボウ	河川敷、 農耕地		○	○			
42	ハヤブサ	森林、断崖	○	○	○	○	○	○
43	サンショウクイ	森林				○	○	○
44	サンコウチョウ	森林		○		○	○	○
45	モズ	林縁、 耕作地	○	○	○	○	○	○
46	キクイタダキ	森林	○			○	○	○
47	コガラ	森林				○	○	○
48	ヒバリ	草地、畑地			○			○
49	ツバメ	河川敷、 市街地	○	○	○	○	○	○
50	コシアカツバメ	河川敷、 草地						○
51	ウグイス	林縁、藪	○	○	○			
52	ヤブサメ	森林				○	○	○
53	メボソムシクイ	森林			○		○	
54	センダイムシクイ	森林				○	○	○
55	オオヨシキリ	河川敷、 草地		○	○			
56	コヨシキリ	草地						○
57	セッカ	草地	○	○	○		○	○
58	カワガラス	河川周辺					○	○
59	トラツグミ	森林				○		
60	クロツグミ	森林				○	○	○
61	アカハラ	森林		○				○
62	ルリビタキ	森林				○	○	○
63	コサメビタキ	森林			○		○	○
64	キビタキ	森林		○		○	○	○
65	オオルリ	森林				○	○	○
66	キセキレイ	水辺		○	○	○	○	○
67	セグロセキレイ	水辺		○	○	○	○	○
68	ビンズイ	森林				○	○	○

表 8-4-1-11 (3) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
69	カワラヒワ	森林、 農耕地	○	○	○	○	○	○
70	ベニマシコ	森林、 農耕地		○				
71	ウソ	森林		○	○			
72	アオジ	森林、草地	○	○	○	○	○	○
73	クロジ	森林			○	○	○	○
74	オオジュリン	湿地、草地		○				

ウ) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である鳥類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

ウ. 爬虫類

7) 爬虫類の状況

現地調査において2目8科15種の爬虫類が確認された（「資料編 19-1 動物出現種リスト」参照）。現地調査結果の概要は、表 8-4-1-12 に示す。

表 8-4-1-12 爬虫類現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	2目7科13種	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリ、アオダイショウ、シマヘビ等
夏季	2目6科10種	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリ、ヤマカガシ、シマヘビ等
秋季	2目7科12種	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリ、シマヘビ、アオダイショウ等
計	2目8科15種	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリ、ヤマカガシ、アオダイショウ、シマヘビ等

4) 重要な爬虫類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な爬虫類は2目7科10種であった（「資料編 19-1 動物出現種リスト」及び「資料編 19-2 動物文献調査確認種リスト」参照）。文献及び現地で確認された重要な爬虫類とその選定基準は、表 8-4-1-13 に示す。

表 8-4-1-13 重要な爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準									
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	○							NT	絶滅危惧I類		CR	CR+EN
2		スッポン	ニホンスッポン	○	○						DD			CR+EN	CR+EN
3	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ		○									VU	*
4		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○							要注意種		CR+EN	VU
5		カナヘビ	ニホンカナヘビ		○									VU	NT
6		ナミヘビ	アオダイショウ	○	○							要注意種		NT	NT
7			シマヘビ	○	○							要注意種		CR	NT
8			ヒバカリ		○							準絶滅危惧		VU	NT
9			ヤマカガシ	○	○							要注意種		CR	VU
10		クサリヘビ	ニホンマムシ	○	○							要注意種		CR	CR+EN
計	2目	7科	10種	7種	9種	0種	0種	0種	0種	2種	7種	0種	10種	10種	

- 注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。
文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。
- 注2. 分類、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。
- 注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。
- ①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
 - ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
 - ⑤「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年、神奈川県条例第13号）
県：県指定天然記念物
 - ⑥「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」（平成12年、相模原市条例第27号）
「川崎市文化財保護条例」（昭和34年、川崎市条例第24号）
「横浜市文化財保護条例」（昭和62年、横浜市条例第53号）
「愛川町文化財保護条例」（昭和35年、愛川町条例第1号）
市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
 - ⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）
「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
 - ⑨「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群
 - ⑭「専門家等の助言により選定した種」
○：選定種
 - ⑮東京都（区部）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
 - ⑯東京都（南多摩）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- 注4. 選定基準⑮、⑯は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な爬虫類の確認地点を、表 8-4-1-14 に示す。

表 8-4-1-14 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
1	ニホンスッポン	河川、池			○			
2	ニホンヤモリ	市街地		○	○			
3	ヒガシニホントカゲ	草地	○	○	○	○	○	○
4	ニホンカナヘビ	草地		○	○			
5	アオダイショウ	草地、森林		○	○	○	○	○
6	シマヘビ	草地、水辺、 耕作地		○	○	○	○	○
7	ヒバカリ	湿地、 森林、草地			○		○	○
8	ヤマカガシ	草地、森林、 水辺			○		○	○
9	ニホンマムシ	森林、草地				○	○	

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である爬虫類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

エ. 両生類

ア) 両生類の状況

現地調査において2目5科10種の両生類が確認された（「資料編 19-1 動物出現種リスト」参照）。現地調査結果の概要は、表 8-4-1-15 に示す。

表 8-4-1-15 両生類現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
早春季	2目5科6種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、カジカガエル等
春季	2目5科10種	アカハライモリ、アズマヒキガエル、ツチガエル、ヤマアカガエル等
夏季	2目5科9種	アカハライモリ、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル等
秋季	2目4科8種	アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ツチガエル、ヤマアカガエル等
冬季	1目1科1種	ヤマアカガエル
計	2目5科10種	アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル等

イ) 重要な両生類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な両生類は2目6科11種であった（「資料編 19-1 動物出現種リスト」及び「資料編 19-2 動物文献調査確認種リスト」参照）。文献及び現地地で確認された重要な両生類とその選定基準は、表 8-4-1-16 に示す。

表 8-4-1-16(1) 重要な両生類確認種一覧

No	目名	科名	種名	確認状況		選定基準										
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯		
1	有尾	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ	○							NT	絶滅危惧Ⅱ類			EN	
2		イモリ	アカハライモリ	○	○						NT	絶滅危惧Ⅰ類		CR	EN	
3	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○							要注意種		NT		
4		アマガエル	ニホンアマガエル		○									EN	VU	
5		アカガエル	トウキョウダルマガエル		○							NT	絶滅危惧Ⅱ類	○	CR	EN
6			ツチガエル		○	○							要注意種		CR	CR
7			ニホンアカガエル		○									絶滅危惧Ⅱ類		EN

表 8-4-1-16(2) 重要な両生類確認種一覧

No	目名	科名	種名	確認状況		選定基準									
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	
8	無尾	アカガエル	ナガレタゴガエル	○								希少種			VU
9		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○	○							要注意種		CR	VU
10			モリアオガエル	○	○							要注意種			NT
11			カジカガエル		○								○		VU
計	2目	6科	11種	9種	7種	0種	0種	0種	0種	3種	8種	3種	7種	10種	

- 注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。
文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。
- 注2. 分類、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成24年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。
- 注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。
- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
 - ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
 - ⑤ 「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年、神奈川県条例第13号）
県：県指定天然記念物
 - ⑥ 「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」（平成12年、相模原市条例第27号）
「川崎市文化財保護条例」（昭和34年、川崎市条例第24号）
「横浜市文化財保護条例」（昭和62年、横浜市条例第53号）
「愛川町文化財保護条例」（昭和35年、愛川町条例第1号）
市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
 - ⑧ 「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）
「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
 - ⑨ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群
 - ⑭ 「専門家等の助言により選定した種」
○：選定種
 - ⑮ 東京都（区部）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
 - ⑯ 東京都（南多摩）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- 注4. 選定基準⑮、⑯は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な両生類の確認地点を、表 8-4-1-17 に示す。

表 8-4-1-17 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
1	アカハライモリ	水辺、森林				○	○	○
2	アズマヒキガエル	水辺、森林		○	○	○	○	○
3	ニホンアマガエル	水辺		○	○			
4	ツチガエル	水辺				○	○	○
5	シュレーゲルアオガエル	水辺		○	○	○	○	○
6	モリアオガエル	水辺、森林				○	○	○
7	カジカガエル	河川				○	○	○

ウ) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である両生類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

オ. 昆虫類

7) 昆虫類の状況

現地調査において20目262科1310種の昆虫類が確認された（「資料編 19-1 動物出現種リスト」参照）。現地調査結果の概要は、表 8-4-1-18 に示す。

表 8-4-1-18 昆虫類現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	18目182科692種	ナミテントウ、チャバネアオカメムシ、ツマグロオオヨコバイ、ナナホシテントウ、マルカメムシ等
夏季	19目196科772種	アミメアリ、ヤマトシジミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ等
秋季	17目166科518種	ツマグロオオヨコバイ、マルカメムシ、ツマグロキンバエ、ヤマトシジミ、モリオカメコオロギ等
計	20目262科1310種	ナミテントウ、アミメアリ、ツマグロオオヨコバイ、チャバネアオカメムシ、ヤマトシジミ、マルカメムシ等

1) 重要な昆虫類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な昆虫類は11目89科310種であった（「資料編 19-1 動物出現種リスト」及び「資料編 19-2 動物文献調査確認種リスト」参照）。現地で確認された重要な昆虫類とその選定基準は、表 8-4-1-19 に示す。

表 8-4-1-19(1) 重要な昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準											
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	⑰		
1	カゲロウ	ガガンボカゲロウ	ガガンボカゲロウ	○								注目種					
2		マダラカゲロウ	チェルノバマダラカゲロウ	○								希少種					
3			イシワタマダラカゲロウ	○	○								情報不足 B				
4	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ	○	○							情報不足					
5			キイトトンボ	○									絶滅危惧 IB類	EN	NT	EN	
6			ヒズマイトトンボ	○						EN			絶滅	CR		CR	
7			モートンイトトンボ	○						NT			絶滅危惧 IB類	EX	CR	CR	
8			クロイトトンボ	○	○								要注意種				
9			セスジイトトンボ	○									要注意種		CR		EN
10			オオセスジイトトンボ	○							EN		絶滅		CR		CR
11			オオイトトンボ	○									絶滅危惧 IA類		CR	EN	EN
12			モノサシトンボ	モノサシトンボ	○								準絶滅危惧		DD	DD	DD
13				オオモノサシトンボ	○						EN		絶滅		CR		CR
14		アオイトトンボ	ホソミオツネイトトンボ	○								要注意種		NT	NT	NT	
15			オツネイトトンボ	○									絶滅危惧 II類		EN	NT	VU
16		カワトンボ	ハグロトンボ	○	○							要注意種			VU		
17			アオハダトンボ	○						NT		絶滅危惧 II類		EX	EN	EN	
18	ニホンカワトンボ		○	○								準絶滅危惧		EX	VU	EN	
19	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	○								絶滅危惧 II類			EN	EN		
20	サナエトンボ	ヤマサナエ	○	○							要注意種			EX	VU	EN	

表 8-4-1-19(2) 重要な昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準														
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	⑰					
21	トンボ	サナエトンボ	キイロサナエ	○							NT	絶滅危惧IA類		EX	CR	CR				
22			ホンサナエ	○									絶滅危惧II類		CR	NT	VU			
23			アオサナエ	○										絶滅危惧IA類		EX	VU	VU		
24			オナガサナエ		○											NT				
25			ヒメサナエ	○	○									情報不足		EX				
26			コサナエ	○										絶滅危惧IB類		CR	CR	CR		
27		ヤンマ		ネアカヨシヤンマ	○							NT	絶滅危惧IA類		CR	DD	CR			
28				オオルリボシヤンマ	○	○								準絶滅危惧			DD	DD		
29				コシボソヤンマ	○	○								要注意種		EX	VU	EN		
30				カトリヤンマ	○									準絶滅危惧		CR	VU	EN		
31				サラサヤンマ	○									絶滅危惧IB類		CR	EN	EN		
32				ミルンヤンマ	○	○								要注意種		DD				
33				エゾトンボ		コヤマトンボ	○	○							準絶滅危惧		DD	NT	NT	
34						タカネトンボ	○	○								要注意種				
35						コフキトンボ	○	○								要注意種				
36						ヨツボシトンボ	○									絶滅危惧II類		EN	VU	EN
37		ハラビロトンボ	○											要注意種		VU	NT	NT		
38				シオヤトンボ	○	○							要注意種		VU		NT			
39				チョウトンボ	○									絶滅危惧IB類		NT	NT	NT		
40				キトンボ	○									絶滅		EX	EX	EX		
41				ナツアカネ	○	○								要注意種						
42				マユタテアカネ	○	○								要注意種						
43				マイコアカネ	○									情報不足		NT	DD	VU		
44				ヒメアカネ	○	○								要注意種		DD	NT	VU		
45				ミヤマアカネ	○	○								準絶滅危惧		VU				
46	リスアカネ			○	○								要注意種		NT					
47					オオキトンボ	○							EN	絶滅		EX		EX		
48	カワゲラ		トワダカワゲラ	○								希少種								
49			カワゲラ	○									希少種							
50	バッタ	キリギリス	ヒガシキリギリス	○	○							要注意種								
51			オナガササキリ	○	○								要注意種							
52			イズササキリ	○									DD							
54		ササキリモド		ササキリモドキ	○	○							希少種							
53				クツワムシ	○									要注意種		CR	CR	CR		
55		マツムシ		マツムシ	○								要注意種		CR	CR	CR			
56				カヤコオロギ	○	○								絶滅危惧II類		DD		DD		
57				スズムシ	○									要注意種						
58				ヒロバネカントン	○	○								準絶滅危惧		DD		DD		
59		ケラ		ケラ	○	○						要注意種								
60		ヒシバッタ		ヒシバッタ	○								希少種							
61		バッタ		ハネナガイナゴ	○								準絶滅危惧							
62				セグロイナゴ	○									準絶滅危惧		CR	CR	CR		
63				ショウリョウバッタモドキ	○	○								要注意種		VU	VU	VU		
64	カワラバッタ			○									絶滅危惧I類		EX	CR	CR			
65	イナゴモドキ			○									準絶滅危惧		EX	CR	CR			
66	ツマグロバッタ			○									準絶滅危惧		DD		DD			
67	カメムシ	セミ	ハルゼミ	○	○							要注意種		EX	EN	EN				
68			チツゼミ	○									情報不足			DD	DD			
69		アメンボ		オオアメンボ	○	○							準絶滅危惧		CR					
70				エサキアメンボ		○							NT	絶滅危惧IA類		DD		DD		

表 8-4-1-19(3) 重要な昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準										
				文献	現地	(1)	(2)	(5)	(6)	(8)	(9)	(14)	(15)	(16)	(17)	
71	カメムシ	コオイムシ	コオイムシ	○	○						NT	絶滅危惧IB類		CR	EN	CR
72			タガメ	○						VU	絶滅		EX	EX	EX	
73		ミズムシ	コミズムシ	○								情報不足				
74			エサキコミズムシ		○							情報不足				
75			アサヒナコミズムシ		○							情報不足				
-			Sigara属の一種	○	○								情報不足			
76		グンバイムシ	ヤブガラシグンバイ	○								情報不足				
77		サシガメ	アカヘリサシガメ	○	○							情報不足				
78			アシボソトビロサシガメ	○						NT						
79			オオアシナガサシガメ	○						NT						
80		ヘリカメムシ	ミナミトゲヘリカメムシ	○								情報不足				
81		カメムシ	ヒメナガメ	○	○							絶滅危惧II類				
82		ツノカメムシ	フトハサミツノカメムシ	○								情報不足				
83		アミメカゲロウ	ツノトンボ	キバネツノトンボ	○							絶滅危惧I類				DD
84		コウチュウ	カワラゴミムシ	カワラゴミムシ	○							絶滅危惧II類		CR	EN	EN
85	ハンミョウ			ホソハンミョウ	○						VU	絶滅危惧I類		CR	EN	CR
86			カワラハンミョウ	○						EN	絶滅		EX		EX	
87	オサムシ		ホソアカガネオサムシ	ホソアカガネオサムシ	○							絶滅危惧II類				
88				セアカオサムシ	○						NT	要注意種				DD
89			タンザワアルマンオサムシ	○								注目種				
90			キベリマルクビゴミムシ	○							EN	絶滅危惧I類				CR
91			クロヒメヒョウタンゴミムシ	○								準絶滅危惧				
92			アシグロチビヒョウタンゴミムシ	○								準絶滅危惧				
93			コチビヒョウタンゴミムシ	○								準絶滅危惧				
94			ホソチビヒョウタンゴミムシ	○								情報不足B		DD	DD	DD
95			オサムシモドキ	○								絶滅危惧II類		VU		NT
96			フタバシチビゴミムシ	○								準絶滅危惧				
97			タカオチビゴミムシ	○								情報不足B				
98			ヨウザワメクラチビゴミムシ	○								注目種				
99			ニシタンザワメクラチビゴミムシ	○								注目種				
100	アオヘリミズギワゴミムシ		○								準絶滅危惧		NT		NT	
101	ウメヤルリミズギワゴミムシ		○								情報不足B					
102	アトモンコミズギワゴミムシ		○	○							準絶滅危惧		DD		DD	
103	ヒロムネナガゴミムシ		○								準絶滅危惧					
104	オオナガゴミムシ	○								準絶滅危惧		NT				
105	コホソナガゴミムシ	○								準絶滅危惧						
106	ニッコウオオズナガゴミムシ	○								注目種						
107	ヤツオオナガゴミムシ	○								注目種						
108	オオキンナガゴミムシ	○								準絶滅危惧						
109	アシミゾナガゴミムシ	○								準絶滅危惧						
110	アシミゾヒメヒラタゴミムシ	○								準絶滅危惧		EN	VU	VU		

表 8-4-1-19(4) 重要な昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準										
				文献	現地	(1)	(2)	(5)	(6)	(8)	(9)	(14)	(15)	(16)	(17)	
111	コウチュウ	オサムシ	キアシツヤヒラタゴミムシ	○								準絶滅危惧		NT		NT
112			チョウセンゴモクムシ	○						VU	準絶滅危惧		CR		NT	
113			キュウシュウツヤゴモクムシ	○								準絶滅危惧		VU		
114			セグロマメゴモクムシ	○								準絶滅危惧				
115			クロズカタキバゴミムシ	○								準絶滅危惧				
116			ヨツモンカタキバゴミムシ	○								準絶滅危惧				
117			オオヨツボシゴミムシ	○								絶滅危惧II類		EN	NT	VU
118			ヨツボシゴミムシ	○								準絶滅危惧		VU	NT	NT
119			クロケブカゴミムシ	○								準絶滅危惧				
120			アカガネアオゴミムシ	○	○							準絶滅危惧		VU	NT	NT
121			ヒトツメアオゴミムシ	○							NT	絶滅				
122			コアトワアオゴミムシ	○								準絶滅危惧		VU	DD	VU
123			オオトックリゴミムシ	○							NT	準絶滅危惧				
124			オオヒラタトックリゴミムシ	○							CR	絶滅			EX	EX
125			フタモンクビナガゴミムシ	○								情報不足B		NT	NT	NT
126			ダイミョウアトクリゴミムシ	○								情報不足B				
127			アリスアトクリゴミムシ	○							DD	要注意種				
128			クロサヒラタアトクリゴミムシ	○								要注意種				
129			オオアオホソゴミムシ	○								絶滅危惧I類			CR	CR
130			ホソクビゴミムシ	アオバネホソクビゴミムシ	○							絶滅危惧II類				
131			コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ	○						DD					
132				コガシラミズムシ	○	○						絶滅危惧IB類				
133			ゲンゴロウ	キボシケシゲンゴロウ	○						DD	絶滅危惧IB類				
134				コマルケシゲンゴロウ	○						NT					
135				ケシゲンゴロウ	○						NT	絶滅危惧IA類				
136				チャイロシマチビゲンゴロウ	○							絶滅				
137				コシマチビゲンゴロウ	○						VU	不明種				
138				ツブゲンゴロウ	○							絶滅				
139				シャープツブゲンゴロウ	○						NT	絶滅				
140				セスジゲンゴロウ	○							絶滅危惧II類				
141	クロズマメゲンゴロウ	○								絶滅危惧II類						
142	キバリマメゲンゴロウ	○		○					NT							
143	マルガタゲンゴロウ	○							VU	絶滅危惧IA類		EX	EX	EX		
144	クロゲンゴロウ	○							NT	絶滅危惧IA類		EX		CR		
145	ゲンゴロウ	○							VU	絶滅		EX	EX	EX		
146	コガタノゲンゴロウ	○							VU	絶滅		EX	EX	EX		
147	シマゲンゴロウ	○							NT	絶滅危惧IB類		EX	CR	CR		
148	ミズスマシ	オオミズスマシ		○						NT	絶滅危惧IA類		EN		CR	
149		ツマキレオナガミズスマシ		○	○					VU	準絶滅危惧					
150		コオナガミズスマシ	○	○					VU	準絶滅危惧						

表 8-4-1-19(5) 重要な昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準										
				文献	現地	(1)	(2)	(5)	(6)	(8)	(9)	(14)	(15)	(16)	(17)	
151	コウチュウ	ミズスマシ	コミズスマシ	○							EN	絶滅危惧II類		EX		DD
152			ミズスマシ	○	○						VU	準絶滅危惧		CR	VU	VU
153		ツブミズムシ	クロサワツブミズムシ	○								絶滅危惧I類				
154		ガムシ	チビヒラタガムシ	○								情報不足				
155			マルヒラタガムシ	○							NT	情報不足				
156			シジミガムシ	○							EN					
157			コガムシ	○							DD	準絶滅危惧		EN	NT	NT
158			ガムシ	○							NT	絶滅危惧IA類		EX	EN	EN
159			タマガムシ	○								絶滅危惧IB類				
160		エンマムシ	ヤマハマベエンマムシ	○								絶滅危惧II類				
161			ドウガネエンマムシ	○								絶滅危惧I類				
162			ルリエンマムシ	○								絶滅危惧II類				
163		シデムシ	ヤマトモンシデムシ	○							NT	絶滅危惧II類				
164			ヒメヒラタシデムシ	○								絶滅危惧II類				
165		デオキノコムシ	チュウジョウデオキノコムシ	○								絶滅危惧I類				
166		タマキノコムシモドキ	ミフシタマキノコムシモドキ	○								準絶滅危惧				
167		クワガタムシ	チビクワガタ	○								希少種				
168			ヒラタクワガタ	○								絶滅危惧II類		VU	NT	NT
169			ミヤマクワガタ	○	○								要注意種			NT
170		センチコガネ	ムネアカセンチコガネ	○	○							準絶滅危惧				
171	コガネムシ	アカマダラセンチコガネ	○	○							準絶滅危惧					
172		ナガスネエンマコガネ	○								絶滅危惧I類					
173		ダルママグソコガネ	○							DD	準絶滅危惧					
174		ヤマトケシマグソコガネ	○								準絶滅危惧		DD		DD	
175		ヒゲコガネ	○	○								絶滅危惧II類		VU	VU	VU
176		ツヤチャイロコガネ	○									情報不足A				
177		オオチャイロハナムグリ	○							NT	絶滅危惧II類					
178		アカマダラコガネ	○							DD	準絶滅危惧		EX	*	*	
179		シラホシハナムグリ	○									絶滅		EX		CR
180		ムラサキツヤハナムグリ	○									絶滅危惧II類				
181	ヒメドロムシ	ケスジドロムシ	○							VU	絶滅危惧II類					
182	タマムシ	ウバタマムシ	○								準絶滅危惧		CR	NT	NT	
183		ヤマトタマムシ	○	○							要注意種		NT			
184		クロチビタマムシ	○								絶滅危惧I類					
185	コメツキムシ	ウバタマコメツキ	○								準絶滅危惧		CR	NT	VU	
186	ホタル	ヒメボタル	○	○							準絶滅危惧					
187		ヘイケボタル	○	○							準絶滅危惧		EN	NT	NT	
188		スジグロボタル	○									準絶滅危惧				
189	ジョウカイボン	キイロジョウカイ	○								希少種					
190	ジョウカイモドキ	キムネヒメジョウカイモドキ	○								準絶滅危惧					

表 8-4-1-19(6) 重要な昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準											
				文献	現地	(1)	(2)	(5)	(6)	(8)	(9)	(14)	(15)	(16)	(17)		
191	コウチュウ	ケシキスイ	オオキマダラケシキスイ	○								絶滅危惧I類					
192			ヒメハナムシ	○									準絶滅危惧				
193			ヒラタムシ	○									絶滅危惧II類				
194			オオキノコムシ	○									情報不足B				
195			ツツキノコムシ	○									絶滅危惧II類				
196			アカハネムシ	○									準絶滅危惧				
197			ツチハンミョウ	○									要注意種				
198			ゴミムシ	○									絶滅危惧II類				
199			カミキリムシ	○									情報不足B		EX	EX	VU
200				○									絶滅危惧II類		NT	NT	NT
201				○									情報不足B				
202				○									絶滅危惧I類				
203				○									準絶滅危惧		EX	NT	NT
204				○									絶滅危惧I類				
205				○									準絶滅危惧			NT	NT
206				○									準絶滅危惧				
207				○									絶滅危惧II類		EX	VU	EN
208				○									準絶滅危惧		VU		NT
209				○							EN		絶滅危惧I類		EX	CR	CR
210				○									準絶滅危惧		CR	NT	NT
211				○									準絶滅危惧				
212				○									絶滅危惧II類		CR	VU	VU
213				○	○								要注意種		CR		NT
214				○									希少種				
215				○									要注意種		EN	NT	NT
216				○									準絶滅危惧		VU		NT
217				○									絶滅危惧II類		CR	VU	VU
218				○	○								要注意種		EN	NT	NT
219				○									準絶滅危惧		EN	NT	NT
220				○									絶滅危惧II類			VU	VU
221		○									絶滅危惧II類						
222		○									絶滅危惧II類		EX	VU	EN		
223	ハムシ	○									絶滅危惧II類						
224		○	○								準絶滅危惧						
225		○										絶滅危惧I類					
226		○										準絶滅危惧					
227		○										準絶滅危惧					
228		○										絶滅危惧I類					
229		○										絶滅危惧II類					
230		○										絶滅		CR		CR	

表 8-4-1-19(7) 重要な昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準										
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	⑰	
231	コウチュウ	ハムシ	ヤナギハムシ	○								絶滅危惧Ⅱ類		EX		EN
232			クロセスジハムシ	○								絶滅危惧Ⅱ類				
233			スジカミナリハムシ	○								情報不足B				
234		ゾウムシ	フタホシカギアシゾウムシ	○								準絶滅危惧				
235	ハチ	ヤドリキバチ	トサヤドリキバチ	○						DD						
236		ヒメバチ	ミズバチ		○					DD						
237			コンボウアメバチ	○							絶滅危惧Ⅱ類					
238		セイボウ	オオセイボウ	○						DD						
239		アリ	エゾアカヤマアリ	○							VU					
240			トゲアリ	○	○						VU					
241		ベッコウバチ	アオスジベッコウ	○							DD					
242		ハキリバチ	ヤマトハキリバチ	○								絶滅危惧Ⅰ類				
243			ルリモンハナバチ	○							DD					
244			ナガマルハナバチ	○							DD					
245		ハエ	ハルカ	ハマダラハルカ	○						DD				*	*
246			アブ	ウシアブ	○							情報不足				
247	ハナアブ		ミツオビヒゲナガハナアブ	○								情報不足				
248			ニトベベッコウハナアブ	○								情報不足				
249			カワムラモモトハナアブ	○								希少種				
250			ケブカハチモドキハナアブ	○								注目種				
251			ヒメハチモドキハナアブ	○								情報不足				
252	ミバエ		ツマモンハススジハマダラミバエ	○								注目種				
253	トビケラ	ナガレトビケラ	オオナガレトビケラ	○						NT						
254		エグリトビケラ	トチギミヤマトビケラ	○							希少種					
255	チョウ	ミノガ	オオミノガ	○	○						絶滅危惧Ⅱ類					
256		マダラガ	ルリイロスカシクロバ	○							絶滅危惧Ⅱ類					
257		セセリモドキガ	ニホンセセリモドキ	○							絶滅危惧Ⅰ類					
258		セセリチョウ	アオバセセリ	○	○							要注意種				
259			ギンイチモンジセセリ	○						NT		準絶滅危惧				
260			ホシチャバネセセリ	○						EN		絶滅危惧ⅠA類			EX	
261			ホソバセセリ	○	○							絶滅危惧Ⅱ類	EX	*	*	
262			ヘリグロチャバネセセリ	○								絶滅危惧ⅠB類				
263			コキマダラセセリ	○								絶滅危惧Ⅱ類		EX	DD	
264			オオチャバネセセリ	○	○							絶滅危惧Ⅱ類				
265			ミヤマチャバネセセリ	○								要注意種				
266		アゲハチョウ	ギフチョウ	○	○			県		VU		絶滅危惧ⅠB類		EX	EX	
267		シロチョウ	ヒメシロチョウ	○						EN		絶滅危惧ⅠB類	EX	EX	EX	
268				ツマグロキチョウ	○					EN		絶滅	EX	EX	EX	
269			スジボソヤマキチョウ	○							準絶滅危惧					
270			ヤマキチョウ	○					EN		絶滅危惧ⅠA類					
271	シジミチョウ	ムモンアカシジミ	○								情報不足B		DD	DD		
272			ウラクロシジミ	○							希少種					
273			ダイセンシジミ	○							希少種		DD	DD		
274			オナガシジミ	○							希少種					
275			ウスイロオナガシジミ	○							絶滅危惧Ⅱ類		VU	VU		

表 8-4-1-19(8) 重要な昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準													
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	⑰				
276	チョウ	シジミチョウ	ミドリシジミ	○								準絶滅危惧		DD	*	*			
277			ハヤシミドリシジミ	○									絶滅危惧II類			VU	VU		
278			カラスシジミ	○	○								希少種				NT	NT	
279			キマダラルリツバメ	○							NT		絶滅危惧IB類						
280			クロシジミ	○							EN		絶滅		EX	EX	EX	EX	
281			シルビアシジミ	○							EN		絶滅危惧IA類		EX	EX	EX	EX	
282			クロツバメシジミ	○							NT		絶滅危惧IA類						
283			ミヤマシジミ	○							EN		絶滅		EX	EX	EX	EX	
284			アサマシジミ	○							EN		絶滅				EX	EX	
285			タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン	ウラギンスジヒョウモン	○						VU	絶滅危惧IB類		EX	CR+EN	CR+EN	CR+EN	
286		オオウラギンスジヒョウモン			○	○							準絶滅危惧		DD				
287		クモガタヒョウモン			○	○							絶滅危惧IB類		EX				
288		オオウラギンヒョウモン			○							CR		絶滅		EX	EX	EX	EX
289		ウラギンヒョウモン			○									絶滅危惧II類		CR+EN	CR+EN	DD	DD
290		アサマイチモンジ			○									絶滅危惧II類		EX	EX	EX	EX
291		ホシミスジ			○									絶滅危惧IB類				VU	
292		オオミスジ			○									絶滅危惧IA類		EX	EX	DD	DD
293		シータテハ			○									絶滅危惧II類					
294		クジャクチョウ			○									絶滅危惧II類					
295		スミナガシ	○									要注意種							
296		コムラサキ	○	○								絶滅危惧IB類		*					
297		オオムラサキ	○	○						NT		準絶滅危惧		EX					
298		ジャノメチョウ	ツマジロウラジャノメ	○								要注意種							
299		シャクガ	ギフウスキナミシャク	○								希少種							
300	サザナミフユナミシャク		○								絶滅危惧II類								
301	イツスジエダシャク		○									情報不足B							
302	フチグロトゲエダシャク		○									希少種							
303	ヤマユガ	オナガミズアオ	○						NT										
304	ヒトリガ	ヤネホソバ	○						NT										
305	ヤガ	ウスミモンキリガ	○						NT										
306		シロミハイイロヨトウ	○									情報不足A							
307		オオチャバネヨトウ	○							VU		絶滅危惧I類							
308		コシロシタバ	○							NT									
309		ナミグルマアツバ	○									準絶滅危惧							
310		カギモンハナオイアツバ	○	○						NT									
計	11目	89科	310種	304種	66種	0種	0種	1種	0種	81種	287種	0種	119種	97種	125種				

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。

注2. 分類、配列等は原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物II」（平成7年、環境庁）に準拠した。

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑤「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年、神奈川県条例第13号）

県：県指定天然記念物

⑥「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」（平成12年、相模原市条例第27号）

「川崎市文化財保護条例」（昭和34年、川崎市条例第24号）

「横浜市文化財保護条例」(昭和62年、横浜市条例第53号)

「愛川町文化財保護条例」(昭和35年、愛川町条例第1号)

市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物

- ⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」(平成24年、環境省)

「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成25年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種

- ⑨「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

- ⑭「専門家等の助言により選定した種」

○：選定種

- ⑮東京都(区部)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

- ⑯東京都(南多摩)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

- ⑰東京都(本土部)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

注4. 重要な昆虫類には底生動物調査で確認された重要な昆虫類を含む。

注5. 選定基準⑮、⑯、⑰は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な昆虫類の確認地点を、表 8-4-1-20 に示す。

表 8-4-1-20(1) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外		変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外	
変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	変更の可能性のある範囲の近傍		相当離れた地域				
1	イシワタマダラカゲロウ	河川		○			○	○
2	ホソミイトトンボ	池、湿地						○
3	クロイトトンボ	池、湿地						○
4	ハグロトンボ	水辺(河川)		○	○			○
5	ニホンカワトンボ	水辺(河川)				○		○
6	ヤマサナエ	水辺(河川)				○	○	
7	オナガサナエ	水辺(河川)			○			
8	ヒメサナエ	水辺(河川)		○		○	○	○
9	オオルリボシヤンマ	水辺(池、湿地)						○
10	コシボソヤンマ	水辺(河川)			○	○	○	○
11	ミルンヤンマ	水辺(河川)				○	○	○
12	コヤマトンボ	水辺(河川)		○		○	○	○

表 8-4-1-20(2) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
13	タカネトンボ	水辺 (池、湿地)					○	○
14	コフキトンボ	水辺 (池、湿地)			○			
15	シオヤトンボ	水辺 (池、湿地)			○	○	○	○
16	ナツアカネ	水辺 (池、湿地)				○	○	○
17	マユタテアカネ	水辺 (池、湿地)				○	○	○
18	ヒメアカネ	水辺(湿地)				○	○	○
19	ミヤマアカネ	水辺 (池、湿地)			○	○	○	○
20	リスアカネ	水辺 (池、湿地)						○
21	ヒガシキリギリス	草地		○		○	○	
22	オナガササキリ	草地		○	○	○	○	○
23	ササキリモドキ	森林					○	
24	カヤコオロギ	草地				○	○	○
25	ヒロバネカントアン	草地		○				
26	ケラ	耕作地、 河川敷		○	○			○
27	ショウリョウバッタモドキ	草地		○	○			
28	ハルゼミ	森林					○	
29	オオアメンボ	水辺 (河川、池)				○		○
30	エサキアメンボ	水辺 (河川、池)					○	
31	コオイムシ	水辺 (河川、 池、湿地)				○	○	○
32	エサキコミズムシ	水辺 (河川、池)				○	○	○
33	アサヒナコミズムシ	水辺(池)						○
34	Sigara属の一種	水辺(池)						○
35	アカヘリサシガメ	森林						○
36	ヒメナガメ	草地		○		○		○
37	アトモンコミズギワゴミ ムシ	草地		○				

表 8-4-1-20(3) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
38	アカガネアオゴミムシ	草地、 耕作地					○	
39	コガシラミズムシ	水辺(湿地)				○		
40	キベリマメゲンゴロウ	水辺(河川)					○	○
41	ツマキレオナガミズスマシ	水辺(河川)						○
42	コオナガミズスマシ	水辺 (河川、池)					○	○
43	ミズスマシ	水辺 (河川、池)						○
44	ミヤマクワガタ	森林					○	
45	ムネアカセンチコガネ	草地、芝地					○	
46	アカマダラセンチコガネ	森林						○
47	ヒゲコガネ	河川敷		○				
48	ヤマトタマムシ	森林			○		○	○
49	ヒメボタル	森林				○		○
50	ヘイケボタル	水辺(湿地)			○	○		
51	キイロトラカミキリ	森林					○	
52	シロスジカミキリ	森林				○		
53	アワクビボソハムシ	草地、 耕作地						○
54	ミズバチ	水辺(河川)					○	○
55	トゲアリ	森林、 耕作地					○	
56	オオミノガ	森林				○	○	
57	アオバセセリ	草地、森林						○
58	ホソバセセリ	草地				○		
59	オオチャバネセセリ	草地				○	○	○
60	ギフチョウ	森林						○
61	カラスシジミ	森林					○	
62	オオウラギンスジヒョウモン	草地、森林				○		
63	クモガタヒョウモン	草地、森林					○	○
64	コムラサキ	河畔林、 河川敷		○				
65	オオムラサキ	森林					○	○
66	カギモンハナオイアツバ	草地					○	

ウ) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である昆虫類の生息の状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された注目すべき生息地は5箇所であった。文献及び現地で確認された注目すべき生息地とその選定基準は、表 8-4-1-21 に示す。

表 8-4-1-21 注目すべき生息地一覧

No.	名称	該当箇所	確認状況		選定基準							
			文献	現地	①	⑤	⑥	⑦	⑨	⑫	⑬	
1	ギフチョウとその生息地	相模原市緑区 (旧藤野町全域)	○	○		県						
2	キマダラルリツバメとその生息地	相模原市緑区 (旧藤野町全域)	○			県						
3	三角山及び宮が瀬-札掛林道のギフチョウ生息地	根小屋周辺、鳥屋周辺	○	○							○	
4	オニヤンマ、オナガアゲハ、ウスバシロチョウ、スミナガシ、ウスタビガ、アオバセセリの確認地点	鳥屋周辺	○	○								○
5	自然環境保全地域(石砂山)※	牧馬地区	○	○				○				
計	5箇所		5箇所	4箇所	0箇所	2箇所	0箇所	1箇所	0箇所	1箇所	1箇所	

注1. 現地調査によって当該生息地が注目される理由である昆虫類が確認された生息地について、現地調査の確認状況欄に○を記載した。

注2. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- ①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ⑤「神奈川県文化財保護条例」(昭和30年、神奈川県条例第13号)
県：県指定天然記念物
- ⑥「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」(平成12年、相模原市条例第27号)
「川崎市文化財保護条例」(昭和34年、川崎市条例第24号)
「横浜市文化財保護条例」(昭和62年、横浜市条例第53号)
「愛川町文化財保護条例」(昭和35年、愛川町条例第1号)
市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
- ⑦「神奈川県自然環境保全条例」(昭和47年、神奈川県条例第52号)
○：自然環境保全地域
- ⑨「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)
○：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑫「天然記念物緊急調査 植生図・主要動植物地図」
○：指定されている地域
- ⑬「第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 神奈川県動植物分布図」(昭和56年、環境庁)
○：重要な種が確認された地域

※ギフチョウを、当該生息地が注目される理由である昆虫類として扱った。

また、当該生息地が注目される理由である昆虫類の生息が、現地調査により確認された注目すべき生息地とその昆虫類の確認地点を、表 8-4-1-22 に示す。

表 8-4-1-22 現地調査で確認された当該生息地が注目される理由である昆虫類の確認位置

番号	名称	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性のある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性のある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
1	ギフチョウとその生息地	森林						○
2	三角山及び宮が瀬-札掛林道のギフチョウ生息地	森林						○
3	オニヤンマ、オナガアゲハ、ウスバシロチョウ、スミナガシ、ウスタビガ、アオバセセリの確認地点	河川、森林、 草地				○	○	○
4	自然環境保全地域(石砂山)※	森林、草地						○

※ギフチョウを、当該生息地が注目される理由である昆虫類として扱った。

カ. 魚類

ア) 魚類の状況

現地調査において8目13科36種の魚類が確認された（「資料編 19-1 動物出現種リスト」参照）。現地調査結果の概要は、表 8-4-1-23 に示す。

表 8-4-1-23 魚類現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	7目11科23種	アブラハヤ、ヌマチチブ、トウヨシノボリ（型不明）、シマドジョウ、ウグイ等
夏季	8目11科31種	アブラハヤ、ドジョウ、ホトケドジョウ、オイカワ、シマドジョウ、アユ等
秋季	6目9科26種	アブラハヤ、ドジョウ、ウグイ属の一種、ホトケドジョウ、カワヨシノボリ等
冬季	6目8科24種	アブラハヤ、ウグイ属の一種、シマドジョウ、メダカ南日本集団、カジカ等
計	8目13科36種	アブラハヤ、ドジョウ、ウグイ属の一種、シマドジョウ、ホトケドジョウ等

イ) 重要な魚類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な魚類は9目12科25種であった（「資料編 19-1 動物出現種リスト」及び「資料編 19-2 動物文献調査確認種リスト」参照）。文献及び現地で確認された重要な魚類とその選定基準は、表 8-4-1-24 に示す。

表 8-4-1-24(1) 重要な魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準									
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	
1	ヤツメ ウナギ	ヤツメ ウナギ	スナヤ ツメ類	○	○						VU	絶滅危惧 I B類		CR	EN
2	ウナギ	ウナギ	ニホン ウナギ	○	○						EN			VU	VU
3	コイ	コイ	コイ	○	○							情報不足			
4			キンブ ナ	○							VU	絶滅危惧 I B類		CR+	VU
5			アカヒ レタビ ラ	○							EN	情報不足		EX	
6			アブラ ハヤ	○	○							準絶滅危 惧		VU	NT
7			ウグイ	○	○							準絶滅危 惧			
8			カマツ カ	○	○							準絶滅危 惧		NT	NT
9			ニゴイ	○	○							絶滅危惧 II類		NT	NT
10			ドジョ ウ	ドジョ ウ	○	○						DD			
11		シマド ジョウ	○	○							準絶滅危 惧		VU	VU	

表 8-4-1-24(2) 重要な魚類確認種一覧表

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準										
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯		
12	コイ	ドジョウ	ホトケドジョウ	○	○						EN	絶滅危惧 I B類		CR+ EN	VU	
13	ナマズ	ギギ	ギバチ	○							VU	絶滅危惧 I A類		CR	VU	
14		ナマズ	ナマズ	○	○							注目種		*	*	
15		アカザ	アカザ	○							VU	絶滅危惧 I A類				
16	サケ	サケ	ヤマメ	○	○						NT	絶滅危惧 I A類		CR+ EN	CR+ EN	
17			アマゴ	○							NT	絶滅危惧 I A類				
18	ダツ	メダカ	メダカ南日本集団	○	○						VU	絶滅危惧 I A類		CR+ EN	CR+ EN	
19	ヨウジウオ	ヨウジウオ	イッセンヨウジ	○								注目種				
20			テングヨウジ	○									注目種			
21	カサゴ	カジカ	カマキリ	○							VU	絶滅危惧 I A類				
22			カジカ	○	○							NT	絶滅危惧 II 類		*	CR+ EN
23	スズキ	ハゼ	ボウズハゼ	○								準絶滅危惧		DD	DD	
24			スミウキゴリ	○	○								準絶滅危惧			
25			オオヨシノボリ	○									準絶滅危惧			
計	9目	12科	25種	25種	15種	0種	0種	0種	0種	13種	23種	0種	15種	14種		

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。
 文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。

注2. 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（平成24年、公益財団法人リバーフロント研究所）に準拠した。

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
 特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ⑤ 「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年、神奈川県条例第13号）
 県：県指定天然記念物
- ⑥ 「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」（平成12年、相模原市条例第27号）
 「川崎市文化財保護条例」（昭和34年、川崎市条例第24号）
 「横浜市文化財保護条例」（昭和62年、横浜市条例第53号）
 「愛川町文化財保護条例」（昭和35年、愛川町条例第1号）
 市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
- ⑧ 「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）
 「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A類、EN：絶滅危惧 I B類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
- ⑨ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群
 ⑭「専門家等の助言により選定した種」

○：選定種

⑮東京都（区部）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑯東京都（南多摩）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

注4. 選定基準⑮、⑯は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な魚類の確認地点を、表 8-4-1-25 に示す。

表 8-4-1-25 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外		変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外	
変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	変更の可能性のある範囲の近傍		相当離れた地域				
1	スナヤツメ類	河川					○	○
2	ニホンウナギ	河川				○	○	
3	コイ	河川		○			○	○
4	アブラハヤ	河川			○	○	○	○
5	ウグイ	河川					○	○
6	カマツカ	河川		○	○		○	○
7	ニゴイ	河川		○				
8	ドジョウ	河川		○	○	○	○	○
9	シマドジョウ	河川		○	○		○	○
10	ホトケドジョウ	河川			○	○	○	○
11	ナマズ	河川		○				
12	ヤマメ	河川					○	○
13	メダカ南日本集団	河川		○	○			
14	カジカ	河川				○	○	○
15	スミウキゴリ	河川		○	○			

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である魚類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

キ. 底生動物

7) 底生動物の状況

現地調査において28目110科306種の底生動物が確認された（「資料編19-1 動物出現種リスト」参照）。現地調査結果の概要は、表8-4-1-26に示す。

表 8-4-1-26 底生動物現地調査結果の概要

調査時期	確認種数	主な確認種
春季	19目72科161種	シロハラコカゲロウ、ナミウズムシ、ヨシノコカゲロウ、フタスジモンカゲロウ、Brillia属の一種等
夏季	21目80科190種	ミズムシ、フタモンコカゲロウ、シロハラコカゲロウ、ウスイロフトヒゲコカゲロウ、Tipula属の一種等
秋季	24目85科210種	ミズムシ、シオカラトンボ、Tipula属の一種、Polypedilum属の一種、シロハラコカゲロウ等
冬季	24目92科215種	シロハラコカゲロウ、Simulium属の一種、Orthocladius属の一種、Cheumatopsyche属の一種、アカマダラカゲロウ等
計	28目110科306種	シロハラコカゲロウ、ナミウズムシ、ミズムシ、フタモンコカゲロウ、シオカラトンボ等

4) 重要な底生動物の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な底生動物は3目5科7種であった（「資料編19-1 動物出現種リスト」及び「資料編19-2 動物文献調査確認種リスト」参照）。文献及び現地で確認された重要な底生動物とその選定基準は、表8-4-1-27に示す。

表 8-4-1-27 重要な底生動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準													
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	⑰				
1	原始 紐舌	タニシ	マルタニシ		○											CR+ EN		CR+ EN	
2			オオタニシ	○												CR+ EN		CR+ EN	
3	基眼	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ		○														
4			モノアラガイ	○	○											NT		VU	
5		ヒラマキガイ	○													DD		CR+ EN	
6	エビ	テナガエビ	スジエビ		○												*	*	*
7		モクズガニ	モクズガニ		○												*	*	*
計	3目	5科	7種	3種	5種	0種	0種	0種	0種	5種	0種	0種	6種	2種	6種				

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。

注2. 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査 最新版 平成24年度版生物リスト」（平成24年、公益財団法人リバーフロント研究所）に準拠した。

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- ①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ⑤「神奈川県文化財保護条例」(昭和30年、神奈川県条例第13号)
県：県指定天然記念物
- ⑥「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」(平成12年、相模原市条例第27号)
「川崎市文化財保護条例」(昭和34年、川崎市条例第24号)
「横浜市文化財保護条例」(昭和62年、横浜市条例第53号)
「愛川町文化財保護条例」(昭和35年、愛川町条例第1号)
市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
- ⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」(平成24年、環境省)
「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成25年、環境省)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
- ⑨「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑭「専門家等の助言により選定した種」
○：選定種
- ⑮東京都(区部)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- ⑯東京都(南多摩)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- ⑰東京都(本土部)：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

注4. 重要な底生動物の内、昆虫類はオ. 昆虫類に示す。

注5. 選定基準⑮、⑯、⑰は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な底生動物の確認地点を、表 8-4-1-28 に示す。

表 8-4-1-28 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域	変更の 可能性 のある 範囲の 近傍		相当離 れた地 域				
1	マルタニシ	湿地、池				○		
2	コシダカヒメモノアラガイ	湿地、池			○		○	○
3	モノアラガイ	湿地、池			○		○	○
4	スジエビ	河川			○			
5	モクズガニ	河川			○			

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である底生動物の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

ク. 土壌動物

ア) 土壌動物の状況

現地調査において 28 目 79 科 167 種の土壌動物が確認された（「資料編 19-1 動物出現種リスト」参照）。現地調査結果の概要は、表 8-4-1-29 に示す。

表 8-4-1-29 土壌動物現地調査結果の概要

確認種数	主な確認種
28目79科167種	オカダンゴムシ、ムカデ類、ヤスデ類、アリ類、ゴミムシ類

[土壌動物を用いた環境診断]

土壌動物を指標とした自然の豊かさの評点結果は、表 8-4-1-30 に示す。自然の豊かさは、確認された分類群ごとの評点を合計して算出し、点数が高いほど自然が豊かであることを表すものである。

評価の結果、評価点は 31～64 となり、緑の多い住宅地及び相模川以西の樹林環境で高得点であった。

表 8-4-1-30 土壌動物を用いた自然の豊かさの評点結果

地域番号	01		02	03	04	05	07
地点	等々力	等々力	梶ヶ谷	犬蔵	東百合丘	片平能ヶ谷	小倉
環境概要	河川敷	公園内樹林	法面	公園内樹林	樹林	草地	社寺林
評価点	50	45	50	61	59	55	56

地域番号	07				08		
地点	小倉	小倉	小倉	小倉	長竹	長竹	長竹
環境概要	樹林	草地	樹林	樹林	樹林	樹林	樹林
評価点	50	41	51	51	64	64	31

地域番号	09			10			11
地点	青山	青山	青山	鳥屋	鳥屋	鳥屋	牧馬
環境概要	樹林	草地	樹林	草地	樹林	樹林	樹林
評価点	52	46	46	63	46	58	47

地域番号	11		12		
地点	牧馬	牧馬	大羽根	大羽根	大羽根
環境概要	樹林	樹林	草地	樹林	樹林
評価点	47	50	48	59	39

注1. 評点方法は、「土壌動物を用いた環境診断」（平成7年、青木淳一）に準拠した。

1) 重要な土壌動物の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な土壌動物は1目1科1種であった（「資料編 19-1 動物出現種リスト」及び「資料編 19-2 動物文献調査確認種リスト」参照）。文献及び現地で確認された重要な土壌動物とその選定基準は、表 8-4-1-31 に示す。

表 8-4-1-31 重要な土壌動物確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認状況		選定基準									
				文献	現地	①	②	⑤	⑥	⑧	⑨	⑭	⑮	⑯	
1	クモ	トタテグモ	キシノウエトタテグモ		○						NT			VU	NT
計	1目	1科	1種	0種	1種	0種	0種	0種	0種	1種	0種	0種	1種	1種	1種

- 注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。
- 注2. 分類、配列等は、原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅲ」（平成10年、環境庁）に準拠した。
- 注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。
- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
 - ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
 - ⑤ 「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年、神奈川県条例第13号）
県：県指定天然記念物
 - ⑥ 「相模原市文化財の保存及び活用に関する条例」（平成12年、相模原市条例第27号）
「川崎市文化財保護条例」（昭和34年、川崎市条例第24号）
「横浜市文化財保護条例」（昭和62年、横浜市条例第53号）
「愛川町文化財保護条例」（昭和35年、愛川町条例第1号）
市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
 - ⑧ 「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物」（平成24年、環境省）
「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群、N：要注目種
 - ⑨ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群
 - ⑭ 「専門家等の助言により選定した種」
○：選定種
 - ⑮ 東京都（区部）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
 - ⑯ 東京都（南多摩）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- 注4. 選定基準⑮、⑯は調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な土壌動物の確認地点を、表 8-4-1-32 に示す。

表 8-4-1-32 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性の ある範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
1	キシノウエトタテグ モ	市街地 (公園等)		○				

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である土壌動物の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

(2) 予測及び評価

1) 予測

ア. 予測項目

現地調査で確認された重要な種及び注目すべき生息地に対する工事の実施、鉄道施設の存在による影響の程度について予測した。

イ. 予測の基本的な手法

既存の知見の引用又は解析により、重要な種及び地域個体群への影響の種類、影響の箇所、影響の程度について予測した。

ウ. 予測地域

対象事業実施区域及びその周囲の内、工事の実施、鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、地下駅、車両基地及び変電施設）の存在に係る重要な種の生息地への影響が生じるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。

エ. 予測対象時期

予測対象時期は、工事中及び鉄道施設の完成時とした。

オ. 予測対象種の選定

予測対象種は、文献調査又は現地調査によって対象事業実施区域及びその周辺に生息する可能性が高いと考えられる重要な種とした。

重要な種の予測対象種の選定結果は、表 8-4-1-33 に示す。

表 8-4-1-33(1) 予測対象種の選定結果

分類	区分	種名
哺乳類	現地調査で確認された種（9種）	アズマモグラ、ニホンキクガシラコウモリ、ニホンコキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ホンドキツネ、ホンドイタチ、ニホンリス、ホンシュウカヤネズミ、ヤマネ
	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種（8種）	カワネズミ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、ニホンツキノワグマ、ニホンカモシカ、ホンドモモンガ、スミスネズミ、ハタネズミ

表 8-4-1-33(2) 予測対象種の選定結果

分類	区分	種名
鳥類	現地調査で確認された種 (74種)	キジ、オシドリ、カイツブリ、アオバト、ミゾゴイ、ササゴイ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、クイナ、バン、オオバン、ジュウイチ、ホトトギス、カッコウ、ヨタカ、ヒメアマツバメ、イカルチドリ、コチドリ、タシギ、クサシギ、イソシギ、コアジサシ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、クマタカ、フクロウ、アオバズク、コミミズク、アカショウビン、カワセミ、ブッポウソウ、アオゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、モズ、キクイタダキ、コガラ、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、ウグイス、ヤブサメ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、カワガラス、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ウソ、アオジ、クロジ、オオジュリン
	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (37種)	ウズラ、ヤマドリ、ヒシクイ、マガン、アカツクシガモ、シマアジ、トモエガモ、ヨシゴイ、オオヨシゴイ、ヒクイナ、タゲリ、ケリ、ムナグロ、シロチドリ、ヤマシギ、キョウジョシギ、ヒバリシギ、タマシギ、オジロワシ、チュウヒ、イヌワシ、オオコノハズク、コノハズク、トラフズク、ヤマセミ、オオアカゲラ、ヤイロチョウ、チゴモズ、エゾムシクイ、ゴジュウカラ、マミジロ、コマドリ、コルリ、ニューナイスズメ、ホオアカ、ノジコ、コジュリン
爬虫類	現地調査で確認された種 (9種)	ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ
	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (1種)	ニホンイシガメ
両生類	現地調査で確認された種 (7種)	アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル
	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (4種)	ヒダサンショウウオ、トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエル、ナガレタゴガエル

表 8-4-1-33(3) 予測対象種の選定結果

分類	区分	種名
昆虫類	現地調査で確認された種 (66種)	イシワタマダラカゲロウ、ホソミイトトンボ、クロイトトンボ、ハグロトンボ、ニホンカワトンボ、ヤマサナエ、オナガサナエ、ヒメサナエ、オオルリボシヤンマ、コシボソヤンマ、ミルンヤンマ、コヤマトンボ、タカネトンボ、コフキトンボ、シオヤトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、ヒメアカネ、ミヤマアカネ、リスアカネ、ヒガシキリギリス、オナガササキリ、ササキリモドキ、カヤコオロギ、ヒロバネカントン、ケラ、ショウリョウバッタモドキ、ハルゼミ、オオアメンボ、エサキアメンボ、コオイムシ、エサキコムズムシ、アサヒナコムズムシ、Sigara属の一種、アカヘリサシガメ、ヒメナガメ、アトモンコムズギワゴミムシ、アカガネアオゴミムシ、コガシラミズムシ、キベリマメゲンゴロウ、ツマキレオナガミズスマシ、コオナガミズスマシ、ミズスマシ、ミヤマクワガタ、ムネアカセンチコガネ、アカマダラセンチコガネ、ヒゲコガネ、ヤマトタマムシ、ヒメボタル、ヘイケボタル、キイロトラカミキリ、シロスジカミキリ、アワクビボソハムシ、ミズバチ、トゲアリ、オオミノガ、アオバセセリ、ホソバセセリ、オオチャバネセセリ、ギフチョウ、カラスシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、クモガタヒョウモン、コムラサキ、オオムラサキ、カギモンハナオイアツバ
	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (206種)	ガガンボカゲロウ、チェルノバマダラカゲロウ、キイトトンボ、モートンイトトンボ、セスジイトトンボ、オオイトトンボ、モノサシトンボ、ホソミオツネントトンボ、オツネントトンボ、アオハダトンボ、ムカシヤンマ、キイロサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、コサナエ、ネアカヨシヤンマ、カトリヤンマ、サラサヤンマ、ヨツボシトンボ、ハラビロトンボ、チョウトンボ、マイコアカネ、ジョウクリカワゲラ、クツワムシ、マツムシ、スズムシ、ニセハネナガヒシバッタ、ハネナガイナゴ、セグロイナゴ、カワラバッタ、イナゴモドキ、ツマグロバッタ、チッチゼミ、コムズムシ、ヤブガラシグンバイ、アシボソトビイロサシガメ、オオアシナガサシガメ、ミナミトゲヘリカメムシ、フトハサミツノカメムシ、キバネツノトンボ、カワラゴミムシ、ホソハンミョウ、セアカオサムシ、キベリマルクビゴミムシ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アシグロチビヒョウタンゴミムシ、コチビヒョウタンゴミムシ、ホソチビヒョウタンゴミムシ、オサムシモドキ

表 8-4-1-33(4) 予測対象種の選定結果

分類	区分	種名
昆虫類	<p>文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(206種)</p>	<p>フタボシチビゴミムシ、タカオチビゴミムシ、ヨウザワメクラチビゴミムシ、ニシタンザワメクラチビゴミムシ、アオヘリミズギワゴミムシ、ウメヤルリミズギワゴミムシ、ヒロムネナガゴミムシ、オオナガゴミムシ、コホソナガゴミムシ、ニッコウオオズナガゴミムシ、オオキンナガゴミムシ、アシミゾナガゴミムシ、アシミゾヒメヒラタゴミムシ、キアシツヤヒラタゴミムシ、チョウセンゴモクムシ、キュウシュウツヤゴモクムシ、セグロマメゴモクムシ、クロズカタキバゴミムシ、ヨツモンカタキバゴミムシ、オオヨツボシゴミムシ、ヨツボシゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コアトワアオゴミムシ、オオトックリゴミムシ、フタモンクビナガゴミムシ、ダイミョウアトキリゴミムシ、アリスアトキリゴミムシ、クロサヒラタアトキリゴミムシ、オオアオホソゴミムシ、アオバネホソクビゴミムシ、クビボソコガシラミズムシ、キボシケシゲンゴロウ、コマルケシゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、コシマチビゲンゴロウ、セスジゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、コミズスマシ、クロサワツブミズムシ、チビヒラタガムシ、マルヒラタガムシ、シジミガムシ、コガムシ、ガムシ、タマガムシ、ヤマハマベエンマムシ、ドウガネエンマムシ、ルリエンマムシ、ヤマトモンシデムシ、ヒメヒラタシデムシ、チビクワガタ、ヒラタクワガタ、ナガスネエンマコガネ、ダルママグソコガネ、ツヤチャイロコガネ、アカマダラコガネ、ムラサキツヤハナムグリ、ケスジドロムシ、ウバタマムシ、クロチビタマムシ、ウバタマコメツキ、スジグロボタル、キイロジョウカイ、キムネヒメジョウカイモドキ、オオキマダラケシクスイ、チャイロズマルヒメハナムシ、ルリヒラタムシ、キバラチビオオキノコ、トカラナガツツキノコムシ、キスジヘリハネムシ、マメハンミョウ、オオマルクビヒラタカミキリ、ケブカヒラタカミキリ、ムネアカクロハナカミキリ、カタキハナカミキリ</p>

表 8-4-1-33(5) 予測対象種の選定結果

分類	区分	種名
昆虫類	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(206種)	<p>モモグロハナカミキリ、アオスジカミキリ、マルクビケマダラカミキリ、ヨツボシカミキリ、ミドリカミキリ、アカネトラカミキリ、クロトラカミキリ、クリストフコトラカミキリ、トラフカミキリ、ブドウトラカミキリ、イタヤカミキリ、ヒゲナガモモブトカミキリ、ナカバヤシモモブトカミキリ、ルリカミキリ、ハンノキカミキリ、イネネクイハムシ、キアシクビボソハムシ、ヨツボシナガツツハムシ、ヨツボシアカツツハムシ、コヤツボシツツハムシ、ムツキボシツツハムシ、ヤナギハムシ、クロセスジハムシ、スジカミナリハムシ、フタホシカギアシゾウムシ、トサヤドリキバチ、コンボウアメバチ、オオセイボウ、エゾアカヤマアリ、アオスジベッコウ、ヤマトハキリバチ、ルリモンハナバチ、ハマダラハルカ、ウシアブ、ミツオビヒゲナガハナアブ、ニトベベッコウハナアブ、カワムラモモブトハナアブ、ケブカハチモドキハナアブ、ヒメハチモドキハナアブ、ツマモンハススジハマダラミバエ、ルリイロスカシクロバ、ニホンセセリモドキ、ギンイチモンジセセリ、ホシチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、コキマダラセセリ、ミヤマチャバネセセリ、ヒメシロチョウ、スジボソヤマキチョウ、ヤマキチョウ、ムモンアカシジミ、ウラクロシジミ、ダイセンシジミ、オナガシジミ、ウスイロオナガシジミ、ミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ、キマダラルリツバメ、シルビアシジミ、クロツバメシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ウラギンヒョウモン、アサマイチモンジ、ホシミスジ、オオミスジ、シータテハ、クジヤクチョウ、スミナガシ、ツマジロウラジャノメ、ギフウスキナミシャク、サザナミフユナミシャク、フチグロトゲエダシャク、オナガミズアオ、ウスミミモンキリガ、シロミミハイイロヨトウ、オオチャバネヨトウ、コシロシタバ、ナミグルマアツバ</p>

表 8-4-1-33(6) 予測対象種の選定結果

分類	区分	種名
魚類	現地調査で確認された種 (15種)	スナヤツメ類、ニホンウナギ、コイ、アブラハヤ、ウグイ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、ヤマメ、メダカ南日本集団、カジカ、スミウキゴリ
	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (8種)	キンブナ、アカヒレタビラ、ギバチ、アカザ、アマゴ、カマキリ、ボウズハゼ、オオヨシノボリ
底生動物	現地調査で確認された種 (5種)	マルタニシ、コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、スジエビ、モクズガニ
	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (2種)	オオタニシ、ヒラマキミズマイマイ
土壌動物	現地調査で確認された種 (1種)	キシノウエトタテグモ
	文献調査において改変区域周辺に生息する可能性が考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (0種)	なし

カ. 影響予測の手順

影響予測は図 8-4-1-2 に示す手順に基づき行った。

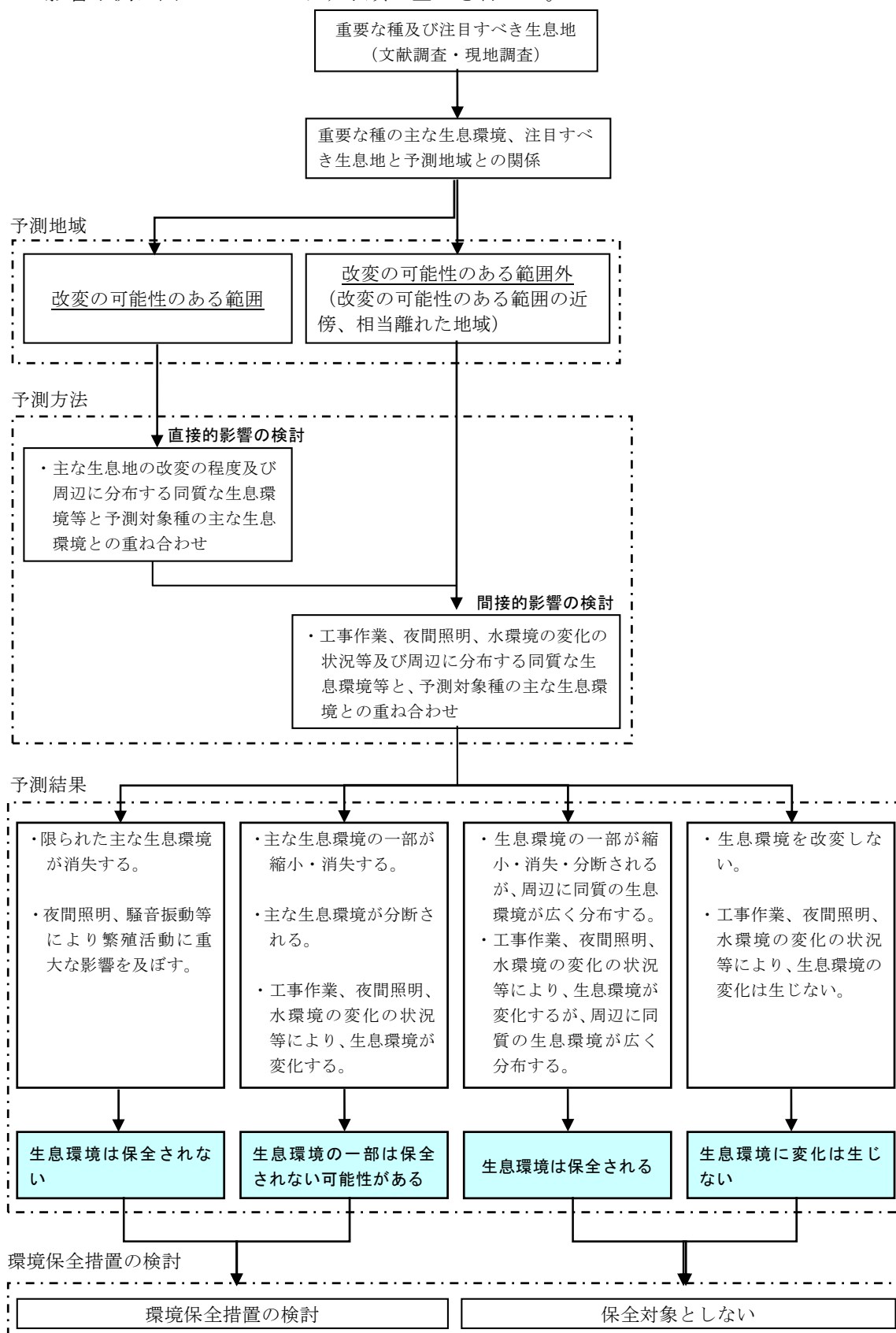


図 8-4-1-2 影響予測の手順

「予測の手順」は予測の考え方を分かりやすく表現するために作成したものであり、予測は個別の種ごとに実施した。詳細は個別の種ごとの予測結果を参照のこと。

キ. 予測結果

現地調査により確認されている重要な種は、対象事業の実施によりその生息地及び生息環境が改変される程度について予測した。なお、文献調査により対象事業実施区域周辺に生息するとされている重要な種の内、現地調査で確認されなかった種は、対象事業の実施によりその種の生息環境が改変される程度を予測した。また、魚類や底生動物等の移動範囲に関する知見は限られているが、個別の種ごとの一般生態、確認地点の生息環境を踏まえて、予測評価を実施した。

ア) 現地調査で確認された重要な種及び注目すべき生息地に対する予測結果

現地調査で確認された重要な種及び注目すべき生息地の予測結果の概要は、表 8-4-1-34 及び表 8-4-1-35 に示す。

表 8-4-1-34(1) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の可能性のある範囲	改変の可能性のある範囲外	
哺乳類	1	アズマモグラ	低茎草地、耕作地		○	生息環境に変化は生じない。
	2	ニホンキクガシラコウモリ	森林、河川		○	生息環境は保全される。
	3	ニホンコキクガシラコウモリ	森林、河川		○	生息環境は保全される。
	4	モモジロコウモリ	森林、河川		○	生息環境は保全される。
	5	ホンドキツネ	森林、耕作地	○	○	生息環境は保全される。
	6	ホンドイタチ	耕作地、河川、森林	○	○	生息環境は保全される。
	7	ニホンリス	森林		○	生息環境は保全される。
	8	ホンシュウカヤネズミ	草地	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	9	ヤマネ	森林		○	生息環境は保全される。
鳥類	1	キジ	耕作地、草地	○	○	生息環境は保全される。
	2	オシドリ	河川、池		○	生息環境は保全される。

表 8-4-1-34(2) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
鳥 類	3	カイツブリ	河川、池		○	生息環境に変化は生じない。
	4	アオバト	森林	○	○	生息環境は保全される。
	5	ミゾゴイ	森林、水辺	○	○	生息環境は保全される。
	6	ササゴイ	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	7	アマサギ	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	8	ダイサギ	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	9	チュウサギ	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	10	コサギ	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	11	クイナ	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	12	バン	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	13	オオバン	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	14	ジュウイチ	森林		○	生息環境は保全される。
	15	ホトトギス	森林、畑地		○	生息環境に変化は生じない。
	16	カッコウ	森林、草原、 河川敷		○	生息環境は保全される。
	17	ヨタカ	森林		○	生息環境は保全される。
	18	ヒメアマツバメ	市街地、 陵地	○	○	生息環境は保全される。
	19	イカルチドリ	河川敷		○	生息環境は保全される。
	20	コチドリ	河川敷		○	生息環境は保全される。
	21	タシギ	水辺（河川）		○	生息環境は保全される。
	22	クサシギ	河川敷		○	生息環境に変化は生じない。
	23	イソシギ	河川敷	○	○	生息環境に変化は生じない。
	24	コアジサシ	河川		○	生息環境に変化は生じない。
	25	ミサゴ	森林、河川、 湖沼	○	○	生息環境は保全される。
	26	ハチクマ	森林	○	○	生息環境は保全される。
	27	トビ	河川周辺		○	生息環境は保全される。

表 8-4-1-34(3) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
鳥 類	28	ツミ	森林	○	○	生息環境は保全される。
	29	ハイタカ	森林、 農耕地	○	○	生息環境は保全される。
	30	オオタカ	森林	○	○	生息環境の一部は保 全されない可能性が ある。
	31	サシバ	森林	○	○	生息環境は保全され る。
	32	ノスリ	森林	○	○	生息環境の一部は保 全されない可能性が ある。
	33	クマタカ	森林	○	○	生息環境に変化は生 じない。
	34	フクロウ	森林	○	○	生息環境の一部は保 全されない可能性が ある。
	35	アオバズク	森林	○		生息環境は保全され る。
	36	コミミズク	河川敷、 農耕地		○	生息環境に変化は生 じない。
	37	アカショウビン	森林、水辺		○	生息環境に変化は生 じない。
	38	カワセミ	河川		○	生息環境に変化は生 じない。
	39	ブッポウソウ	森林		○	生息環境に変化は生 じない。
	40	アオゲラ	森林		○	生息環境に変化は生 じない。
	41	チョウゲンボウ	河川敷、 農耕地		○	生息環境は保全され る。
	42	ハヤブサ	森林、断崖	○	○	生息環境は保全され る。
	43	サンショウクイ	森林	○	○	生息環境は保全され る。
	44	サンコウチョウ	森林	○	○	生息環境は保全され る。
	45	モズ	林縁、 耕作地	○	○	生息環境の一部は保 全されない可能性が ある。
	46	キクイタダキ	森林	○	○	生息環境は保全され る。
	47	コガラ	森林	○	○	生息環境は保全され る。
48	ヒバリ	草地、畑地		○	生息環境に変化は生 じない。	
49	ツバメ	河川敷、 市街地	○	○	生息環境は保全され る。	

表 8-4-1-34(4) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
鳥 類	50	コシアカツバメ	河川敷、 草地		○	生息環境に変化は 生じない。
	51	ウグイス	林縁、藪	○	○	生息環境は保全さ れる。
	52	ヤブサメ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
	53	メボソムシクイ	森林		○	生息環境に変化は 生じない。
	54	センダイムシクイ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
	55	オオヨシキリ	河川敷、 草地		○	生息環境に変化は 生じない。
	56	コヨシキリ	草地		○	生息環境に変化は 生じない。
	57	セッカ	草地	○	○	生息環境に変化は 生じない。
	58	カワガラス	河川周辺		○	生息環境に変化は 生じない。
	59	トラツグミ	森林	○		生息環境は保全さ れる。
	60	クロツグミ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
	61	アカハラ	森林		○	生息環境に変化は 生じない。
	62	ルリビタキ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
	63	コサメビタキ	森林		○	生息環境は保全さ れる。
	64	キビタキ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
	65	オオルリ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
	66	キセキレイ	水辺	○	○	生息環境は保全さ れる。
	67	セグロセキレイ	水辺	○	○	生息環境は保全さ れる。
	68	ビンズイ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
	69	カワラヒワ	森林、 農耕地	○	○	生息環境は保全さ れる。
	70	ベニマシコ	森林、 農耕地		○	生息環境に変化は 生じない。
	71	ウソ	森林		○	生息環境に変化は 生じない。
	72	アオジ	森林、草地	○	○	生息環境は保全さ れる。
	73	クロジ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
74	オオジュリン	湿地、草地		○	生息環境に変化は 生じない。	

表 8-4-1-34(5) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
爬虫類	1	ニホンスッポン	河川、池		○	生息環境に変化は生じない。
	2	ニホンヤモリ	市街地		○	生息環境に変化は生じない。
	3	ヒガシニホントカゲ	草地	○	○	生息環境は保全される。
	4	ニホンカナヘビ	草地		○	生息環境に変化は生じない。
	5	アオダイショウ	草地、森林	○	○	生息環境は保全される。
	6	シマヘビ	草地、水辺、耕作地	○	○	生息環境は保全される。
	7	ヒバカリ	湿地、森林、草地		○	生息環境は保全される。
	8	ヤマカガシ	草地、森林、水辺		○	生息環境は保全される。
	9	ニホンマムシ	森林、草地	○	○	生息環境は保全される。
両生類	1	アカハライモリ	水辺、森林	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	2	アズマヒキガエル	水辺、森林	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	3	ニホンアマガエル	水辺		○	生息環境に変化は生じない。
	4	ツチガエル	水辺	○	○	生息環境は保全される。
	5	シュレーゲルアオガエル	水辺	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	6	モリアオガエル	水辺、森林	○	○	生息環境は保全される。
	7	カジカガエル	河川	○	○	生息環境は保全される。
昆虫類	1	イシワタマダラカゲロウ	河川		○	生息環境は保全される。
	2	ホソミイトトンボ	池、湿地		○	生息環境は保全される。
	3	クロイトトンボ	池、湿地		○	生息環境に変化は生じない。
	4	ハグロトンボ	水辺（河川）		○	生息環境に変化は生じない。
	5	ニホンカワトンボ	水辺（河川）	○	○	生息環境は保全される。
	6	ヤマサナエ	水辺（河川）	○	○	生息環境は保全される。

表 8-4-1-34(6) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
昆 虫 類	7	オナガサナエ	水辺（河川）		○	生息環境に変化は生じない。
	8	ヒメサナエ	水辺（河川）	○	○	生息環境は保全される。
	9	オオルリボシヤンマ	水辺（池、湿地）		○	生息環境に変化は生じない。
	10	コシボソヤンマ	水辺（河川）	○	○	生息環境は保全される。
	11	ミルンヤンマ	水辺（河川）	○	○	生息環境は保全される。
	12	コヤマトンボ	水辺（河川）	○	○	生息環境は保全される。
	13	タカネトンボ	水辺（池、湿地）		○	生息環境に変化は生じない。
	14	コフキトンボ	水辺（池、湿地）		○	生息環境に変化は生じない。
	15	シオヤトンボ	水辺（池、湿地）	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	16	ナツアカネ	水辺（池、湿地）	○	○	生息環境は保全される。
	17	マユタテアカネ	水辺（池、湿地）	○	○	生息環境は保全される。
	18	ヒメアカネ	水辺（湿地）	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	19	ミヤマアカネ	水辺（池、湿地）	○	○	生息環境は保全される。
	20	リスアカネ	水辺（池、湿地）		○	生息環境に変化は生じない。
	21	ヒガシキリギリス	草地	○	○	生息環境は保全される。
	22	オナガササキリ	草地	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	23	ササキリモドキ	森林		○	生息環境に変化は生じない。
	24	カヤコオロギ	草地	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	25	ヒロバネカントアン	草地		○	生息環境に変化は生じない。
	26	ケラ	耕作地、河川敷		○	生息環境に変化は生じない。
	27	ショウリョウバッタモドキ	草地		○	生息環境に変化は生じない。
	28	ハルゼミ	森林		○	生息環境に変化は生じない。

表 8-4-1-34(7) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
昆 虫 類	29	オオアメンボ	水辺（河川、池）	○	○	生息環境は保全される。
	30	エサキアメンボ	水辺（河川、池）		○	生息環境は保全される。
	31	コオイムシ	水辺（河川、池、湿地）	○	○	生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	32	エサキコムズムシ	水辺（河川、池）	○	○	生息環境は保全される。
	33	アサヒナコムズムシ	水辺（池）		○	生息環境に変化は生じない。
	34	Sigara属の一種	水辺（池）		○	生息環境に変化は生じない。
	35	アカヘリサシガメ	森林		○	生息環境に変化は生じない。
	36	ヒメナガメ	草地	○	○	生息環境は保全される。
	37	アトモンコムズギワゴミムシ	草地		○	生息環境に変化は生じない。
	38	アカガネアオゴミムシ	草地、耕作地		○	生息環境は保全される。
	39	コガシラミズムシ	水辺（湿地）	○		生息環境の一部は保全されない可能性がある。
	40	キベリマメゲンゴロウ	水辺（河川）		○	生息環境は保全される。
	41	ツマキレオナガミズスマシ	水辺（河川）		○	生息環境は保全される。
	42	コオナガミズスマシ	水辺（河川、池）		○	生息環境は保全される。
	43	ミズスマシ	水辺（河川、池）		○	生息環境は保全される。
	44	ミヤマクワガタ	森林		○	生息環境は保全される。
	45	ムネアカセンチコガネ	草地、芝地		○	生息環境は保全される。
	46	アカマダラセンチコガネ	森林		○	生息環境は保全される。
	47	ヒゲコガネ	河川敷		○	生息環境に変化は生じない。
	48	ヤマトタマムシ	森林		○	生息環境は保全される。
	49	ヒメボタル	森林	○	○	生息環境は保全される。
	50	ヘイケボタル	水辺（湿地）	○	○	生息環境は保全されない可能性がある。
	51	キイロトラカミキリ	森林		○	生息環境は保全される。
	52	シロスジカミキリ	森林	○		生息環境は保全される。

表 8-4-1-34(8) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
昆 虫 類	53	アラクビボソハムシ	草地、 耕作地		○	生息環境に変化は 生じない。
	54	ミズバチ	水辺（河川）		○	生息環境は保全さ れる。
	55	トゲアリ	森林、 耕作地		○	生息環境は保全さ れる。
	56	オオミノガ	森林	○	○	生息環境は保全さ れる。
	57	アオバセセリ	草地、森林		○	生息環境は保全さ れる。
	58	ホソバセセリ	草地	○		生息環境は保全さ れる。
	59	オオチャバネセセリ	草地	○	○	生息環境は保全さ れる。
	60	ギフチョウ	森林		○	生息環境は保全さ れる。
	61	カラスシジミ	森林		○	生息環境は保全さ れる。
	62	オオウラギンスジ ヒョウモン	草地、森林	○		生息環境は保全さ れる。
	63	クモガタヒョウモ ン	草地、森林		○	生息環境は保全さ れる。
	64	コムラサキ	河畔林、 河川敷		○	生息環境に変化は 生じない。
	65	オオムラサキ	森林		○	生息環境は保全さ れる。
	66	カギモンハナオイ アツバ	草地		○	生息環境は保全さ れる。
魚 類	1	スナヤツメ類	河川		○	生息環境は保全さ れる。
	2	ニホンウナギ	河川	○	○	生息環境は保全さ れる。
	3	コイ	河川		○	生息環境は保全さ れる。
	4	アブラハヤ	河川	○	○	生息環境は保全さ れる。
	5	ウグイ	河川		○	生息環境は保全さ れる。
	6	カマツカ	河川		○	生息環境は保全さ れる。
	7	ニゴイ	河川		○	生息環境に変化は 生じない。
	8	ドジョウ	河川	○	○	生息環境は保全さ れる。
	9	シマドジョウ	河川		○	生息環境は保全さ れる。
	10	ホトケドジョウ	河川	○	○	生息環境は保全さ れる。

表 8-4-1-34(9) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	確認種の 生息環境	確認位置		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
魚類	11	ナマズ	河川		○	生息環境に変化は生じない。
	12	ヤマメ	河川		○	生息環境は保全される。
	13	メダカ南日本集団	河川		○	生息環境に変化は生じない。
	14	カジカ	河川	○	○	生息環境は保全される。
	15	スミウキゴリ	河川		○	生息環境に変化は生じない。
底生動物	1	マルタニシ	湿地、池	○		生息環境は保全されない可能性がある。
	2	コシダカヒメモノアラガイ	湿地、池		○	生息環境は保全される。
	3	モノアラガイ	湿地、池		○	生息環境は保全される。
	4	スジエビ	河川		○	生息環境に変化は生じない。
	5	モクズガニ	河川		○	生息環境に変化は生じない。
土壌動物	1	キシノウエトタテグモ	市街地(公園等)		○	生息環境に変化は生じない。

表 8-4-1-35 現地調査で確認された注目すべき生息地の予測結果の概要

分類	番号	名称	確認種の 生息環境	影響の有無		生息環境への影響
				改変の 可能性 のある 範囲	改変の 可能性 のある 範囲外	
昆虫類	1	ギフチョウとその生息地	森林		○	生息環境は保全される。
	2	三角山及び宮が瀬一札掛林道のギフチョウ生息地	森林		○	生息環境は保全される。
	3	オニヤンマ、オナガアゲハ、ウスバスロチョウ、スミナガシ、ウスタビガ、アオバセセリの確認地点	河川、森林、草地	○	○	生息環境は保全される。
	4	自然環境保全地域(石砂山)※	森林		○	生息環境に変化は生じない。

※ギフチョウを、当該生息地が注目される理由である昆虫類として扱った。

1) 重要な動物種への影響

a) 重要な哺乳類

予測地域に生息地が存在すると考えられる重要な哺乳類の予測結果は、表 8-4-1-36 に示す。

表 8-4-1-36(1) 重要な哺乳類の予測結果

アズマモグラ (モグラ目モグラ科)	
一般生態	<p>越後平野の一部を除く、本州の中部（静岡、長野、石川）以北一帯と新潟県粟島、孤立小個体群が京都府・紀伊半島・広島県・四国の剣山・石鎚山等の山地及び小豆島の一部に分布している。</p> <p>低地の草原及び農耕地から山地の森林にまで分布し、湿潤で土壌の深い平野部で最も生息密度が高い。</p> <p>繁殖期は主に春であるが秋の場合もある。</p> <p>昆虫類とミミズ類を主に捕食するが、ジムカデ類、ヒル類、種子等も採食する。活動と休息を含む1日3回の周期をもつ。</p>
確認状況	<p>川崎市の調査範囲において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計8地点で確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点、相当離れた地域で5地点確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川敷にひろがる低茎草地であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失・分断はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-36(2) 重要な哺乳類の予測結果

ニホンキクガシラコウモリ (コウモリ目キクガシラコウモリ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州等に分布する。 出産・子育て期と冬眠期では、必要とされる環境条件が異なるようであり、同一の洞穴で両方の条件が満たされない場合は他の洞穴に移動する。 初夏に1子を出産する。 採餌は夜で、主に出洞後約2時間と薄明時に集中的に行われ、河川、平地、丘陵、森林、草原等で行われる。なお林内では下層での採餌が中心で、地表面及び葉上にいる大型昆虫も捕食する。冬季に冬眠するが、その間にも体重が増えている個体が記録されていることもあり、冬にも採餌活動をするという意見もある。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1地点、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、まとまった広葉樹、針葉樹林を流れる沢に設置されているカルバート内の壁面であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-36(3) 重要な哺乳類の予測結果

ニホンコキクガシラコウモリ (コウモリ目キクガシラコウモリ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州等に分布する。日本固有種の可能性が高いが、中国東部にも同一種が分布するという意見がある。 昼間は洞穴で、100頭を越える大きな集団で休息する。出産・子育て期と冬眠期では、必要とされる環境条件が異なるようであり、同一の洞穴で両方の条件が満たされない場合は他の洞穴に移動する。 日没後に出洞して採餌を行い、日出前に帰洞する。採餌は主に出洞後約2時間と薄明時に集中的に行われる。河川の水面、丘陵地帯での採餌が観察されている。食物は主に小型の飛翔昆虫であり、ガ類等の柔らかい体をもった昆虫が多いらしい。晩秋に冬眠に入り、初春に目覚め活動を開始する。その時期は地域により異なる。	
確認状況	相模原市において、春季調査時に1地点、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、まとまった広葉樹、針葉樹林を流れる沢に設置されているカルバート内の壁面であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-36(4) 重要な哺乳類の予測結果

モモジロコウモリ (コウモリ目ヒナコウモリ科)	
一般生態	<p>北海道、本州、四国、九州等に分布する。</p> <p>鍾乳洞等の自然洞穴、隧道及び廃棄されたトンネル等の人工物も隠れ家として利用する。昼間は洞穴で、1年中雌雄の混ざった100頭以上の大きな集団を作る。出産・子育て期と冬眠期では、必要とされる環境条件が異なるようであり、同一の洞穴で両方の条件が満たされない場合は他の洞穴に移動する。</p> <p>初夏に1子を出産する。</p> <p>日没後、洞穴から出て活動し、飛翔する昆虫類を捕食し、日の出前に帰洞する。捕食場所は河川、丘陵地、森林で、森林では特に樹幹の間及び樹冠付近で多く観察されている。冬季には冬眠する。開始時期及び終了時期は地域により異なる。</p>
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点で改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。
確認地点の生息環境	確認地点は、周辺にまとまった広葉樹、針葉樹林が広がる沢であった。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-36(5) 重要な哺乳類の予測結果

ホンドキツネ (ネコ目イヌ科)	
一般生態	<p>北海道、本州、四国、九州等に分布。四国では少ない。</p> <p>都市近郊から山地までさまざまな環境に生息し、主に森林と畑地が混在する田園環境を好む。</p> <p>春先、3～4月に平均4頭の子を巣穴の中で出産し、夏まで家族群で生活する。</p> <p>ノネズミ類、鳥類、大型のコガネムシ類等、主に小型動物を捕食するが、コクワ等果実類も食する。畑のトウモロコシ、ニワトリ、家畜死体及び人家のゴミを採食することもある。</p>
確認状況	相模原市において、秋季及び冬季調査時に合計6地点で確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点、相当離れた地域で2地点確認された。
確認地点の生息環境	確認地点は、針葉樹林、混交林、さらにそれらの樹林に接する道路上であった。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失・分断される可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-36(6) 重要な哺乳類の予測結果

ホンDOIタチ (ネコ目イタチ科)		
一般生態	<p>本州、四国、九州等に分布する。</p> <p>西日本では近年、外来種のチョウセンイタチが優勢になり、イタチは山間部等に追いやられている。雌は一定の行動圏をもち、土穴等を巣とする。雄はいくつかの雌の行動圏に重なるような行動圏をもつ。</p> <p>九州では年2回繁殖し、一度に1～8頭、平均3～5頭の子を産む。</p> <p>カエル、ネズミ類、鳥類、昆虫類等陸上小動物の他、水に入りザリガニ等甲殻類及び魚を捕食することも多い。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計20地点で確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2地点、改変の可能性のある範囲の近傍で7地点、相当離れた地域で11地点確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、耕作地、河川、湿地、針葉樹林、さらにそれらに接する道路上であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失・分断される可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-36(7) 重要な哺乳類の予測結果

ニホンリス (ネズミ目リス科)		
一般生態	<p>本州、四国、九州、淡路島に分布する。本州の中国地方以西には少なく、九州では近年の確実な記録がない。</p> <p>平野部から亜高山帯までの森林に生息し、低山帯のマツ林に多い。昼行性で主に樹上で活動する。</p> <p>小枝、樹皮等で球形の巣を枝の間等につくり、繁殖は初夏から夏までの間に1～2回行う。</p> <p>ほぼ植物食で、花、芽、種子、果実、キノコ類、昆虫その他の節足動物も少し食する。春から秋に食物を地面に浅く埋めたり、枝の間にはさんだりして貯蔵する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、夏季、秋季及び冬季調査時に合計19地点で確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で6地点、相当離れた地域で13地点確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、アカマツが生息する針葉樹林であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失・分断される可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-36(8) 重要な哺乳類の予測結果

ホンシュウカヤネズミ (ネズミ目ネズミ科)		
一般生態	<p>本州太平洋側では宮城県以南、日本海側では新潟県・石川県以南、及び九州、四国等に分布する。</p> <p>低地から標高1,200mあたり（長野県下伊那、神奈川県金時山）まで広く生息する。低地の草地、水田、畑、休耕地、沼沢地等のイネ科・カヤツリグサ科植物が密生し水気のあるところに多く生息する。</p> <p>繁殖期は大部分の地域では春と秋の年2山型であるが、まれに夏にも繁殖する。</p> <p>野外での食物調査はないが、飼育下のおもな食物はヒエ・アワ・アサ・ヒマワリの種子、サツマイモ、煮干、バツタ類等である。水面を泳ぐ。冬季には地表の堆積物及び地下に坑道を掘り、畦道でも採集される。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、夏季、秋季及び冬季調査時に合計7地点で確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点、相当離れた地域で5地点確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、湿地及び河川敷のヨシ等が生息する高茎草地であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、本種の生息環境である草地等は工事の実施により一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の生息環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。（鳥屋地区）
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-36(9) 重要な哺乳類の予測結果

ヤマネ (ネズミ目ヤマネ科)		
一般生態	<p>本州、四国、九州、隠岐島に分布する。</p> <p>低山帯から亜高山帯の成熟した森林に生息する。</p> <p>春から秋までに繁殖する。雌は年2回出産する。樹洞内及び木の枝の間に樹皮及びコケを集めて球形の巣を作る。</p> <p>果実、昆虫その他の小動物、小鳥の卵等を食する。夜行性で、主に樹上で活動する。体の大きさの割に広い行動圏をもち、浅間山麓における調査では、雄で2ha、雌で1ha弱である。冬眠することが特徴で、中部地方では6か月前後に及ぶ。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、夏季調査時に1地点、相当離れた地域で確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>落葉広葉樹林と針葉樹林が隣接する環境であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、本種の生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

b) 重要な鳥類

予測地域に生息地が存在すると考えられる重要な鳥類の予測結果は、表 8-4-1-37 に示す。

表 8-4-1-37(1) 重要な鳥類の予測結果

キジ (キジ目キジ科)	
一般生態	<p>日本列島の特産種で、本州から九州までの各地に留鳥として生息する。平地及び山地の草原、農耕地、雑木林、低木林、河原の草原に生息し、近縁のヤマドリよりも開けた環境を好む。比較的人間の活動の多い場所に生息する。</p> <p>繁殖期は4～7月。草原、低木林、農耕地周辺の草むらの中に巣を作る。地上にある植物の芽・葉・種子、動物では昆虫、クモ類、多足類、軟体動物等を食する。</p>
確認状況	<p>川崎市の調査範囲において、春季、繁殖期及び夏季調査時に合計9例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1例、改変の可能性のある範囲の近傍で6例、相当離れた地域で2例確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に畑地及び草地等開けた環境で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(2) 重要な鳥類の予測結果

オシドリ (カモ目カモ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸東部のウスリーと中国北部に繁殖分布し、冬は中国南部に渡って過ごす。日本では北海道、本州、九州、沖縄で繁殖し、冬は四国を含む本州以南に渡って過ごす。</p> <p>低地から亜高山帯にかけて広く見られる。繁殖期には大木の多い広葉樹林内の河川、湖沼にすむ。冬は山間の河川、ダム湖、湖沼、樹林に囲まれた池、溜池等で見られる。</p> <p>繁殖期は4～7月。巣は大木の樹洞内及び地上に作る。</p> <p>雑食性だが主として植物食であり、特にシイ、カシ、ナラ類のどんぐりを好む。夜行性である。</p>
確認状況	<p>相模原市において、繁殖期及び冬季調査時に合計3例、相当離れた地域で確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(3) 重要な鳥類の予測結果

カイツブリ (カイツブリ目カイツブリ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸の温帯・熱帯、サハラ砂漠を除くアフリカ大陸、フィリピン等に分布する。日本にはほぼ全国的に分布し、各地で普通に繁殖する。北海道と本州北部では夏鳥、本州中部以南では留鳥である。</p> <p>主に平野部の池、湖沼、堀、河川に生息し、秋・冬には川の下流域でも見られる。淡水域の湖沼、大小の池及びダム湖等に分布する。繁殖期は2～10月。ヨシ原の中及び水中に繁茂する水草の上に、たくさんの水草の葉及び茎を用いて浮き巣を作る。</p> <p>潜水して体長5～6cmぐらいのフナ及びタナゴ等魚類、水生の甲殻類、昆虫、軟体動物を食する。</p>
確認状況	<p>川崎市の調査範囲において、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計12例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で6例、相当離れた地域で6例確認された。なお、相模原市においても確認されている。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川及び貯水池で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(4) 重要な鳥類の予測結果

アオバト (ハト目ハト科)	
一般生態	<p>繁殖分布は日本列島に限られ、冬は台湾及び中国南部に渡る。北海道、本州、四国、九州で繁殖し、北海道では夏鳥、他は留鳥、薩南諸島、南西諸島には冬に現れる。本州中部以南に多い。</p> <p>山地帯の常緑広葉樹林、落葉広葉樹林にすむ。繁殖はほとんど分かっていない。巣が見つかっているのは6月。地上1～6mぐらいの樹木の枝の上に、小枝を集めて粗雑な巣を作る。</p> <p>樹上、特に小枝及び葉が茂る樹冠部、林内及び林縁の地上で採食する。樹木及び草の実・果実・種子等を食する。海岸の岩礁地にミネラルをとるために、海水を飲み集まる場所がある。</p>
確認状況	<p>相模原市において、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計26例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で5例、改変の可能性のある範囲の近傍で10例、相当離れた地域で11例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(5) 重要な鳥類の予測結果

ミゾゴイ (ペリカン目サギ科)		
一般生態	<p>日本固有種。夏鳥として渡来し、本州、四国、九州と伊豆諸島の低山地で分布するが、数は少ない。冬は台湾及びフィリピンですごすが、西南日本、薩南諸島以南で越冬するものもいる。</p> <p>山地のスギ、ヒノキ等の針葉樹の密林及びクリ、ナラ等の落葉広葉樹の密林に生息し、暗い林を好む。繁殖期は4～7月。樹枝、樹根等を主材にして粗雑な皿形の巣を地上から7～20mぐらいの樹上に作る。</p> <p>沢筋及び谷間の溪流、山ぎわの湖沼のふち等で、サワガニ、ミミズ、魚類を捕食する。夜行性で、主に夕方から夜間にかけて採食する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、春季及び繁殖期調査時に合計4例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1例、改変の可能性のある範囲の近傍で1例、相当離れた地域で2例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(6) 重要な鳥類の予測結果

ササゴイ (ペリカン目サギ科)		
一般生態	<p>世界中の熱帯から温帯にかけて広く分布し、北半球の温帯で分布するものは南方に渡って越冬する。日本には夏鳥として4月ごろ渡来し、本州から九州の各地で分布する。九州南部には冬に留まるものがあり、薩南諸島以南には冬鳥として渡来する。</p> <p>水田、湖沼、河原、ヨシ原等、低地及び平地の水辺に生息する。ときには海岸でも見られる。繁殖期は4～7月。水辺近くのカワヤナギ、雑木林、マツ、スギ等の樹上に巣を作る。</p> <p>開けた水辺及び浅瀬で待ち伏せたり、浅瀬を静かに歩いて水中の魚を捕食する。カエル、アメリカザリガニ及び水生昆虫も食する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、繁殖期調査時に1例、相当離れた地域で確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川に隣接する広葉樹林から畑地の上空で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(7) 重要な鳥類の予測結果

アマサギ (ペリカン目サギ科)	
一般生態	<p>世界中の熱帯・温帯で広く分布する。日本では夏鳥として普通に渡来し、本州から九州までの各地で分布する。冬は南方に渡るが、西南日本及び琉球諸島では越冬する個体もいる。</p> <p>農耕地、草原、河原及び湖沼地等に生息するが、他のサギ類と比べると乾いた草地を好む。繁殖期は4～9月。コサギ、チュウサギ、ダイサギ等と混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林等の樹上に営巣する。</p> <p>水田及びハス田の畦道及び草原で、イナゴ、バッタ等の昆虫及びカエル等をよく食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計3例が確認された。</p> <p>川崎市において、秋季調査時に合計2例が確認された。相当離れた地域で2例確認された。</p> <p>相模原市においては、秋季調査時に1例が確認された。相当離れた地域で1例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川及び池等水辺環境周辺の上空で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <p>相模原市においては、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <p>相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 </p>

表 8-4-1-37(8) 重要な鳥類の予測結果

ダイサギ (ペリカン目サギ科)	
一般生態	<p>世界中の熱帯・温帯に分布する。日本では関東地方から九州までの各地に分布する。冬は大部分が南方に移動する。</p> <p>見通しの良い川、湖沼、干潟等で生活する。繁殖期は4～9月。他のサギ類とともに混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林等の樹上に営巣する。</p> <p>水の中をゆっくり歩いて魚類を捕食する。両生類、甲殻類のほかネズミ等の哺乳類も食する。</p>
確認状況	<p>川崎市の調査範囲において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計12例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で4例、相当離れた地域で8例確認された。なお、相模原市においても確認されている。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(9) 重要な鳥類の予測結果

チュウサギ (ペリカン目サギ科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸東・南部、アフリカ大陸、オーストラリア大陸の熱帯・温帯で広く分布する。日本には夏鳥として渡来し、本州から九州までの各地に分布する。冬は南方に渡去するが、西南日本及び琉球諸島では越冬する個体もいる。</p> <p>平地の水田、湿地、ときには大きな川に生息する。繁殖期は4～9月。コサギ、アマサギ、ダイサギ、ゴイサギ等と混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林等でコロニーを作る。</p> <p>昼行性で、浅瀬を静かに歩きながら昆虫、クモ類、魚類、アメリカザリガニ等の甲殻類、カエル等の両生類を捕食する。</p>	
確認状況	川崎市において、秋季調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(10) 重要な鳥類の予測結果

コサギ (ペリカン目サギ科)		
一般生態	<p>アジア、オーストラリア大陸、アフリカ大陸の熱帯・温帯にかけて広く分布する。日本では夏鳥又は漂鳥で、本州から九州までの各地で数多く分布する。</p> <p>低地のみならず山地の水田、湖沼、河川等の水辺に多い。海岸の干潟でも採食する。繁殖期は4～9月。ゴイサギ、チュウサギ、ダイサギ等と混生して集団繁殖することが多く、マツ林、雑木林、竹林等の樹上に営巣する。</p> <p>川の浅瀬及び水田を歩いて、ドジョウ、フナ、ウグイ、オイカワ等の魚類、カエル、アメリカザリガニ等をくちばしではさみとる。</p>	
確認状況	川崎市の調査範囲において、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計24例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で20例、相当離れた地域で4例確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(11) 重要な鳥類の予測結果

クイナ (ツル目クイナ科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸の温帯・亜寒帯、アフリカ大陸北部の一部で繁殖し、亜寒帯のものはインド、中国南部、インドシナ半島に渡って越冬する。日本では北海道及び本州北部で夏鳥、本州以南では留鳥又は冬鳥。</p> <p>平地から低山の湖沼、河川、水田等の水辺の草むら及びヨシ及びマコモが密生する湿地に生息する。繁殖期は5～8月。湖沼、河川の湿地の草むらに、枯れたアシ及び草で皿形の巣を雌雄共同で作る。</p> <p>湿地を歩いたり泳いだりしながら昆虫、クモ、カエル、エビ、小魚等をついばむ。またタデ科、イネ科、キク科等の種子を食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計2例が確認された。</p> <p>川崎市において、冬季調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。</p> <p>相模原市においては、冬季調査時に1例、相当離れた地域で確認された。</p>	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の変化は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(12) 重要な鳥類の予測結果

バン (ツル目クイナ科)		
一般生態	<p>オーストラリア区を除く世界中の熱帯・温帯にかけて広く分布し、温帯のものは南方に渡って越冬する。日本では、北海道、本州北部で夏鳥、関東地方以南では留鳥として周年生息する。</p> <p>湖沼、河川、水田、ハス田等のヨシ及びガマが生息する湿地に生息する。干潟に姿を現すこともある。繁殖期は4～8月。アシ、マコモ、イ、ガマ等の草むら及び水田に枯草を積み上げて、皿形の巣を作る。</p> <p>水草の葉・茎・種子を食するほか、水辺の昆虫、貝、甲殻類、オタマジャクシ及びミミズも採食する。</p>	
確認状況	川崎市の調査範囲において、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計18例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3例、相当離れた地域で15例確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川及び貯水池で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(13) 重要な鳥類の予測結果

オオバン (ツル目クイナ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸の亜寒帯以南、オーストラリア大陸で繁殖し、熱帯・亜熱帯に渡り越冬するものが多い。日本では主に本州中部以北、北海道に分布する。東北地方北部のものは、それより南に渡り越冬する。</p> <p>湖沼、河川、水田、ハス田等のヨシ及びガマが生息する湿地に生息する。繁殖期は4～8月。ヨシ原及び草むらの中の水面に、枯れ草を積み重ねて皿形の巣を作る。</p> <p>水面を泳いだり潜水して水草の葉・茎・種子を食するほか、昆虫、貝、甲殻類も採食する。</p>
確認状況	川崎市の調査範囲において、春季及び冬季調査時に合計19例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で17例、相当離れた地域で2例確認された。
確認地点の生息環境	本種は、貯水池で確認された。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(14) 重要な鳥類の予測結果

ジュウイチ (カッコウ目カッコウ科)	
一般生態	<p>インド北部から中国東北部、ウスリー、東南アジア等に分布し、温帯では夏鳥、熱帯・亜熱帯では留鳥である。日本には夏鳥として渡来し、九州以北に分布する。</p> <p>主にオオルリ、コルリ、ルリビタキ、コマドリの巣に托卵するため、日本のカッコウ類では最も標高の高い山地にまで生息する。産卵期は6～7月。</p> <p>昆虫を主食とし、樹上で鱗翅類の幼虫を好んで食する。</p>
確認状況	相模原市において、繁殖期調査時に1例、相当離れた地域で確認された。
確認地点の生息環境	本種は、主にスギ・ヒノキ植林で確認された。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(15) 重要な鳥類の予測結果

ホトトギス (カッコウ目カッコウ科)		
一般生態	ヒマラヤからウスリー、朝鮮半島、日本で繁殖し、冬はインド、東南アジアで越冬する。日本には夏鳥として渡来し、北海道南部から九州までの各地域に分布する。 托卵習性を持ち、主な仮親はウグイスである。このため、生息環境もウグイスと一致して、低地から山地のササ藪のある林に生息する。産卵期は、仮親であるウグイスと一致する5~6月。 昆虫を主食とし、樹上で鱗翅類の幼虫を好んで食する。	
確認状況	川崎市の調査範囲において、繁殖期及び夏季調査時に合計3例が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で3例確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。	
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及び畑地で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(16) 重要な鳥類の予測結果

カッコウ (カッコウ目カッコウ科)		
一般生態	ユーラシア大陸全域とアフリカ大陸北東部で夏鳥として分布する。東南アジア及びアフリカ大陸南部では冬鳥。日本に分布するカッコウ類4種のなかでは、世界的に最も広い分布域をもつ。日本には夏鳥として渡来し、北海道から九州までの各地に繁殖する。 托卵相手の幅が広く、ホオジロ類、ヨシキリ類、モズ類、セキレイ類等である。生息環境は高原、明るい林、河原、低木が生えた草原、農耕地の周辺等で見られる。産卵期は5~8月。 昆虫を主食とし、樹上で鱗翅類の幼虫を好んで食する。	
確認状況	相模原市において、繁殖期調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及び畑地で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(17) 重要な鳥類の予測結果

ヨタカ (ヨタカ目ヨタカ科)	
一般生態	<p>中国北部から朝鮮半島、アムール、日本等で繁殖し、フィリピン、インドシナ半島等で越冬する。日本には夏鳥として4月ごろ渡来し、九州以北の全土に分布する。</p> <p>主に標高2,000m以下の山地帯に渡来する。生息環境は草原及び灌木が散在する落葉広葉樹及びマツ等の針葉樹の林で、地面が乾いた明るい林に住む。産卵期は5~8月。主に林縁の地上に、胴体が入る程度の浅い窪みをつくり、そこに直接産卵する。</p> <p>飛びながらガ、ゴミムシ、ゲンゴロウ、カワトビケラ、カメムシ等の昆虫を捕食する。日没前後からの数時間が採食の最も活発な時間帯である。</p>
確認状況	<p>相模原市において、繁殖期調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(18) 重要な鳥類の予測結果

ヒメアマツバメ (アマツバメ目アマツバメ科)		
一般生態	<p>エチオピア区、旧北区、東洋区の熱帯・亜熱帯に分布する。もともと日本には生息しない鳥だったが、1964年ごろから太平洋岸で観察されるようになり、その後も茨城県以西の太平洋岸を中心に分布を拡大し、局地的に繁殖している。</p> <p>留鳥として主に平野部の市街地及びその周辺の丘陵地に生息する。繁殖期は4月中旬～12月。鉄筋コンクリートづくりの構造物に、羽毛及び植物の葉、茎等で半球状の巣を作るか、コシアカツバメの古巣を改築して利用する。</p> <p>上空を飛び回りながら、上昇気流に吹き上げられたカ、ハエ、羽アリ等の飛翔性昆虫を捕食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において、合計100例以上が確認された。</p> <p>川崎市において、春季、秋季及び冬季調査時に合計85例が確認された。改変の可能性のある範囲で8例、改変の可能性のある範囲の近傍で8例、相当離れた地域で69例確認された。</p> <p>相模原市において、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計100例以上が確認された。改変の可能性のある範囲で19例、改変の可能性のある範囲の近傍で82例、相当離れた地域で10例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川及び市街地の上空で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(19) 重要な鳥類の予測結果

イカルチドリ (チドリ目チドリ科)	
一般生態	<p>中国中北部から日本列島に限られて繁殖分布し、中国南部からミャンマーにかけて越冬する。日本では本州、四国、九州等で繁殖し、一部は留鳥である。</p> <p>河原が発達した河川にすみ、特に大きい川の中流域の氾濫原及び扇状地等の砂礫地に多い。繁殖期は3～7月。巣は、礫の間の地上に窪みをつくり、植物の破片を敷く。</p> <p>湖沼及び河川の水辺の地上及び浅い水域で、甲虫及び昆虫の成虫・幼虫を食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計17例が確認された。</p> <p>川崎市において、冬季調査時に合計7例が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で7例確認された。</p> <p>相模原市においては、繁殖期、秋季及び冬季調査時において合計10例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で5例、相当離れた地域で5例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川敷で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 ・相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 ・相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(20) 重要な鳥類の予測結果

コチドリ (チドリ目チドリ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸の低・中緯度地方に広く繁殖分布し、同大陸南部、インド及びアフリカ大陸に渡り越冬する。日本では北海道、本州、四国、九州等に夏鳥として渡来して繁殖する。九州以南で少数が越冬する。</p> <p>河川敷内の中洲、水辺、河口の三角州、干潟、海岸の砂浜及び植生が疎らで裸出土の多い荒れ地等で見られる。繁殖期は4～7月。巣は砂地に浅い窪みを掘り、内装に小石、貝殻の破片及び植物片等を敷く。</p> <p>砂泥地の表面から、昆虫の成虫・幼虫をくわえとる。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計16例が確認された。</p> <p>川崎市においては、春季、繁殖期、夏季及び秋季調査時に合計14例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で11例、相当離れた地域で3例確認された。</p> <p>相模原市においては、春季及び夏季調査時に合計2例が確認された。相当離れた地域で2例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川敷で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(21) 重要な鳥類の予測結果

タシギ (チドリ目シギ科)		
一般生態	オーストラリア区、東洋区以外の全世界で広く繁殖分布する。日本には旅鳥として各地に現れ、本州中部以南では越冬するものもいる。 干潟、溜池、沼地、水田、河川等のふち、また隠れた泥地等で見られる。繁殖期は4～7月。巣は地上の乾いたところの草陰及び藪の下等の窪みにつくり、草片で内張りをする。 昆虫の幼虫、ミミズ、小型の甲殻類、小型の軟体動物等を食する。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計3例が確認された。 川崎市においては、秋季調査時に1例が確認された。相当離れた地域で1例確認された。 相模原市においては、秋季及び冬季調査時に合計2例が確認された。相当離れた地域で2例確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川に隣接する草地で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(22) 重要な鳥類の予測結果

クサシギ (チドリ目シギ科)		
一般生態	ユーラシア大陸の中・高緯度地方に繁殖分布し、冬はアフリカ大陸中部からインド、中国南部、東南アジア等に渡ってすごす。日本には各地に旅鳥として現れ、普通に見られるが、秋のほうがよく見かける。本州以南で少数が越冬する。 河口、海岸の干潟、内陸の河川、溝、湖沼等、草の疎らな砂泥地で見られる。 繁殖期は4～7月。巣はカラス、モズ、ツグミ類等の古巣を利用し、地衣類及び蘚類で内張りをする。 浅く水につかる砂泥地を歩いて、表面にいる甲虫及び双翅類等の昆虫、甲殻類、クモ及び軟体動物をついばむ。	
確認状況	相模原市において、秋季及び冬季調査時に合計2例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1例、相当離れた地域で1例確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(23) 重要な鳥類の予測結果

イソシギ (チドリ目シギ科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸の中・高緯度地方に広く繁殖分布し、アフリカ大陸南部からインド、中国南部等で越冬する。日本には北海道、本州、四国、九州等に夏鳥として渡来して繁殖する。本州中部以南から沖縄県にかけて、かなりの個体数が越冬する。</p> <p>繁殖地では河川、湖沼等の水辺にすみ、水田、畑地等にも採食に現れる。越冬地では河川の中流部から河口部でみられ、湖沼の水辺にも現れる。繁殖期は4～7月。巢は砂地に浅い窪みを掘り、枯れ草を敷いて皿形に作る。水辺を歩いて、ユスリカ類及びトビケラ類等の水生昆虫の幼虫をついばんだりほじくり出して採食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計10例が確認された。</p> <p>川崎市においては、秋季及び冬季調査時に合計3例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1例、改変の可能性のある範囲の近傍で1例、相当離れた地域で1例確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、繁殖期、秋季及び冬季調査時に合計7例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で5例、相当離れた地域で2例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川敷で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、確認地点は河川敷であり、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(24) 重要な鳥類の予測結果

コアジサシ (チドリ目カモメ科)		
一般生態	<p>北極圏と南極大陸を除く全世界に繁殖地が散在し、冬は各大陸の赤道近くに渡って越冬する。日本では夏鳥として本州以南の各地で繁殖しているが、限られた繁殖地であるためあまり見かけない。</p> <p>湖沼、河川、河口等の大きい水系のある河原、砂州、砂浜及びその上空で見られる。非繁殖期には、海岸の干潟及び洋上に現れる。繁殖期は5～7月。巣は、捕食者が近づきにくい小島及び中州等の砂地に浅い窪みを掘って作る。</p> <p>水面から5～7mぐらいの上空を、水面を見ながら飛び回り、魚を見つけるとくちばしから水中に飛び込んで捕えて食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市において、繁殖期及び夏季調査時に合計13例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で9例、相当離れた地域で4例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川で確認された。</p>	
予測結果	<p>工事の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(25) 重要な鳥類の予測結果

ミサゴ (タカ目ミサゴ科)		
一般生態	北海道から沖縄にかけて分布する留鳥だが、冬に海が氷結する地域のもの暖地に移動する。 海岸、大きな川、湖等に生息する。 ボラ、スズキ及びイワシ等の魚類だけを捕食する。繁殖期は4～7月。岩棚等に流木及び枯れ枝を積んで、かなり大きな皿形の巣を作る。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計188例が確認された。繁殖行動は確認されなかった。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川周辺の上空で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、改変の可能性のある範囲付近において営巣は確認されなかった。 本種は改変の可能性のある範囲の近傍で採餌飛翔及びハンティングが確認されているが、それらの確認地点は河川区域であるため、工事の実施による採餌エリアの改変はない。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市においては、本種は改変の可能性のある範囲付近において営巣は確認されなかった。 改変の可能性のある範囲及びその近傍では採餌飛翔及びハンティングが確認されたことから、改変の可能性のある範囲の一部は採餌エリアとして利用されている。工事の実施により、採餌エリアの一部が縮小・消失する可能性があるが、周辺には同質の生息環境が広く分布している。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(26) 重要な鳥類の予測結果

ハチクマ (タカ目タカ科)		
一般生態	夏鳥として本州、佐渡島、北海道で繁殖し、東南アジアで越冬する。 1,500m以下の丘陵地及び低山の山林に生息する。 ハチの幼虫及び蛹を好んで食し、ジハチ類を特に好む。繁殖期は5月下旬から9月。低山帯の大木の枝上に、他の猛禽類の古巣を利用して皿形の巣を作る。	
確認状況	相模原市において、合計102例が確認された。1ペアの繁殖行動が確認されたが、営巣は確認されなかった。	
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林の上空で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、改変の可能性のある範囲付近では本種の営巣は確認されなかった。 改変の可能性のある範囲内では繁殖行動が確認されたことから、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺には同質の環境が広く分布している。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(27) 重要な鳥類の予測結果

トビ (タカ目タカ科)		
一般生態	九州以北の各地に周年生息繁殖し、数も多い。 農耕地、海岸、市街地等に多く生息する。 死魚、小動物の死体等を食する。	
確認状況	川崎市の調査範囲において、繁殖期、秋季及び冬季調査時に合計4例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1例、相当離れた地域で3例確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川周辺の上空で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(28) 重要な鳥類の予測結果

ツミ (タカ目タカ科)		
一般生態	<p>全国各地で繁殖し、暖地では留鳥として年中生息するが、積雪の多い寒地の中は暖地に移動して越冬する。</p> <p>多くは平地から亜高山帯の林に生息する。近年では、市街地及びその周辺の林での繁殖例が増えている。</p> <p>主にスズメ、ツバメ、セキレイ類、エナガ、ムクドリ等の小型鳥類を捕食するほか、小型のネズミ及び昆虫も餌とする。産卵期は4～5月。針葉樹の枝に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作る。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計73例が確認された。その内、2ペアが確認され、1ペアの繁殖の成功が確認された。また、営巣は、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に市街地の小規模な林で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市においては、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されている。その内、改変の可能性のある範囲の近傍1地点で営巣が確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。市街地の環境に適応した個体であることから、影響は小さいと考えられる。 他地区では改変の可能性のある範囲内でハンティング及び餌運びが確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺に同質の環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、改変の可能性のある範囲付近では本種の営巣及び繁殖は確認されなかった。 本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失される可能性がある。しかしながら、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(29) 重要な鳥類の予測結果

ハイタカ (タカ目タカ科)	
一般生態	<p>本州以北に分布する留鳥だが、少数は冬に暖地へ移動する。平地から亜高山帯の林に生息する。秋と冬には海岸近くの農耕地及びヨシ原まで出てくることがある。</p> <p>主にツグミぐらいまでの小鳥を狩るが、ネズミ、リス及びヒミズ等を捕らえることもある。産卵期は5月。カラマツの枝を主材に、皿形の巣を作る。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計301例が確認された。営巣及び繁殖は確認されなかった。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に市街地の小規模な林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、改変の可能性のある範囲周辺では営巣及び繁殖は確認されなかった。 本種は改変の可能性のある範囲付近でも確認されているが、上空を通過する事例であり、事業による影響は及ばないものと考えられ、工事の実施による生息環境の改変はない。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、改変の可能性のある範囲周辺では営巣及び繁殖は確認されなかった。 本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(30) 重要な鳥類の予測結果

オオタカ (タカ目タカ科)	
一般生態	<p>四国の一部及び本州、北海道の広い範囲に分布するが、繁殖記録は東日本で多く、西日本では少ない。留鳥として年中生息するが、秋から冬になると高地及び山地のものの一部は低地及び暖地に移動する。</p> <p>平地から亜高山帯（秋・冬は低山帯）の林、丘陵地のアカマツ林及びコナラとアカマツの混交林に生息し、しばし獲物を求めて農耕地、牧草地及び水辺等の開けた場所にも飛来する。</p> <p>ツグミ等の小鳥、中型・大型の鳥、ネズミ及びウサギ等を餌にする。巣づくりは早いものでは2月上旬に始まり、産卵期は4月～6月。営巣木は、幹の上部が大きく又状に枝分かれした太いアカマツが好まれ、枝を積み重ねて厚みのある皿状の巣を作る。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計762例が確認された。その内、11ペアが確認され、7ペアの繁殖の成功が確認された。また、営巣は、相当離れた地域で8地点確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林の上空で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、変更の可能性のある範囲周辺では本種の営巣及び繁殖は確認されなかった。 本種は、変更の可能性のある範囲周辺で確認されているが、上空を通過する個体のみであり、工事の実施による影響は及ばないものと考えられる。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市においては繁殖が成功した5ペアの内、1ペア（長竹）の営巣地は、変更の可能性のある範囲から約250m離れた場所に位置するものの、その間には小尾根を挟む。繁殖行動への影響は小さいものと考えられるが、営巣エリア周辺の樹林環境及び耕作地環境等の一部が変更の可能性のある範囲に含まれることから、工事の実施により本ペアの生息環境の一部が影響を受ける可能性がある。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 1ペア（鳥屋）の営巣地は、変更の可能性のある範囲から約600m離れた場所に位置することから、繁殖行動への影響は小さいものと考えられるが、営巣地周辺の樹林環境及び耕作地環境等の一部が変更の可能性のある範囲に含まれることから、工事の実施により当該ペアの生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 1ペア（小倉）の営巣地は、変更の可能性のある範囲から約1200m離れた場所に位置し、営巣エリアは影響を受けないものの、採餌エリアとなっている河川等の一部が変更の可能性のある範囲に含まれることから、工事の実施により当該ペアの主要な採餌エリアの一部が影響を受ける可能性がある。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 他2ペア（大羽根A）、（大羽根B）の巣は相当離れた地域以遠に位置しており、工事の実施による当該ペアの生息環境の変更はほとんどない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

<p>土地又は工作物の存在</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 ・相模原市においては繁殖が成功した5ペアの内、1ペア（長竹）は、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 ・1ペア（鳥屋）では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 ・1ペア（小倉）では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 ・他2ペア（大羽根A）、（大羽根B）では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
-------------------	---

表 8-4-1-37(31) 重要な鳥類の予測結果

サシバ (タカ目タカ科)	
一般生態	<p>夏鳥として3~4月ごろ渡来し、九州から青森県にかけて繁殖する。一部は西表島及び宮古島で越冬する。</p> <p>低山から丘陵の森林に生息し、周辺の水田等の開けた環境で狩りをする。</p> <p>ヘビを好んで食するほか、ネズミ、モグラ、小鳥、カエル及びバッタ等の昆虫も捕食する。繁殖期は4~7月。森林及び丘陵地の奥まった谷のマツ及びスギの枝上に、枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作る。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市で合計98例が確認された。1ペアの営巣が相当離れた地域で確認されたが、繁殖の成功は確認されなかった。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、変更の可能性のある範囲周辺では営巣及び繁殖は確認されなかった。 本種は相当離れた地域以遠で確認されており、工事の実施による生息環境の変更はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <p>相模原市において、1ペア（大羽根）の営巣地は、変更の可能性のある範囲から約500m離れた場所の谷あい位置することから変更区域への見通しはない。また、変更の可能性のある範囲で記録された個体も上空を通過する事例であり事業による影響は及ばないものと考えられ、工事の実施による生息環境の変更はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における変更以外に工事後に新たな変更はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <p>相模原市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における変更以外に工事後に新たな変更はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。</p> <ul style="list-style-type: none"> したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(32) 重要な鳥類の予測結果

ノスリ (タカ目タカ科)	
一般生態	<p>北海道から四国で繁殖し、秋・冬には全国に分散する。</p> <p>平地から亜高山帯の林に生息し、付近の荒地、河原、農耕地、干拓地で狩りをする。</p> <p>小型哺乳類、カエル、ヘビ、昆虫、鳥等を捕食する。産卵期は5~6月。林内の大木の枝の叉に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作る。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市で合計1608例が確認された。その内、11ペアが確認され、5ペアの繁殖の成功が確認された。また、営巣は、変更の可能性のある範囲で1地点、変更の可能性のある範囲の近傍で1地点、相当離れた地域で5地点確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ植林及び耕作地で確認された。</p>

<p>予 測 結 果</p>	<p>工事の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、改変の可能性のある範囲周辺では本種の営巣及び繁殖は確認されなかった。 ・本種は改変の可能性のある範囲等で確認され、改変の可能性のある範囲の近傍ではハンティングが確認されているが、工事の実施により生息環境の改変はない。 ・工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。 ・相模原市において、調査対象範囲に11ペアの存在が示唆され、この内5ペアが繁殖を成功させたと考えられる。工事実施箇所周辺では5ペアの繁殖活動を確認した。 ・この内、1ペア（鳥屋A）の営巣地は、改変の可能性のある範囲に位置することから、工事の実施により繁殖環境及び採餌環境の一部が縮小・消失する可能性がある。 ・工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 ・したがって、本ペアの生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 ・1ペア（鳥屋B）の営巣地は、改変の可能性のある範囲から約250m離れた場所に位置するものの、その間には小尾根を挟んでいる。繁殖行動への影響は小さいものと考えられるが、工事の実施により繁殖環境及び採餌環境の一部が縮小・消失する可能性がある。 ・工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 ・したがって、本ペアの生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 ・1ペア（牧馬）は営巣地の位置が不明の上、繁殖を中断したペアであるが、行動圏の中心が改変の可能性のある範囲に含まれる。 ・工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 ・したがって、本ペアの生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 ・1ペア（青山A）の営巣地は、改変の可能性のある範囲から約450m離れた場所に位置し、その間には小尾根を挟んでいる。繁殖行動への影響は小さいものと考えられるが、工事の実施により本ペアの繁殖環境及び採餌環境の一部が縮小・消失する可能性がある。 ・工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 ・したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。 ・1ペア（青山B）の営巣地は改変の可能性のある範囲から約1.5km以上離れているうえに、その間に小尾根を挟むことから、本ペアの生息環境への影響は小さいと考えられる。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
----------------------------	--------------	--

予測結果	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市においては、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市においては、1ペア（鳥屋A）は、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 1ペア（鳥屋B）は、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 1ペア（牧馬）は、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 1ペア（青山A）は、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 1ペア（青山B）は、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
------	------------	---

表 8-4-1-37(33) 重要な鳥類の予測結果

クマタカ（タカ目タカ科）		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に留鳥として繁殖する。 低山帯、亜高山帯の針葉樹林及び広葉樹林に生息する。 中・小型の哺乳類、中・大型の鳥類、へび類等を餌とする。繁殖期は4～7月ごろ。巣は大木の又の上に枯れ枝を重ねて作る。針葉樹の中層から上層部の幹寄りを使うことが多いが、枝先及び樹頂に作ることもある。	
確認状況	相模原市で合計629例が確認された。4ペアの繁殖行動が確認され、その内2ペアの営巣行動が確認されたが、繁殖は確認されなかった。	
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林、スギ・ヒノキ植林及び耕作地で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、改変の可能性のある範囲周辺では営巣及び繁殖は確認されなかった。 本種は主に相当離れた地域で確認されており、改変の可能性のある範囲付近で記録された個体も上空を通過する事例であり、事業による影響は及ばないものと考えられ、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(34) 重要な鳥類の予測結果

フクロウ (フクロウ目フクロウ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸の中・高緯度地方に分布する。日本では北海道から本州、四国、九州にかけて見られる留鳥である。</p> <p>低地、低山地から亜高山帯にかけて、いろいろなタイプの樹林にすみ、特に大きい樹木のある落葉広葉樹林及び針広混交林を好む。濃密に茂った針葉樹林でも見られる。繁殖期は3～5月ごろ。巣は、樹洞及びカラス等他種の古巣等を利用する。</p> <p>夜行性で、林縁で下枝の少ない樹林等で採食する。ネズミ類、小哺乳類、鳥類等を食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計22例が確認された。</p> <p>川崎市においては、繁殖期調査時に1例が確認された。相当離れた地域で1例が確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、繁殖期及び冬季調査時に合計21例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で4例、改変の可能性のある範囲の近傍で12例、相当離れた地域で5例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋地区)
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(35) 重要な鳥類の予測結果

アオバズク (フクロウ目フクロウ科)	
一般生態	<p>ウスリーからインド、東南アジアに分布し、北部のものは、冬は東南アジアです。日本ではほぼ全土で繁殖し、大部分の地域で夏鳥であるが、沖縄県では越冬する。</p> <p>低地及び低山地の大きい樹木のある樹林にすみ、巨木があれば、公園及び社寺林にもすみつく。落葉広葉樹林、針葉樹林、針広混交林等どんな林でもよいが、特に常緑広葉樹林を好む。繁殖期は5～8月。巣は樹洞を使うことが多い。</p> <p>夜行性で、主として昆虫食である。セミ、タガメ、カミキリムシ、トンボ類等の大型昆虫を、空中で飛びながら捕食する。</p>
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1例、改変の可能性のある範囲で確認された。
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(36) 重要な鳥類の予測結果

コミミズク (フクロウ目フクロウ科)	
一般生態	<p>オーストラリア大陸を除く世界各地に分布し、北半球の寒帯・亜寒帯で繁殖し、冬は主に温帯に渡って越冬する。日本には冬鳥としてほぼ全国的に渡来するが、数はあまり多くない。</p> <p>干潟の埋立地、内陸では河原の荒原、水田等広々と開けた荒れ地状の環境に多い。夜行性だが昼間にも活動することが多い。繁殖期は5～8月。巣は地上の窪みを利用し、草を敷くこともある。</p> <p>ネズミ類、小鳥類、昆虫類を食する。</p>
確認状況	川崎市において、冬季調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(37) 重要な鳥類の予測結果

アカショウビン (ブッポウソウ目カワセミ科)	
一般生態	<p>日本列島、台湾、ヒマラヤからタイを経て、ボルネオ島、小スンダ列島まで分布する。日本では夏鳥として北海道から南西諸島までに繁殖し、特に本州中部から西南部、八重山諸島にかけて多い。</p> <p>低地、低山帯の常緑広葉樹林及び落葉広葉樹林等にすみ、樹林内の小さい溪流沿い、あるいは小さい湖沼のふちで生活する。スギ林等を交えた山間の集落周辺でも繁殖する。繁殖期は5～7月。巣は樹洞及び崖の洞穴を使う。</p> <p>浅い水の上にかぶさる横枝等で静止し、餌を見つけると飛んで急襲して小魚、サワガニ、カエル、オタマジャクシ等を捕食する。</p>
確認状況	相模原市において、繁殖期調査時に1例、相当離れた地域で確認された。
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(38) 重要な鳥類の予測結果

カワセミ (ブッポウソウ目カワセミ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸の熱帯から亜寒帯まで分布する。日本では、北海道で夏鳥、本州以南では留鳥として全国に繁殖分布する。</p> <p>全国の標高900mぐらいまでの河川、湖沼、湿地、小川、用水等の水辺に生息し、ときには海岸及び島嶼に生息することもある。繁殖期は3～8月。水辺の土質の崖に、くちばしを使って50～100cmぐらいの深さの巣穴を掘る。</p> <p>水辺の杭、水草及び枝等に止まり、餌を見つけると水面に飛び込んで捕食する。餌は主に川魚で、その他にザリガニ、エビ、カエル等も食する。</p>
確認状況	川崎市の調査範囲において、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計18例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で10例、相当離れた地域で8例確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。
確認地点の生息環境	本種は、主に河川で確認された。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(39) 重要な鳥類の予測結果

ブッポウソウ (ブッポウソウ目ブッポウソウ科)		
一般生態	<p>ウスリーから中国東部、東南アジア、ニューギニア島等に分布し、冬は中国南部からオーストラリア大陸です。日本では夏鳥として本州、四国、九州に分布する。</p> <p>常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、スギ林、ヒノキ林、モミ林等の巨木の多い樹林にすむが、特に常緑広葉樹林に多い。繁殖期は5～7月。巣は大木につくられたキツツキの古巣をよく利用する。</p> <p>高木の梢付近の枯れ枝に止まって周りを見張り、セミ類、ヤンマ類等の大型昆虫を空中で追い回して、くわえとる。</p>	
確認状況	相模原市において、春季調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(40) 重要な鳥類の予測結果

アオゲラ (キツツキ目キツツキ科)		
一般生態	<p>日本列島の本州、四国、九州、屋久島、種子島等に限定されて分布する留鳥である。</p> <p>常緑広葉樹林、モミ林、スギ林、ヒノキ林、マツ林、落葉広葉樹林、雑木林等いろいろなタイプの樹林にすむ。繁殖期は4～6月。巣は主に下枝のない生木の樹幹に樹洞を掘って作る。</p> <p>樹幹を下から上へよじ登りながら採食する。昆虫、甲虫の幼虫・成虫、クモ、ムカデ等を食する。</p>	
確認状況	川崎市の調査範囲において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計4例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1例、相当離れた地域で3例確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。	
確認地点の生息環境	本種は、主に市街地の小規模な林で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(41) 重要な鳥類の予測結果

チョウゲンボウ (ハヤブサ目ハヤブサ科)		
一般生態	本州中部の長野県、山梨県、また栃木県、宮城県等で繁殖し、冬は日本各地に広がる。 草原、灌木草原、農耕地、河川敷等の開けたところに生息し、低地から高山帯まで幅広く見られる。 小型哺乳類及び小鳥を捕食する。繁殖期は4～7月。巢は崖の洞穴及びカラス等の他の古巣に作る。	
確認状況	川崎市の調査範囲において、繁殖期、夏季及び冬季調査時に合計4例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1例、相当離れた地域で3例確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
確認地点の生息環境	本種は、主に市街地の上空で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(42) 重要な鳥類の予測結果

ハヤブサ (ハヤブサ目ハヤブサ科)		
一般生態	北海道から九州北西部の島嶼に至るまで広く分布し、特に東北地方と北海道沿岸部に多い。 海岸及び海岸に近い山の断崖、急斜面、広大な水面のある地域や広い草原及び原野等に生息する。 獲物はほとんど中型の小鳥で、まれに地上でネズミ及びウサギを捕食する。産卵期は3月下旬から4月上旬。海岸及び海岸に近い山地の断崖の岩棚の窪みに営巣する。	
確認状況	川崎市、相模原市で合計237例が確認された。1ペアの繁殖行動が確認されたが、営巣及び繁殖は確認されなかった。	
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及びブシギ・ヒノキ植林で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、改変の可能性のある範囲周辺では、本種の営巣及び繁殖は確認されなかった。 本種は改変の可能性のある範囲付近でも確認されているが、上空を通過する事例であり、事業による影響は及ばないものと考えられ、工事の実施による生息環境の改変はない。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、1ペアの繁殖行動が確認されたが、改変の可能性のある範囲周辺では営巣及び繁殖は確認されなかった。 本種は改変の可能性のある範囲内でハンティング及び餌運びが確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺に同質の環境が広く分布する。 工事の実施に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に保全されると予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(43) 重要な鳥類の予測結果

サンショウクイ (スズメ目サンショウクイ科)		
一般生態	<p>ウスリーから朝鮮半島、日本で繁殖し、冬は東南アジア及び中国南部に渡って越冬する。日本には夏鳥として北海道を除き本州から西表島まで生息が確認されている。</p> <p>主に標高1,000m以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に多い。繁殖期は5～7月。ハンノキ、ハルニレ等の高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣を作る。</p> <p>樹冠部の葉及び小枝が茂る下側で、ホバリングしながら虫及び網にいるクモをとったり、木の枝先で昆虫及びクモを捕食する。また空中を飛ぶ昆虫に向かってフライングキャッチして捕食する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、繁殖期及び夏季調査時に合計31例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で9例、改変の可能性のある範囲の近傍で15例、相当離れた地域で7例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(44) 重要な鳥類の予測結果

サンコウチョウ (スズメ目カササギヒタキ科)		
一般生態	<p>日本、台湾、フィリピンに分布する。日本には夏鳥として5月ごろ渡来し、本州から屋久島までの各地で普通に繁殖する。越冬地は東南アジア各地である。</p> <p>平地から標高1,000m以下の山地の暗い林に生息する。沢沿いの谷及び傾斜のある山地に多く、スギ及びヒノキの人工林、雑木林及び落葉広葉樹林の密林に営巣する。繁殖期は5～8月。巣は周りに葉のない枝の2又か3又の部分に、スギの皮、アカマツの葉及びコケ類等をクモの糸でからませて円錐を逆さにした形に作る。</p> <p>飛翔する昆虫をフライングキャッチ法で捕獲し、再び元の止まり木にもどる。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計18例が確認された。</p> <p>川崎市においては、夏季調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。</p> <p>相模原市においては、繁殖期及び夏季調査時に合計17例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1例、改変の可能性のある範囲の近傍で8例、相当離れた地域で8例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主にスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(45) 重要な鳥類の予測結果

モズ (スズメ目モズ科)	
一般生態	<p>サハリン、沿海州南部から中国北部、朝鮮半島、日本に分布する。日本では全国各地に留鳥として年中生息する。</p> <p>集落、農耕地の周辺、河原、自然公園、高原及び林縁等、低木のある開けた環境であれば、至るところに分布する。繁殖期は2月下旬～7月。低木の藪の中に、小枝、枯れ草、ビニールの紐等を用いて椀形の巣を作る。</p> <p>昆虫及びミミズから、カエル及びヘビといった両生・爬虫類、鳥類、モグラ及びネズミ等の小哺乳類も食する。秋から冬にかけて捕えた獲物を、鉄条網、木の刺及び小枝に串刺しにしておく早贄の習性がある。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計83例が確認された。</p> <p>川崎市においては、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計24例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1例、改変の可能性のある範囲の近傍で11例、相当離れた地域で12例確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計59例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で13例、改変の可能性のある範囲の近傍で26例、相当離れた地域で20例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に市街地及び畑地で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、改変の可能性のある範囲の確認地点は残置される敷地境界付近の法面植栽であるため、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋周辺)
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(46) 重要な鳥類の予測結果

キクイタダキ (スズメ目キクイタダキ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸の中・高緯度地方に、中央の砂漠地帯をとり巻くように分布する。日本では北海道と本州の中部以北で繁殖し、冬は各地を訪れる。亜寒帯針葉樹林、亜高山針葉樹林で繁殖し、特にトウヒ属、モミ属の樹林を好む。冬は低地、低山帯のマツ林及びスギ林等の針葉樹林で見られ、特にスギ林を好む。繁殖期は6～8月。巣は、針葉樹の樹冠部の小枝の間にハンモック状に吊るした椀形で、外装には地衣類、蘚類及びダケカンバの樹皮等を、内装には獣毛及びシダ類の仮根を使う。</p> <p>針葉樹の上層部外側の樹冠部を中心に採食する。樹冠部の針葉の間を渡り歩き、小枝及び葉にいる虫に飛びついて捕食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において、合計40例が確認された。</p> <p>川崎市においては、冬季調査時に1例、改変の可能性のある範囲で確認された。</p> <p>相模原市においては、繁殖期、秋季及び冬季調査時に合計39例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で8例、改変の可能性のある範囲の近傍で28例、相当離れた地域で3例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主にスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(47) 重要な鳥類の予測結果

コガラ (スズメ目シジュウカラ科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸の中緯度地方を横断するように分布する。日本では北海道、本州、四国、九州に留鳥として繁殖する。</p> <p>低山帯上部から亜高山帯の落葉広葉樹林、針葉樹林、針広混交林にすみ、特に枯れ木が多い原生林及び湿地周辺の林を好む。繁殖期は5～7月ごろ。巣は枯れ木及び枯れ枝に樹洞を掘って作る。</p> <p>主として樹木の内部の幹及び枝、あるいは低木及び藪の枝等の枯死部で餌を探し、甲虫の幼虫等を食する。秋には草、樹木の種子及び小果実を食する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計13例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で4例、改変の可能性のある範囲の近傍で6例、相当離れた地域で3例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(48) 重要な鳥類の予測結果

ヒバリ (スズメ目ヒバリ科)		
一般生態	<p>北アフリカの一部、ユーラシア大陸の温帯・亜寒帯に分布する。日本では、九州以北から北海道までの全国に分布する。積雪の多い地方では冬に南下して越冬し、留鳥あるいは漂鳥として生息する。</p> <p>牧場、草原、河原、農耕地、埋立て地に生息するが、丈の低い草が疎らに生え、露出した地面の多い乾燥地を好む。2月下旬ごろから徐々に繁殖地に渡来し、繁殖期は4月下旬～7月まで。椀形の巣を草の根元に作る。</p> <p>地上で餌をあさり、草の実及び昆虫をついばむ。非繁殖期には河原の土手等、乾燥した場所で草の実を食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計10例が確認された。</p> <p>川崎市においては、繁殖期調査時に合計2例が確認された。相当離れた地域で2例確認された。</p> <p>相模原市においては、春季及び繁殖期調査時に合計8例が確認された。相当離れた地域で8例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に草地及び畑地で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認され、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認され、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(49) 重要な鳥類の予測結果

ツバメ (スズメ目ツバメ科)		
一般生態	北半球の温帯・亜寒帯で繁殖し、熱帯に渡って越冬する。日本では、種子島以北の全土に夏鳥として渡来する。 山間の村落、町、市街地に多く、田畑、草原、庭園、公園、海岸、河川等、営巣地付近のあらゆる環境を飛行して採食地とする。産卵期は4～7月。人家又は建築物の軒下に営巣する。 空中を飛びながら、飛行するハチ、ハエ、アブ、トンボといった昆虫を単独で捕食する。斜面の上方等、空中に虫が上昇気流で集まるところでは群がる。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計100例以上が確認された。 川崎市においては、春季、繁殖期及び夏季調査時に合計100例以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で21例、改変の可能性のある範囲の近傍で51例、相当離れた地域で48例確認された。 相模原市においては、春季、繁殖期、夏季及び秋季調査時に合計100例以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で39例、改変の可能性のある範囲の近傍で100例以上、相当離れた地域で100例以上確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、河原及び市街地の上空等様々な環境で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認され、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認され、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(50) 重要な鳥類の予測結果

コシアカツバメ (スズメ目ツバメ科)		
一般生態	ユーラシア大陸の温帯で繁殖し、インド、東南アジア、アフリカ大陸中部で越冬する。日本には夏鳥として渡来し、九州以北に分布する。 海岸線沿岸の標高の低い地域に限られる。繁殖期は5～8月。人工建造物の軒下にとっくり形の巣を作る。 昆虫食で、空中を飛びながら昆虫を捕食する。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に3例が確認された。相当離れた地域で3例確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、河原及び草地の上空等で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(51) 重要な鳥類の予測結果

ウグイス (スズメ目ウグイス科)		
一般生態	<p>主に日本海をとり巻く地域に分布する。日本では全国各地に広く分布する。冬は低地又は暖地に漂行する。</p> <p>平地から亜高山のササ藪を伴う低木林、林縁等に生息し、秋・冬には平地の藪の中で生活する。繁殖地は低山帯から標高2,000mぐらいの亜高山帯まで幅広い垂直分布をもつが、林床にササが密生していることが条件である。</p> <p>繁殖期は4～8月。ハイヌツゲ、ノリウツギ、ササ等の枝に、ササ、スキの葉を用いて、横に出入り口のある球状の巣を作る。</p> <p>藪の中を枝渡りしながら、葉の裏面につく昆虫を下から飛びつくように襲う。冬は熟したリンゴ、カキ等の果実を食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市の調査範囲において、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計16例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2例、改変の可能性のある範囲の近傍で7例、相当離れた地域で7例確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に市街地の小規模な林及び藪で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(52) 重要な鳥類の予測結果

ヤブサメ (スズメ目ウグイス科)		
一般生態	<p>日本海周辺地域で繁殖し、冬は東南アジア、台湾の南方で越冬する。日本には夏鳥として4月ごろ渡来し、屋久島から北海道までの全国各地に分布する。</p> <p>低山、丘陵の雑木林及びスギ林等の林床に藪及びササが密生に生い茂った暗い林に生息する。繁殖期は4月下旬～8月。灌木林及び落葉広葉樹林の地上に営巣し、巣は草又は樹木の根元、倒木の下等に多い。</p> <p>灌木の茂みの中及び広葉樹林の下草の中を活発に動き回り、植物につく昆虫の幼虫・成虫を捕食する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、春季、繁殖期、夏季及び秋季調査時に合計26例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で3例、改変の可能性のある範囲の近傍で10例、相当離れた地域で13例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認され、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(53) 重要な鳥類の予測結果

メボソムシクイ (スズメ目ムシクイ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸の高緯度地方のタイガベルト地帯で繁殖し、東南アジアに渡って冬を越す。日本では北海道、本州、四国に夏鳥として渡来して繁殖する。渡り期には各地で見られる。</p> <p>繁殖地は亜高山針葉樹林及び森林限界のダケカンバ林、日本海側ではブナ帯の上部で見られる。渡り期には低地及び低山帯のマツ林及び雑木林等で見られる。繁殖期は6～8月。巣は地上に作る事が多く、藓類が茂る窪み及び樹木の根の間等、うまく隠れた部分に置く。</p> <p>樹木の下枝から下枝へ移り伝わりながら葉及び枝の下側に飛びついて、周辺を飛んでいる虫及び止まっている虫をくわえとる。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計2例が確認された。</p> <p>川崎市においては、秋季調査時に1例、相当離れた地域で確認された。</p> <p>相模原市においては、秋季調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に市街地の緑地及び山地のスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <p>相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <p>相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 </p>

表 8-4-1-37(54) 重要な鳥類の予測結果

センダイムシクイ (スズメ目ムシクイ科)	
一般生態	<p>ウスリーから朝鮮半島及び日本にかけて繁殖し、東南アジアで越冬する。日本では夏鳥として渡来し、北海道から九州までの各地に分布する。</p> <p>主に低山帯の落葉広葉樹林に生息し、特に林床に低木及び藪の多いところを好む。渡りの時期には平野部でも見られる。産卵期は5～6月。草の根元及び崖の窪みに、枯れ葉、樹皮、イネ科の茎、コケ類等で、横に出入口のある球状の巣を作る。</p> <p>樹上で餌を求める事が多く、葉及び枝についている昆虫を捕食する。鞘翅類、膜翅類、双翅類等の昆虫の幼虫・成虫を主食にする。</p>
確認状況	<p>相模原市において、春季、繁殖期及び夏季調査時に合計23例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で4例、改変の可能性のある範囲の近傍で12例、相当離れた地域で7例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(55) 重要な鳥類の予測結果

オオヨシキリ (スズメ目ヨシキリ科)		
一般生態	<p>東アジア、中央アジア西部からヨーロッパ、アフリカ大陸北西部で繁殖し、東南アジア、アフリカ大陸の熱帯域に渡って越冬する。日本には夏鳥として、4月下旬ごろ北海道北・東部と沖縄を除く全国に渡来し、8～9月には渡去する。</p> <p>全国各地の水辺のヨシ原に生息し、海岸及び河口等の低地の湿原及び山地の湖岸及び川岸の湿地で普通に繁殖する。竹林に分布する地方もある。繁殖期は5～8月。ヨシの茎にイネ科の葉及び茎を用いて椀形の巣を作る。茎から茎へと移動しながら細く尖ったくちばしで昆虫を捕食する。</p>	
確認状況	川崎市において、繁殖期及び夏季調査時に合計3例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2例、相当離れた地域で1例確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川に隣接する草地で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(56) 重要な鳥類の予測結果

コヨシキリ (スズメ目ヨシキリ科)		
一般生態	<p>モンゴル、ウスリー、朝鮮半島、日本で繁殖し、インドシナ半島等東南アジアに渡って越冬する。日本には夏鳥として、4月下旬ごろ北海道、本州、九州に渡来する。九州及び本州中部では主に標高の高い草原に分布するが、少数は平地の草原にも生息する。北海道では平地の草地で普通に繁殖する。</p> <p>繁殖期は5月中旬～8月。ヨモギ、ヒメジオン等の丈の高くなる植物の茎に、イネ科の枯葉を主材料に用いて椀形の巣を作る。茎から茎へと移動しながら細く尖ったくちばしで昆虫を捕食する。</p>	
確認状況	相模原市において、繁殖期調査時に1例、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に河川に隣接する草地で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(57) 重要な鳥類の予測結果

セッカ (スズメ目セッカ科)		
一般生態	<p>熱帯・温帯で広く繁殖する。日本では沖縄県から秋田県にかけて生息するが、特に本州中南部に集中する。日本の多くの地方では夏鳥として繁殖する。</p> <p>低地から山地の草原、水田に生息し、チガヤ及びカルカヤのようにやや丈が低いイネ科が茂る草原を好む。海岸及び河口のやや湿った草原及び河原の草原に多い。繁殖期は4～9月中旬。巢は、チガヤ、ススキ、カルカヤといったイネ科の若葉をクモの糸で縫い合わせて、上部に穴のある楕円形に作る。</p> <p>植物の茎を移動しながら、昆虫、クモ類を食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計9例が確認された</p> <p>川崎市においては、春季、繁殖期、夏季及び秋季調査時に合計6例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1例、改変の可能性のある範囲の近傍で4例、相当離れた地域で1例確認された。</p> <p>相模原市においては、繁殖期調査時において3例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2例、相当離れた地域で1例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川に隣接する草地で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、確認位置は河川区域内のため工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、確認位置は河川区域内のため工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(58) 重要な鳥類の予測結果

カワガラス (スズメ目カワガラス科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸東部のウスリーから中国東部を経て、タイ北部、ヒマラヤに分布する。日本では北海道から本州、四国、九州、屋久島まで留鳥として繁殖する。</p> <p>低山帯から高山帯までの河川にすみ、川の上流部で岩及び大きい礫の間を清流がぬって流れるところを好む。繁殖期は3～6月だが、地域により違いがある。巢は水辺近くの岩の割れ目及び窪み、滝の裏側の岩のくぼみに作る。</p> <p>水生昆虫、特にトビケラ類、カワゲラ類、カゲロウ類等の幼虫を捕食する。小さい魚等も捕食する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、秋季調査時に4例で確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3例、相当離れた地域で1例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に河川で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(59) 重要な鳥類の予測結果

トラツグミ (スズメ目ヒタキ科)		
一般生態	シベリア東南部、日本、中国南部、オーストラリア大陸等に不連続に分布する。日本では全国的に分布し、積雪の多い地方のものは、冬に暖地の雑木林に漂行する。 丘陵から低山帯の山地の暗い広葉樹林及び針広混交林に分布する。繁殖期は4～8月。枝の上にコケ類及び枯れ枝で椀形の巣を作る。 両脚を交互にしてはね歩いたり、身体を低くしてすばやく走ったりして昆虫及びミミズをあさる。	
確認状況	相模原市において、冬季調査時に1例、改変の可能性のある範囲で確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(60) 重要な鳥類の予測結果

クロツグミ (スズメ目ヒタキ科)		
一般生態	中国北部と日本の2箇所で1亜種ずつが繁殖し、中国南部及びインドシナ半島に渡って越冬する。日本には夏鳥として渡来し、九州以北の各地に分布する。主に本州中部以北に分布する。 低山帯の林から標高1,000m以下の山地に生息するが、平地林での繁殖も確認されている。繁殖期は5～7月。木の枝の上に、コケ類、枯れ草及び土等を材料に椀形の巣を作る。 広葉樹林、スギ等の造林針葉樹林の地上をはね歩きながら採餌する。ミミズ及びゴミムシ等の昆虫のほか、植物ではヤマザクラ、ノブドウ、ヒサカキ等の果実を食する。	
確認状況	相模原市において、春季、繁殖期、夏季及び秋季調査時に合計35例で確認された。その内、改変の可能性のある範囲で8例、改変の可能性のある範囲の近傍で15例、相当離れた地域で12例確認された。	
確認地点の生息環境	本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(61) 重要な鳥類の予測結果

アカハラ (スズメ目ヒタキ科)	
一般生態	<p>本州中部以北の日本、サハリン、南千島だけで繁殖し、冬は本州中部以西から中国南部等に渡る。</p> <p>山地の明るい林、木が疎らに生えた環境を好み、カラマツ林及び草原と林が接するところに分布する。冬は暖地の林に移動する。繁殖期は5月中旬～8月。林縁及び道路わきの落葉広葉樹林、アカマツ、カラマツ、コメツガ、オオシラビソ等の亜高山針葉樹の枝先、又は幹に近い枝上に巣を作る。</p> <p>地上の落ち葉をはねのけて昆虫及びミミズをあさるが、木の実も好み、枝に残ったカキの実等をついばむ。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計3例が確認された。</p> <p>川崎市においては、冬季調査時に1例が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1例確認された。</p> <p>相模原市においては、秋季及び冬季調査時に2例が確認された。相当離れた地域で2例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(62) 重要な鳥類の予測結果

ルリビタキ (スズメ目ヒタキ科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸の高緯度地方のタイガベルトとヒマラヤで繁殖し、中国南部と東南アジアで越冬する。日本では四国、本州中部以北と北海道で繁殖し、冬は低地及び西南日本ですごす。</p> <p>繁殖期には四国及び本州では亜高山針葉樹林、北海道では亜寒帯針葉樹林にすむ。冬は本州中部以南の低山帯のマツ林及び針広混交林で見られる。繁殖期は5～8月。巣は、岩の間及び下、樹木の根の間及び下等の、穴蔵のような隠れたところを選ぶ。</p> <p>樹林内の下層部と林床部で虫を採食するほか、秋にはコシアブラ等の小型の果実を好んで食する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、冬季調査時に15例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で4例、改変の可能性のある範囲の近傍で6例、相当離れた地域で5例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主にスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(63) 重要な鳥類の予測結果

コサメビタキ (スズメ目ヒタキ科)	
一般生態	<p>ヒマラヤ、シベリア南部から中国東北部及び朝鮮半島等で繁殖し、インドから中国南部、ボルネオ島等に渡って越冬する。日本には夏鳥として4月ごろ渡来し、北海道から九州までの全国各地に分布する。</p> <p>平地から標高1,000mぐらいまでの落葉広葉樹林、雑木林、カラマツ林に生息し、密生した林より明るい林を好む。繁殖期は5～7月。高木の葉がない水平な枝の上に樹皮等で椀形の巣を作る。</p> <p>木の枝にじっと止まり、空中を飛ぶチョウ、ガ、ウンカ、アブ等の昆虫をフライングキャッチ法で捕食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において、合計9例で確認された。</p> <p>川崎市においては、秋季調査時に1例、相当離れた地域で確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、繁殖期、夏季及び秋季調査時に合計8例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で4例、相当離れた地域で4例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、本種は相当離れた地域で確認され、工事の実施による生息環境の改変はない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 ・相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 ・相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(64) 重要な鳥類の予測結果

キビタキ (スズメ目ヒタキ科)	
一般生態	<p>アジア東北部で繁殖し、冬はフィリピン、インドシナ半島、ボルネオ島等に渡って越冬する。日本には夏鳥として渡来し、ほぼ全国的に分布する。丘陵及び山地の常緑樹林、落葉樹林、針広混交林に生息する。薄暗い林を好み、木がある程度大きく樹冠の下に空間があり、中層から下層がある程度茂った林内に生息する。繁殖期は5～8月。巣は樹洞及び樹木の裂け目、茂った葉及び蔓の間等に、落葉広葉樹の枯れ葉、枯れ草、コケ類及び細根等を用いて深い椀形を作る。</p> <p>林の中層の枝に止まり、木の葉の裏面にいる虫及び空中を飛翔する昆虫を狙って捕食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計100例以上が確認された。</p> <p>川崎市においては、秋季調査時に2例が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で2例確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、繁殖期、夏季及び秋季調査時に合計100例以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で21例、改変の可能性のある範囲の近傍で46例、相当離れた地域で37例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(65) 重要な鳥類の予測結果

オオドリ (スズメ目ヒタキ科)	
一般生態	<p>中国東北部、ウスリー、朝鮮半島及び日本で繁殖し、インドシナ半島から大スンダ列島、フィリピン等に渡って越冬する。日本には夏鳥として4月下旬ごろ渡来し、南西諸島を除く北海道から九州までの全国各地に分布する。</p> <p>主として低山帯から亜高山帯にかけての山地及び丘陵に生息し、特に溪流沿いのよく茂った林に多い。繁殖期は5～8月。崖地、溪流近くの落葉広葉樹林内の岩又は土の崖地に営巣する。</p> <p>枝先から谷間の上空に飛び出し、フライングキャッチ法で空中を飛ぶチョウ、ガ、ウンカ、アブ、羽化した水生昆虫等を捕食する。</p>
確認状況	<p>相模原市において、春季、繁殖期、夏季及び秋季調査時に合計16例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2例、改変の可能性のある範囲の近傍で9例、相当離れた地域で5例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主にスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(66) 重要な鳥類の予測結果

キセキレイ (スズメ目セキレイ科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸の中緯度地方とアフリカ大陸南部に分布する。日本では北海道、本州、四国、九州と周辺の島々の繁殖し、冬は本州以南、琉球諸島にかけて越冬する。各地に留鳥又は漂鳥として普通に見られる。</p> <p>低地、低山地に多く、亜高山帯から高山帯にまで現れる。小さな水路から大きい川まで水辺をすみかにし、特に山麓及び山間の溪流、あるいは清流の多い集落に好んですみつく。繁殖期は4～8月。巢は崖の窪み及び樹木の幹に近い枝の上に作る。</p> <p>地上及び水辺を歩きながら、昆虫類、特に双翅類、脈翅類、カゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類等をよく食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計73例が確認された。</p> <p>川崎市においては、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計5例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2例、相当離れた地域で3例確認された。</p> <p>相模原市において、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計68例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で12例、改変の可能性のある範囲の近傍で29例、相当離れた地域で27例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、河原及び市街地等様々な環境で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(67) 重要な鳥類の予測結果

セグロセキレイ (スズメ目セキレイ科)	
一般生態	<p>日本列島だけに分布する固有種で、北海道、本州、四国、九州で留鳥として繁殖し、対馬、伊豆諸島、奄美大島には冬鳥として現れる。</p> <p>低地、低山帯、ときには亜高山帯の河川とその周辺にすむ。河原のある河川にすみ、河原のない溪流及び峡谷では見られない。繁殖期は3～7月。巣は川の土手の窪み、河原の石、流木の下、人家の石垣や屋根及び河原の隙間等に作る。</p> <p>ほとんど昆虫食で、トビケラ類、カワゲラ類、カゲロウ類、双翅類等の幼虫・成虫を食べ、ときには靱等の種子も食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計82例が確認された。</p> <p>川崎市においては、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計9例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2例、相当離れた地域で7例確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計73例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で12例、改変の可能性のある範囲の近傍で40例、相当離れた地域で21例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、河原、市街地及び山地の樹林等様々な環境で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(68) 重要な鳥類の予測結果

ビンズイ (スズメ目セキレイ科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸東部の温帯・亜寒帯に分布する。日本では本州中部の山地から北海道にかけて繁殖する。冬は本州中部以南に南下して暖地で越冬する。</p> <p>北海道及び東北地方北部では、海岸近くから山地まで普通に見られるが、その他の地方では山地に限られる。本州中部では、比較的標高の高い山地の明るい林、林縁、草生地等に生息する。繁殖期は5～8月。巢は林縁の草の根元、崖、土手の窪み等にある例が多い。</p> <p>夏は動物質の昆虫を主要食にし、冬は主に植物の種子をついばむ。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、春季及び冬季調査時に合計8例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2例、改変の可能性のある範囲の近傍で4例、相当離れた地域で2例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林に隣接する草地で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(69) 重要な鳥類の予測結果

カワラヒワ (スズメ目アトリ科)	
一般生態	<p>中国、ウスリー・アムール川流域、モンゴル、朝鮮半島、日本等に分布する。日本では、北海道から九州までの全域に分布する。主に留鳥として年中生息するが、北海道及び雪の多い地方では夏鳥で、冬は温暖な地方に移動する。</p> <p>人家周辺、農耕地、雑木林、河原に生息する。繁殖期には、平地から低山帯のいろいろな林で見られるが、針葉樹林を好む。繁殖期は3～7月。巢はスギ、ヒノキ、マツ、サワラ、モミ等の樹木に作る。非繁殖期には主な生息地を河原に移す。</p> <p>四季を通して、キク科、イネ科、タデ科、マメ科等の植物の種子だけを食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計100例以上が確認された。</p> <p>川崎市においては、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計67例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1例、改変の可能性のある範囲の近傍で33例、相当離れた地域で33例確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、繁殖期、夏季、秋季及び冬季調査時に合計100例以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で60例、改変の可能性のある範囲の近傍で98例、相当離れた地域で66例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、河原、市街地及び山地の樹林等様々な環境で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(70) 重要な鳥類の予測結果

ベニマシコ (スズメ目アトリ科)		
一般生態	ユーラシア大陸の中緯度地方の東半分に分布する。日本では北海道と本州の北端の下北半島で夏鳥として繁殖する。本州以南では冬鳥である。低山帯の林縁、疎林、農耕地及び川辺等藪の多いところで見られる。繁殖期は5～7月。巣は地上80cm～170cmくらいの低木及び藪の小枝に載せるように、枯れ草、樹皮、細根等で椀形を作る。昆虫、果実、種子、木の芽等を食する。	
確認状況	川崎市の調査範囲において、冬季調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。	
確認地点の生息環境	本種は、河原、市街地及び山地の樹林等様々な環境で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(71) 重要な鳥類の予測結果

ウソ (スズメ目アトリ科)		
一般生態	ユーラシア大陸の亜寒帯に分布する。日本に分布する亜種(ウソ)は本州中部以北の亜高山帯針葉樹林帯から北海道にかけて繁殖し、冬鳥として渡来する別亜種(アカウソ)は本州中部以南で普通に見られ、ウソと同一の群れにすることも多い。繁殖期は亜高山帯及び平地に生息し、冬は山地、丘陵地及び市街地の公園等に移動する。繁殖期は5～8月。巣は亜高山帯の針葉樹の地上から高さ1～3mくらいのところに枯れ草及びサルオガセ等で椀形の巣を作る。樹上でモモ、サクラ、ウメといった植物のつぼみ、若芽をついばむ。	
確認状況	川崎市の調査範囲において、冬季調査時に5例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3例、相当離れた地域で2例確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。	
確認地点の生息環境	本種は、河原、市街地及び山地の樹林等様々な環境で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-37(72) 重要な鳥類の予測結果

アオジ (スズメ目ホオジロ科)	
一般生態	<p>ユーラシア大陸東部のバイカルからウスリーを経て、日本列島、中国中央部に分布する。日本では本州の中部以北、北海道に分布する。冬は本州西南部、四国、九州から台湾、中国南部です。</p> <p>山地帯上部から亜高山下部にかけての比較的明るい林にすみ、疎林で藪が多いところ、林縁、若木林等を好む。繁殖期は5～7月。巣は地上1～2mぐらいの藪の中の枝の又上に乗せるように作る。越冬地では常緑樹林の林縁、人家の生垣、竹林、溝、河川の堤防沿いの藪及びヨシ原等で見られる。タデ科、イネ科等の種子、ズミ、イボタノキ等の果実のほか、夏には昆虫の幼虫・成虫も食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計100例以上が確認された。</p> <p>川崎市においては、春季及び冬季調査時に合計22例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1例、改変の可能性のある範囲の近傍で12例、相当離れた地域で9例確認された。</p> <p>相模原市においては、春季及び冬季調査時に合計100例以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で35例、改変の可能性のある範囲の近傍で40例、相当離れた地域で52例確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に樹林及び草地で確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(73) 重要な鳥類の予測結果

クロジ (スズメ目ホオジロ科)		
一般生態	<p>カムチャッカ半島南部から日本列島までに限られて分布し、日本では本州中部以北と北海道に分布する。本州では日本海側の山地に分布が偏っている。冬は本州西南部から南西諸島に渡って過ごす。</p> <p>低山帯上部から亜高山帯下部にかけての落葉広葉樹林、針広混交林、針葉樹林にすむ。原生林及び二次林にいるが、樹林に覆われたササ藪が密生しているところを好む。繁殖期は5～8月。巣は、地上1～2mぐらいの藪の中及びササの稈の重なり等の上に乗せるように作る。越冬地では常緑樹林及びスギ林に潜み、林縁に出てくる。</p> <p>藪、特にササ藪の下の地上で採食する。タデ科、イネ科等の草の種子のほか、残雪の上でトビムシをついばむこともある。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計27例が確認された。</p> <p>川崎市において、冬季調査時に1例、相当離れた地域で確認された。</p> <p>相模原市においては、春季及び冬季調査時に合計26例が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で7例、改変の可能性のある範囲の近傍で16例、相当離れた地域で3例確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に落葉広葉樹林及びスギ・ヒノキ植林で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失されるが、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-37(74) 重要な鳥類の予測結果

オオジュリン (スズメ目ホオジロ科)		
一般生態	<p>ユーラシア大陸の中・高緯度地方に広く分布し、冬はユーラシア大陸南部等に渡って過ごす。日本では北海道で夏鳥として繁殖し、本州以南には冬鳥として渡来する。</p> <p>湿地帯とその周辺の草原にすむ。繁殖期は5～7月。巣は草株の根本の地上、草株の上及び藪の小枝の中等に置くように作る。</p> <p>ヨシ原の地上及び茎で、ヨシの茎の葉鞘をむしったり、はぎとったりして越冬中のワタムシ類をとり出して採食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市において、冬季調査時に1例、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>本種は、主に樹林及び草地で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の改変はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

c) 重要な爬虫類

予測地域に生息地が存在すると考えられる重要な爬虫類の予測結果は、表 8-4-1-38 に示す。

表 8-4-1-38(1) 重要な爬虫類の予測結果

ニホンスッポン (カメ目スッポン科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州等に分布する。 主に河川の中流から下流にかけて、平地の池沼等の砂泥質の場所に生息する。 春先の4~6月に繁殖し、6~8月に産卵する。 肉食性で魚類、貝類、甲殻類及び水生昆虫等さまざまな小動物を食する。日光浴も行い、川等では中州に上陸している姿を見かける。古くから養殖されてきたため人為的な移殖が多く、また海外からの移入も少なくないために交雑が進んでいる可能性がある。</p>
確認状況	川崎市において、夏季及び秋季調査時に合計2地点3個体が確認された。相当離れた地域で2地点3個体確認された。
確認地点の生息環境	確認地点は、河川及び池であった。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の変化は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-38(2) 重要な爬虫類の予測結果

ニホンヤモリ (有鱗目ヤモリ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州等に分布する。 民家及び寺院等の建物でよく見かける。都市部のマンションにもいる。 5月上旬~8月上旬、戸袋及び壁の隙間、天井裏等に2~3個、年に1~2回産卵する。産卵直後の卵塊は柔らかく粘り気があり、壁及び柱に付着してそのまま固まる。 昼間は姿を隠しているが、夜間、灯火の周辺に出現し、集光性の昆虫及びクモ等を食する。春先には昼間で日光浴をしていることもある。</p>
確認状況	川崎市の調査範囲において、春季、夏季及び秋季調査時に合計11地点27個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点5個体、相当離れた地域で8地点22個体確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。
確認地点の生息環境	確認地点は、大部分が道路脇の擁壁にあるパイプ内であった。確認地点の周囲は民家が近くにあるような人工的な環境であり、周辺にも同様な環境は広がっていた。
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-38(3) 重要な爬虫類の予測結果

ヒガシニホントカゲ (有鱗目トカゲ科)		
一般生態	伊豆半島を除く本州東部、北海道の各地と周辺の島に分布する。庭、畑、道路脇の斜面、林縁部、石垣及び山道にすむ。繁殖期の4～5月、雄にはオレンジ色の婚姻色が現れる。5月下旬～6月上旬、石の下及び土手の斜面の巣穴に鶏卵型の卵を5～16個産む。ミミズ、クモ、ワラジムシ、コオロギを主に食する。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計66地点で確認された。川崎市においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計52地点58個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2地点2個体、改変の可能性のある範囲の近傍で19地点21個体、相当離れた地域で31地点35個体確認された。相模原市においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計14地点14個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で5地点5個体、改変の可能性のある範囲の近傍で8地点8個体、相当離れた地域で1地点1個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、低茎草地を主体に広葉樹林、駐車場等の人工的な環境等様々であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により主な生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながらその面積は小さく、周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により主な生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-38(4) 重要な爬虫類の予測結果

ニホンカナヘビ (有鱗目カナヘビ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州等に分布する。平地から低山地の藪、草地及び庭先等にすむ。繁殖期は3～9月。繁殖は春先からはじまる。主に昆虫及びクモを食する。夜は草の上及び落葉の下で休む。	
確認状況	川崎市の調査範囲において、春季、夏季及び秋季調査時に合計9地点10個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で8地点9個体確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。	
確認地点の生息環境	確認地点は、低茎草地、畑等であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-38(5) 重要な爬虫類の予測結果

アオダイショウ (有鱗目ナミヘビ科)	
一般生態	<p>北海道、本州、四国、九州等に分布する。 山地の森林から平野部の人家まで、さまざまな環境にすむ。 5～6月に繁殖を行う。 成蛇は主にネズミを食する。地上より樹上で見つかることが多く、鳥及び鳥の卵も好むようである。幼体は食性が広く、カエル及びトカゲ等も食べ、水田等で見かけることも多い。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計18地点で確認された。 川崎市においては、春季調査時に2地点2個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点1個体確認された。 相模原市においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計16地点17個体が確認された。改変の可能性のある範囲で2地点2個体、改変の可能性のある範囲の近傍で10地点11個体、相当離れた地域で4地点4個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川及び沢沿いの低茎草地、排水パイプ内及び樹林沿いの道路上等であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による主な生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、主な生息環境である森林等の一部が縮小・消失する可能性があるが、周辺には同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-38(6) 重要な爬虫類の予測結果

シマヘビ (有鱗目ナミヘビ科)	
一般生態	<p>北海道、本州、四国、九州等に分布する。 開けた平地から山地、水田、山道、草原、畑、民家等で普通に目にする。日の当たる石垣、草原及び道路脇等では特に目にする機会が多い。 4～6月に繁殖する。生まれたての幼体は赤褐色しており、縦条ではなく横帯が入る。 主に地表で活動し、昼間にカエルをはじめ、トカゲ、ネズミ、ヘビ等、さまざまな動物を捕食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計12地点で確認された。 川崎市においては、夏季及び秋季調査時に合計4地点4個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点3個体、相当離れた地域で1地点1個体確認された。 相模原市においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計8地点8個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2地点2個体、改変の可能性のある範囲の近傍で4地点4個体、相当離れた地域で2地点2個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、低茎草地を主体として、畑、民家の周辺等であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による主な生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、主な生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性があるが、周辺には同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-38(7) 重要な爬虫類の予測結果

ヒバカリ (有鱗目ナミヘビ科)	
一般生態	<p>北海道、本州、四国、九州等に分布する。 森林から平地まで幅広い環境に生息するが、特に水田及び湿地等に多い。</p> <p>5～6月に繁殖を行い、産卵は初夏に行われる。 カエル成体及び幼生、ドジョウ等の小魚、ミミズ等を食する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計4地点で確認された。 川崎市においては、秋季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。</p> <p>相模原市においては、夏季及び秋季調査時に合計3地点3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点2個体、相当離れた地域で1地点1個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、湿地、低茎草地であった。</p>
予測結果	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による主な生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により主な生息環境である草地及び水辺等の一部が縮小・消失する可能性があるが、周辺には同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-38(8) 重要な爬虫類の予測結果

ヤマカガシ (有鱗目ナミヘビ科)		
一般生態	<p>本州、四国、九州等に分布する。 平地の水田、小川及び湿地等に多く、山地から平地まで生息、最も普通に見られる。 産卵は6~8月である。 カエル類を主に食べているが、カエルの幼生及びドジョウ等の小魚、大型の個体ではヒキガエルのような大きなカエルも食する。 動きは敏捷でよく水に入り、主に昼間に活動している。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計16地点で確認された。 川崎市においては、夏季及び秋季調査時に合計2地点2個体が確認された。相当離れた地域で2地点2個体確認された。 相模原市においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計14地点15個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で6地点7個体、相当離れた地域で8地点8個体確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、池、湿地、水田等の水域、高茎草地及び広葉樹林であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による主な生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事に実施により主な生息環境である草地及び水辺等の一部が縮小・消失する可能性があるが、周辺には同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-38(9) 重要な爬虫類の予測結果

ニホンマムシ (有鱗目クサリヘビ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州等に分布する。 森林から平野の田畑まで広く生息する。森林及び藪等の林床、田畑、林道脇等で目にする機会が多く、水辺には特に多い。 胎生で、8～10月に5～6匹の幼体を産む。 カエル及びネズミをはじめ、他のヘビ及びトカゲ等、さまざまな小型動物を食する。普段は夜行性であるが、冬眠前後（春と秋）と夏の妊娠雌は昼間に活動する。	
確認状況	相模原市において、春季及び秋季調査時において合計2地点2個体が確認された。改変の可能性のある範囲で1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、いずれも道路上であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により主な生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性があるが、周辺には同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

d) 重要な両生類

予測地域に生息地が存在すると考えられる重要な両生類の予測結果は、表 8-4-1-39 に示す。

表 8-4-1-39(1) 重要な両生類の予測結果

アカハライモリ (有尾目イモリ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州等に分布する。</p> <p>池・水田・湿地等の水中に多い。林道の側溝等でも見られる。基本的に流れのある川には生息しないが、大きな川でも川岸のたまり水で見ることがある。</p> <p>春から初夏にかけて、水中の草、枯れ葉等に1卵ずつ産卵する。粘着性のある卵を葉の間に産卵、付着させる。ふ化した幼生はバランサーをもっている。</p> <p>非常に貪食で、動物質なら種類は選ばず食する。</p> <p>なお、竹内ら(2008)によると、平均移動距離は17.23mである。また、小林ら(2009)によると、最も遠くまで移動したものは45mである。</p>
確認状況	<p>相模原市において、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計26地点60個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で4地点7個体、改変の可能性のある範囲の近傍で8地点19個体、相当離れた地域で14地点34個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川及びその周辺の水域、池、湿地であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域において確認されており、工事の実施により主な生息環境である湿地等は一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があると予測する。(鳥屋地区)
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-39(2) 重要な両生類の予測結果

アズマヒキガエル (無尾目ヒキガエル科)	
一般生態	<p>近畿以東の本州、中国及び紀伊半島の一部に分布する。 生息場所は広く、海岸から高山まで広範囲に及び、都市部の公園及び人家の庭等でも確認できる。 繁殖期は2~7月頃と地域及び標高によりばらつきがある。産卵期には比較的狭い産卵場所に多数の個体が集まり雌の奪い合いをする。繁殖期間の長さは地域により差があり、それぞれの繁殖地できわめて短い期間に産卵が行われる。 なお、Kusanoら(1995)によると、分散距離は生まれた池からの直線距離で27mから260mで、大半は200m以内である。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計35地点で確認された。 川崎市においては、早春季、春季及び秋季調査時に合計6地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点100個体以上、相当離れた地域で3地点100個体以上確認された。 相模原市においては、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計29地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で12地点100個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍で8地点100個体以上、相当離れた地域で9地点100個体以上確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、池及びたまり等の止水域の他に湿地、低茎草地であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による主な生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の生息環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋地区)
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-39(3) 重要な両生類の予測結果

ニホンアマガエル (無尾目アマガエル科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州等に分布する。 海岸付近から高山帯、市街地から草原まで生息している。吸盤が発達しており、地上から草木の上までと活動場所は多様である。 繁殖期は3～9月と地域及び環境により異なる。産卵には、水田、沼、湿地及び雨後の水たまり等の止水が利用される。	
確認状況	川崎市の調査範囲において、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計10地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で5地点100個体以上、相当離れた地域で5地点100個体以上確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。	
確認地点の生息環境	確認地点は、水田、草地、樹林等様々な環境であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による主な生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-39(4) 重要な両生類の予測結果

ツチガエル (無尾目アカガエル科)		
一般生態	北海道西部、本州、四国、九州等に分布する。 海水がかかる水溜まり、水田、湿地、河川及び山間部の溪流等の水辺周辺に生息する。 繁殖期は5～9月で、雌は水草及び水中の枝等に小さな卵塊をいくつも産み付ける。海岸近くでは海水が流入するような水溜まりで産卵することもある。幼生の一部はその年の秋までに変態するが、越冬し翌年変態する個体もいる。成体は泥の中で越冬する。	
確認状況	相模原市において、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計32地点93個体が確認された。改変の可能性のある範囲で4地点9個体、改変の可能性のある範囲の近傍で6地点9個体、相当離れた地域で22地点75個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川敷、水田、池等であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により主な生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周囲には同質の生息環境は広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-39(5) 重要な両生類の予測結果

シュレーゲルアオガエル (無尾目アオガエル科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州等に分布する。 水田、丘陵部から高山部まで生息している。 繁殖期は生息環境で異なり、2～8月、普通は4～6月である。水田の畦及び池及び沼の周辺の土中に白い泡状の卵塊を産み付ける。岩の割れ目及び水辺の草の上に産卵する場合もある。暗褐色から鮮やかな緑色をした小型のカエル。鳴き声が聞こえても、地中、草陰及び石の隙間等に隠れているため、姿は見えないことが多い。四肢の指には発達した吸盤がある。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計19地点で確認された。 川崎市においては、春季及び夏季調査時に合計6地点32個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点11個体、相当離れた地域で4地点21個体確認された。 相模原市においては、春季及び夏季調査時に合計13地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で4地点15個体、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点7個体、相当離れた地域で6地点100個体以上確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川敷、水田、池等であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による主な生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により主な生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があると予測する。(烏屋地区)
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-39(6) 重要な両生類の予測結果

モリアオガエル (無尾目アオガエル科)		
一般生態	<p>本州、佐渡島、四国に分布する。 水田、丘陵部から高山帯まで生息している。 繁殖期は4~7月で、水田の畦、林道の水たまり、池及び沼の周辺の樹木の枝先に白い泡状の卵塊を産み付ける。道路の側溝及び人家の貯水槽等で産卵する場合もある。暗褐色から緑色をした中型のカエルである。 なお、徳江ら(2011)によると、本種の移動距離は、平均80mで最大125mである。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、春季及び夏季調査時に合計32地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で10地点17個体、改変の可能性のある範囲の近傍で14地点100個体以上、相当離れた地域で8地点100個体以上確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、集水マス、池等の止水域が主体であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により主な生息環境である水辺等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺には同質の環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-39(7) 重要な両生類の予測結果

カジカガエル (無尾目アオガエル科)		
一般生態	<p>本州、四国、九州に分布する。 平野部から山地の河川及び溪流周辺に生息している。 繁殖期は4~8月で、溪流中の岩石及び瀬の転石等の下に潜って卵塊を産み付ける。幼生は川底の岩等についた藻類を食べて成長する。成体は繁殖期以外は河川の周辺の草原及び森林で生活する。 なお、本種の行動圏は十分に知られていないが、千田ら(2006)によると、繁殖期は河川の縦断方向に5.3~80m、横断方向に3~7mの移動を確認しており、雄は水際から全く離れず、雌も水面から10m以内に滞在する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計42地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で5地点18個体、改変の可能性のある範囲の近傍で23地点69個体、相当離れた地域で14地点35個体確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>河川で確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により主な生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺には同質の環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

e) 重要な昆虫類

予測地域に生息地が存在すると考えられる重要な昆虫類の予測結果は、表 8-4-1-40 に示す。

表 8-4-1-40(1) 重要な昆虫類の予測結果

イシワタマダラカゲロウ (カゲロウ目マダラカゲロウ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 河原の広い河川中・下流域に生息する。 成虫は初夏に出現する。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計13地点で確認された。 川崎市においては、春季調査時に合計1地点2個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。 相模原市においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計12地点20個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で8地点10個体、相当離れた地域で4地点10個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川の瀬及び水際植生等であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍において確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により、生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(2) 重要な昆虫類の予測結果

ホソミイトトンボ (トンボ目イトトンボ科)		
一般生態	石川、栃木県以南の本州、四国、九州に分布する。 平地及び丘陵地の挺水植物及び沈水植物が茂る池沼及び湿地の滞水・水田等に生息するが、成虫は水辺を離れ、林内等に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫の夏型は7月上旬～12月上旬、越冬型は8月下旬から翌年の6月下旬まで見られる。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、林道沿いの林縁部であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 河川周辺が幼虫の生息地となっている可能性も考えられるが、工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境の改変はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(3) 重要な昆虫類の予測結果

クロイトトンボ (トンボ目イトトンボ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 平地及び丘陵地の挺水植物等が茂る池沼等に生息する。また、公園の池等にも見られる。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は4月下旬～10月上旬まで見られる。 なお、徳江ら(2011)によると、同じイトトンボ亜科のアジイトトンボの移動距離は最大約700mである。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に合計1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、糸状藻類が生育し水際にイネ科草本及び低木が茂る開放的な池であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(4) 重要な昆虫類の予測結果

ハグロトンボ (トンボ目カワトンボ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州に分布する。 幼虫は主に平地及び丘陵地の挺水植物及び沈水植物が茂る緩やかな流れに生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は5月下旬～10月中旬まで見られる。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計6地点で確認された。 川崎市においては、春季及び夏季調査時に合計5地点24個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点3個体、相当離れた地域で2地点21個体が確認された。 相模原市においては、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、成虫は河川低水敷のヤナギ類を主体とした河畔林内及び周辺の草地、幼虫は河川の水際植生であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(5) 重要な昆虫類の予測結果

ニホンカワトンボ (トンボ目カワトンボ科)	
一般生態	<p>東日本に分布する。 幼虫は平地から山地にいたる清流に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は、4月下旬～8月中旬まで見られる。</p>
確認状況	<p>相模原市において、春季調査時に合計4地点で4個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点1個体、相当離れた地域で3地点3個体であった。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、ツルヨシが生息する開けた河川及び沢であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が改変する可能性があるが、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(6) 重要な昆虫類の予測結果

ヤマサナエ (トンボ目サナエトンボ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 幼虫は主に平地及び低山地の上流域の比較的緩やかな流れに生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は4月上旬～7月上旬まで見られる。	
確認状況	相模原市において、秋季及び冬季調査時に合計2地点で3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点2個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川及び湿地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性があるが、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(7) 重要な昆虫類の予測結果

オナガサナエ (トンボ目サナエトンボ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 幼虫は主に平地及び丘陵地の清流に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は6月上旬～8月下旬まで見られる。	
確認状況	川崎市の調査範囲において、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。	
確認地点の生息環境	確認地点は河川水際の礫地であった。確認地点の周囲は砂礫底の河川の水際に礫質の低水敷が広がっており、周辺にも同様の環境が広がっていた。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(8) 重要な昆虫類の予測結果

ヒメサナエ (トンボ目サナエトンボ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州に分布する。 幼虫は主に山間の溪流及び河川の上・中流域に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は5月下旬～9月中旬まで見られる。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計23地点で確認された。 川崎市においては、冬季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。 相模原市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計22地点49個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で5地点7個体、改変の可能性のある範囲の近傍で10地点23個体、相当離れた地域で7地点19個体が確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川の平瀬の礫底であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(9) 重要な昆虫類の予測結果

オオルリボシヤンマ (トンボ目ヤンマ科)		
一般生態	北海道、本州、九州に分布する。 寒冷な地域の湿原及び植物が生い茂る泥炭地の池沼等に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は6月中旬～11月上旬まで見られる。 なお、徳江ら(2011)によると、同じヤンマ科のアオヤンマの移動距離は平均2,260mで最大3,047mである。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に合計4地点で14個体が確認された。その内、相当離れた地域で4地点14個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、山間の落葉落枝が堆積した池及び糸状藻類が生育した開放的な池であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(10) 重要な昆虫類の予測結果

コシボソヤンマ (トンボ目ヤンマ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 幼虫は主に平地及び丘陵地の木陰の多い流れに生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は6月下旬から9月下旬まで見られる。 なお、徳江ら(2011)によると、同じヤンマ科のアオヤンマの移動距離は平均2,260mで最大3,047mである。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計47地点で確認された。 川崎市においては、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。 相模原市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計46地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で7地点18個体、改変の可能性のある範囲の近傍で23地点100個体以上、相当離れた地域で16地点50個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川のツルヨシ等の水際植生であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(11) 重要な昆虫類の予測結果

ミルンヤンマ (トンボ目ヤンマ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 幼虫は、山間地の流れの緩やかな河川の砂泥質の川底に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は6月中旬～11月中旬頃まで見られる。 なお、徳江ら(2011)によると、同じヤンマ科のアオヤンマの移動距離は平均2,260mで最大3,047mである。	
確認状況	相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計78地点で100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で22地点34個体、改変の可能性のある範囲の近傍で36地点60個体、相当離れた地域で20地点30個体を確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川及び沢の緩流部の落ち葉だまり及びイネ科草本等の水際植生であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失される可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(12) 重要な昆虫類の予測結果

コヤマトンボ (トンボ目エゾトンボ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州に分布する。 幼虫は主に丘陵地及び低山地の砂礫底等の河川に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は4月中旬～7月下旬まで見られる。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計35地点で確認された。 川崎市においては、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。 相模原市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計34地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で7地点10個体、改変の可能性のある範囲の近傍で16地点74個体、相当離れた地域で11地点31個体が確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川の緩流部の落ち葉だまり及びイネ科草本等の水際植生であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失される可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(13) 重要な昆虫類の予測結果

タカネトンボ (トンボ目エゾトンボ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 幼虫は主に丘陵地から山地の森林におおわれた、植物性沈積物の多い池沼に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は5月中旬～10月中旬まで見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季、秋季及び冬季調査時に合計7地点で26個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で6地点25個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、落葉落枝が堆積した池及び沢沿いの林縁部であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(14) 重要な昆虫類の予測結果

コフキトンボ (トンボ目トンボ科)		
一般生態	国内のほぼ全域に分布する。 幼虫は主に平地のヨシ、マコモ等が茂る池沼及び湿地等に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は5月中旬～10月上旬まで見られる。	
確認状況	川崎市において、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は河川のワンドで、周囲は水際にヨシ及びミズソバ等が繁茂していた。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(15) 重要な昆虫類の予測結果

シオヤトンボ (トンボ目トンボ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 幼虫は主に平地から低山地の挺水植物がしげる湿地及び休耕地等に分布する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は3月下旬～8月下旬まで見られる。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計19地点で確認された。 川崎市においては、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。 相模原市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計18地点46個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で10地点17個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点3個体、相当離れた地域で7地点26個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、成虫は休耕地及び沢沿いにみられた湿地、幼虫は河川水際の浅瀬であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の生息環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性がある。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(16) 重要な昆虫類の予測結果

ナツアカネ (トンボ目トンボ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 平地から低山地の植物が茂る池、湿地及び水田等に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は6月上旬～12月中旬まで見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に合計10地点で42個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で6地点32個体、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点9個体、相当離れた地域で1地点1個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河畔林の林縁であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(17) 重要な昆虫類の予測結果

マユタテアカネ (トンボ目トンボ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 平地から低山地の植物が茂る池、湿地及び水田等に生息する。林縁等の木陰のある環境を好む。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は6月中旬～12月上旬まで見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に合計7地点12個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で5地点10個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、成虫は河畔林の林縁、羽化殻は落葉落枝が堆積した池であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(18) 重要な昆虫類の予測結果

ヒメアカネ (トンボ目トンボ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 平地から低山地の丈の低い植物が茂る滲出水のある湿地及び休耕地等に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は5月下旬～12月中旬まで見られる。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に合計5地点で15個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で3地点13個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点1個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は湿地等であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により主な生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の生息環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(19) 重要な昆虫類の予測結果

ミヤマアカネ (トンボ目トンボ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 幼虫は主に丘陵地等の水田及び湿原の流れ等に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は6月下旬～12月上旬まで見られる。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計23地点で確認された。 川崎市においては、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。 相模原市においては、夏季及び秋季調査時に合計22地点40個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で8地点15個体、相当離れた地域で13地点24個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は河川敷、草地、林縁部等であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(20) 重要な昆虫類の予測結果

リスアカネ (トンボ目トンボ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 丘陵地及び低山地の森林におおわれた池沼に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は6月下旬～12月上旬まで見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に合計3地点で6個体が確認された。その内、相当離れた地域で3地点6個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、落葉落枝が堆積した池であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境等の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(21) 重要な昆虫類の予測結果

ヒガシキリギリス (バッタ目キリギリス科)	
一般生態	<p>本州に分布する。 チガヤ等がよく茂った草原に生息する。 成虫は7～9月に見られる。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、徳江ら（2011）によると、同じバッタ目のクツワムシの移動距離は最大約100mである。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計4地点で確認された。 川崎市においては、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。 相模原市においては、夏季調査時に3地点30個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点6個体、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点24個体が確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川に隣接した草地及び耕作地に隣接する草地であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(22) 重要な昆虫類の予測結果

オナガササキリ (バッタ目キリギリス科)		
一般生態	本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 平地、丘陵地のチガヤ等がよく茂った草地及び水田に生息する。 イネ科植物を好んで食する。 成虫は7月頃から出現する。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計28地点で確認された。 川崎市においては、夏季及び秋季調査時に合計2地点3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点2個体が確認された。 相模原市においては、秋季調査時に合計26地点66個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で14地点21個体、改変の可能性のある範囲の近傍で10地点43個体、相当離れた地域で2地点2個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、耕作地脇の草地及び河川敷の草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の生息環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(23) 重要な昆虫類の予測結果

ササキリモドキ (バッタ目ササキリモドキ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 照葉樹林帯の明るい林縁のクズ等のマント群落に生息する。 成虫は8月から11月に出現する。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、林縁付近の草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40 (24) 重要な昆虫類の予測結果

カヤコオロギ (バッタ目マツムシ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 河川敷及び明るい林内のイネ科草本があるところに生息する。 成虫は秋に出現する。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に合計5地点で5個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で3地点3個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点1個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、耕作地脇の草地等であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の生息環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性がある。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40 (25) 重要な昆虫類の予測結果

ヒロバネカントン (バッタ目マツムシ科)		
一般生態	本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 海岸近くのススキ及びヨモギ等の茂った草地に生息する。 年2化で卵越冬する。	
確認状況	川崎市において、夏季調査時に合計1地点で2個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点2個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川敷の草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(26) 重要な昆虫類の予測結果

ケラ (バッタ目ケラ科)		
一般生態	日本全土に分布する。 湿地及び水田等の土に穴を掘って生息する。 雑食性。 成虫は9～10月頃に羽化する。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計3地点で確認された。 川崎市においては、春季及び夏季調査時に合計2地点2個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点1個体が確認された。 相模原市においては、秋季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、耕作地周辺及び河川敷であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の変化は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(27) 重要な昆虫類の予測結果

ショウリョウバッタモドキ (バッタ目バッタ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 チガヤ等のイネ科植物の草原に生息する。 成虫は8月から11月に多い。	
確認状況	川崎市において、秋季調査時に合計5地点で13個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点4個体、相当離れた地域で3地点9個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、低茎草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40 (28) 重要な昆虫類の予測結果

ハルゼミ (カメムシ目セミ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 マツ林に生息する。 成虫は4月～6月上旬に見られる。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、沼田ら (2007) によると同じセミ科のクマゼミで最大1,200mの移動が確認されている。	
確認状況	相模原市において、春季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、針葉樹植林内であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40 (29) 重要な昆虫類の予測結果

オオアメンボ (カメムシ目アメンボ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 沼地及び小流に生息する。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、中尾 (2007) によると、同じアメンボ科のエサキアメンボの飛翔距離は一般に400-500mとされている。	
確認状況	相模原市において、春季、夏季及び秋季調査時に合計9地点で32個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点3個体、相当離れた地域で8地点29個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は河川の湛水部及び池等の止水域であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(30) 重要な昆虫類の予測結果

エサキアメンボ (カメムシ目アメンボ科)		
一般生態	本州、九州に分布する。 ヨシ等の挺水植物の多い池沼の水際近くに生息する。 なお、中尾(2007)によると、飛翔距離は一般に400-500mとされている。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川のツルヨシ群落内であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、直接の改変を受けないものの、工事の実施により生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(31) 重要な昆虫類の予測結果

コオイムシ (カメムシ目コオイムシ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 水田及び池沼等比較的浅い開放水面に棲む。 小型の昆虫類及びその他小動物を食する。 初夏の頃、雌は雄の背中に卵を産みつける。	
確認状況	相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計7地点で11個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で3地点4個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点3個体、相当離れた地域で3地点4個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、湿地及び河川緩流部の水際植生であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の生息環境は限られる。 したがって、生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(32) 重要な昆虫類の予測結果

エサキコミズムシ (カメムシ目ミズムシ科)		
一般生態	本州、四国、九州、沖縄に分布する。 各種水域に生息する。 ライトにも飛来する。	
確認状況	相模原市において、夏季、秋季及び冬季調査時に合計7地点で43個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点2個体、相当離れた地域で5地点40個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、糸状藻類が生育した池の水際及び河川緩流部の浅瀬であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(33) 重要な昆虫類の予測結果

アサヒナコミズムシ (カメムシ目ミズムシ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。 一般的に水温が低い高層湿原、池沼に生息するが、火山帯の温水中にも多数見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季及び冬季調査時に合計3地点で9個体が確認された。その内、相当離れた地域で3地点9個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、糸状藻類が生育した池の水際であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(34) 重要な昆虫類の予測結果

Sigara属の一種 (カメムシ目ミズムシ科)		
一般生態	各種水域に生息する。	
確認状況	相模原市において、冬季調査時に1地点2個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川の調整池であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(35) 重要な昆虫類の予測結果

アカヘリサシガメ (カメムシ目サシガメ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 山地の植物上に見られる。 小昆虫等を捕食する。	
確認状況	相模原市において、春季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、樹林に隣接した林道上であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(36) 重要な昆虫類の予測結果

ヒメナガメ (カメムシ目カメムシ科)		
一般生態	本州、四国、九州、南西諸島まで分布する。 アブラナ科植物に多く見られる。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計3地点で確認された。 川崎市においては、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。 相模原市においては、夏季、秋季調査時に合計2地点で4個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点1個体、相当離れた地域で1地点3個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川沿いの草地及び樹林であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(37) 重要な昆虫類の予測結果

アトモンコミズギワゴミムシ (コウチュウ目オサムシ科)		
一般生態	本州、九州に分布する。 公園等の草地でスギゴケが生えるような環境に生息する。	
確認状況	川崎市において、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、クズが繁茂する法面の草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(38) 重要な昆虫類の予測結果

アカガネアオゴミムシ (コウチュウ目オサムシ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 クリ畑等にあるまばらな草地に生息する。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、耕作地に隣接した草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(39) 重要な昆虫類の予測結果

コガシラミズムシ (コウチュウ目コガシラミズムシ科)		
一般生態	北海道～九州まで分布する。 水生植物の豊富な水田及びため池に分布する。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、四方(1999)によると、同じオサムシ上科のゲンゴロウの移動距離は、約1kmである。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、休耕地の湿地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認されており、工事の実施により生息環境である湿地等が消失する。また、周辺には同質の環境は限られる。 したがって、確認地点における生息環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(40) 重要な昆虫類の予測結果

キベリマメゲンゴロウ (コウチュウ目ゲンゴロウ科)		
一般生態	北海道から九州まで分布する。 清流に生息する。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、四方(1999)によると、同じゲンゴロウ科のゲンゴロウは、1km程は移動することが確認された。	
確認状況	相模原市において、春季、夏季及び秋季調査時に合計7地点で12個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で6地点11個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川緩流部の水際植生であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(41) 重要な昆虫類の予測結果

ツマキレオナガミズスマシ (コウチュウ目ミズスマシ科)		
一般生態	本州、九州に分布する。 湧水のある植生の豊富な流れに生息する。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、四方(1999)によると、同じオサムシ上科のゲンゴロウの移動距離は、約1kmである。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は緩流部の水際植生であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(42) 重要な昆虫類の予測結果

コオナガミズスマシ (コウチュウ目ミズスマシ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 湧水に関連した植生の豊富な水田及び池沼の流水に見られる。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、四方(1999)によると、同じオサムシ上科のゲンゴロウの移動距離は、約1kmである。	
確認状況	相模原市において、春季及び夏季調査時に合計4地点で6個体が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1地点2個体、相当離れた地域で3地点4個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は緩流部の水際植生であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(43) 重要な昆虫類の予測結果

ミズスマシ (コウチュウ目ミズスマシ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 湖、池等及び緩やかな流れのところに見られる。 成虫は昆虫の死骸を食する。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、四方(1999)によると、同じオサムシ上科のゲンゴロウの移動距離は、約1kmである。	
確認状況	相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計7地点で41個体が確認された。その内、相当離れた地域で7地点41個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、落葉落枝が堆積した池であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(44) 重要な昆虫類の予測結果

ミヤマクワガタ (コウチュウ目クワガタムシ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 山地のクヌギ及びヤナギ等の樹液に集まる。 成虫は7～8月に見られる。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、徳江ら(2011)によると、ノコギリクワガタの移動距離は最大約60mである。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、針広混交林沿いの道路上であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(45) 重要な昆虫類の予測結果

ムネアカセンチコガネ (コウチュウ目センチコガネ科)		
一般生態	北海道から九州にかけて分布する。 公園の芝生、ゴルフ場、放牧地等に生息する。 成虫は5～11月に見られる。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、低茎草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(46) 重要な昆虫類の予測結果

アカマダラセンチコガネ (コウチュウ目コガネムシ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 林内の陽だまり、伐採地及び林縁等を飛翔する。 成虫は4～10月に見られる。	
確認状況	相模原市において、春季及び秋季調査時に合計2地点で4個体が確認された。その内、相当離れた地域で2地点4個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、樹林及び伐開地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(47) 重要な昆虫類の予測結果

ヒゲコガネ (コウチュウ目ハナムグリ科)	
一般生態	<p>関東以南の本州から九州にかけて分布する。 砂地等のある河川周辺に生息する。 成虫は6～9月に見られる。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、前河(2005)によると、同じコガネムシ科のアオカナブンの移動距離は150m～450mである。</p>
確認状況	<p>川崎市において、夏季調査時に1地点5個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川の低水敷であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(48) 重要な昆虫類の予測結果

ヤマトタマムシ (コウチュウ目タマムシ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州、琉球に分布する。 エノキ及びケヤキ等の枯れ木につく。 成虫は7～8月に見られる。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計6地点で確認された。 川崎市においては、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。 相模原市においては、夏季調査時に5地点6個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で4地点5個体、相当離れた地域で1地点1個体が確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、貯木場及び樹林の林縁部等であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は、相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(49) 重要な昆虫類の予測結果

ヒメボタル (コウチュウ目ホタル科)		
一般生態	ヒメボタルとしては、本州、四国、九州に分布するが、低地型に限った分布は、必ずしも明らかでない。 スギ、ヒノキの人工林の暗い林床部に生息する。 幼虫は陸産の巻貝類を餌としていると考えられている。 成虫は6～7月に見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に合計2地点で20個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点10個体、相当離れた地域で1地点10個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、湿地周辺の針葉樹植林内であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(50) 重要な昆虫類の予測結果

ヘイケボタル (コウチュウ目ホタル科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 幼虫は水田及び池に生息する。 幼虫はモノアラガイ類を餌とする。 成虫は4～10月に見られる。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、宮下ら(1998)によると、同じホタル科のゲンジボタルは蛹になるために上陸した幼虫は、ほとんどが水面からの高さが1m以下の場所で蛹となった。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計2地点で確認された。 川崎市においては、夏季調査時に1地点4個体、相当離れた地域で確認された。 相模原市においては、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、休耕地内の湿地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、生息環境の変化は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認され、工事の実施により生息環境である湿地等の一部が縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の環境は限られる。 工事の実施に伴う夜間照明により、本種の生息環境に変化が生じる可能性がある。 したがって、確認地点における生息環境は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(51) 重要な昆虫類の予測結果

キイロトラカミキリ (コウチュウ目カミキリムシ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州に分布する。 暖帯から温帯樹林帯のクリの花上及び広葉樹の伐採木に集まる。 成虫は5～8月にかけて見られる。 なお、本種の移動距離は知られていないが、佐藤(2005)によると、フライトミル法によるカミキリムシ科のケブカトラカミキリの飛翔距離は、平均122m、最長1,170mである。また、遠田(1985)によると、フライトミル法によるカミキリムシ科のマツノマダラカミキリの飛翔距離は、平均600m、最大3,200mである。</p>
確認状況	<p>相模原市において、夏季調査時に1地点4個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、樹林脇の貯木場であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により、生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(52) 重要な昆虫類の予測結果

シロスジカミキリ (コウチュウ目カミキリムシ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州、奄美に分布する。 平地のクヌギ及びコナラのある雑木林に見られる。 幼虫はヤナギ科、ブナ科等各種の広葉樹の生木を食する。 成虫出現期は6～8月。 なお、本種の移動距離は知られていないが、佐藤(2005)によると、フライトミル法によるカミキリムシ科のケブカトラカミキリの飛翔距離は、平均122m、最長1,170mである。また、遠田(1985)によると、フライトミル法によるカミキリムシ科のマツノマダラカミキリの飛翔距離は、平均600m、最大3,200mである。</p>
確認状況	<p>相模原市において、春季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲で確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、落葉広葉樹林の林縁であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認されており、工事の実施により、生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(53) 重要な昆虫類の予測結果

アワクビボソハムシ (コウチュウ目ハムシ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 幼虫及び成虫は、畦のエノコログサ等に見られる。 成虫は7～10月頃まで見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川低水敷の草地で確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(54) 重要な昆虫類の予測結果

ミズバチ (ハチ目ヒメバチ科)		
一般生態	北海道、本州、九州に分布する。 幼虫はニンギョウトビケラの前蛹～蛹に寄生する。 成虫は3～11月頃まで見られる。 なお、青柳(2008)によると、活発な飛行行動をみせず、水系間の移動能力が低い可能性がある。	
確認状況	相模原市において、秋季及び冬季調査時に合計4地点で5個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点3個体、相当離れた地域で2地点2個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川の平瀬であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、直接の改変はないものの、工事の実施により生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど生じない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(55) 重要な昆虫類の予測結果

トゲアリ (ハチ目アリ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 クロオオアリ等に一時的社会寄生する。立木の根際のうろに巣を作る。 なお、久保田(1988)によると、アリ科のクロヤマアリの移動距離は、巣から100m以上である。	
確認状況	相模原市において、春季、夏季及び秋季調査時に合計4地点で100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で4地点100個体以上が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、広葉樹林であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、直接の改変はないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(56) 重要な昆虫類の予測結果

オオミノガ (チョウ目ミノガ科)		
一般生態	本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 平地から低山地にかけて生息する。 幼虫は各種樹木を食する。 雄は6月に羽化する。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に合計3地点で3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点2個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、針葉樹植林内及び林縁部であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により、生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(57) 重要な昆虫類の予測結果

アオバセセリ (チョウ目セセリチョウ科)		
一般生態	本州、四国、九州、南西諸島に分布する。 溪流沿い及び人家周辺の樹林等に見られる。 幼虫の食草はアワブキ科。成虫は花及び湿地に集まる。 成虫は5～8月頃見られる。	
確認状況	相模原市において、春季に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、休耕地の草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、直接の改変はないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(58) 重要な昆虫類の予測結果

ホソバセセリ (チョウ目セセリチョウ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 林内の空地、疎林の間、林縁等の草地に発生する。 幼虫の食草はススキ、オオアブラススキ等イネ科草本。 成虫は6～8月頃見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、休耕地に隣接する草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認されており、工事の実施により生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40 (59) 重要な昆虫類の予測結果

オオチャバネセセリ (チョウ目セセリチョウ科)		
一般生態	北海道から九州まで分布する。 ノアザミ等の草花に集まる。 幼虫の食草は主にアズマネザサ等のササ・タケ類。 成虫は6～10月にかけて見られる。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に合計3地点で3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点1個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、林道脇の草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40 (60) 重要な昆虫類の予測結果

ギフチョウ (チョウ目アゲハチョウ科)		
一般生態	本州に生息する。 低山地の雑木林及び高層湿原の周辺等に生息する。 幼虫の食草は主にウマノズクサ科のカンアオイ属。 成虫は3月下旬～5月下旬に出現する。 なお、HIRANO (2006) によると、直線距離で互いに約125-460m離れた4つのピークの間で、雄個体において、累計52回のピーク間移動が計27個体で確認された。	
確認状況	相模原市において、春季調査時に合計2地点で2個体が確認された。その内、相当離れた地域で2地点2個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、広葉樹林内及び林道であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(61) 重要な昆虫類の予測結果

カラスシジミ (チョウ目シジミチョウ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に生息する。 日当たりのよい林間の空地等の花に集まることが多い。 幼虫の食樹は主にハルニレ、コブニレ等のニレ科。 成虫は7月～8月に出現する。 なお、本種の行動圏に関する十分な知見はないが、徳江ら(2011)によると、オオルリシジミは最大560m移動する。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、樹林に囲まれた草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により、生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(62) 重要な昆虫類の予測結果

オオウラギンスジヒョウモン (チョウ目タテハチョウ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 草原環境、又は小規模な草地及びそれに付随する林に生息する。 幼虫の食草はスミレ類。 成虫は6月下旬から11月下旬まで見られる。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認されており、工事の実施により生息環境である草地の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40 (63) 重要な昆虫類の予測結果

クモガタヒョウモン (チョウ目タテハチョウ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 主に丘陵地から山地の落葉広葉樹林周辺の明るい草地等に生息する。 幼虫の食草はタチツボスミレ、ミヤマスミレ等のスミレ類。 成虫は5月上・中旬より出現、まもなく夏眠にはいり、秋再び出現する。	
確認状況	相模原市において、春季及び秋季調査時に合計6地点で7個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点3個体、相当離れた地域で3地点4個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は尾根上の林道及び谷間の裸地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40 (64) 重要な昆虫類の予測結果

コムラサキ (チョウ目タテハチョウ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。 主に河川に沿ったヤナギ類の林に生息する。 成虫はクヌギ及びヤナギ類の樹液に集まる。 幼虫の食草は各種のヤナギ類。 成虫は7～9月頃に見られる。幼虫越冬。	
確認状況	川崎市において、夏季及び秋季調査時に合計3地点で3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点3個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川敷のヤナギ林及び高茎草地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-40(65) 重要な昆虫類の予測結果

オオムラサキ (チョウ目タテハチョウ科)		
一般生態	北海道から九州まで分布する。 クヌギの樹液等に集まる。 幼虫の食樹はエノキ、エゾエノキ等のニレ科植物。 成虫は6~8月頃まで見られる。 あいちミティゲーション定量評価ツール利用マニュアル(愛知県)によると、移動範囲は1km程度である。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に合計2地点で3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点2個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認状況は、林道及び民家周辺であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、直接の改変は受けないものの、工事の実施により、生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-40(66) 重要な昆虫類の予測結果

カギモンハナオイアツバ (チョウ目ヤガ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。 明るい雑木林の林縁及び河川敷等の草地に発生する。 成虫は年1化又は2化。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河畔林の林内であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

f) 重要な魚類

予測地域に生息地が存在すると考えられる重要な魚類の予測結果は、表 8-4-1-41 に示す。

表 8-4-1-41(1) 重要な魚類の予測結果

スナヤツメ類 (ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科)	
一般生態	<p>遺伝的特徴から北方種と南方種に分けられ、前者は北海道と中部以北の本州に、後者は東北北部を除く本州、四国、九州北部に分布する。なお、形態的特徴から両種を識別することは困難であるため、両種をまとめてスナヤツメ類として扱う。</p> <p>河川の中流域、細流等の冷水域に生息し、幼生は砂泥底に、成体は礫間及び草木の根間に潜む。</p> <p>産卵期は5～6月で、直径の小さな礫底に集まって産卵する。</p> <p>幼生は泥中の有機物及び珪藻類を食するが、成体は餌をとらない。</p>
確認状況	<p>相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計1地区で53個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で42個体、相当離れた地域で11個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川と湿地であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はない。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41(2) 重要な魚類の予測結果

ニホンウナギ (ウナギ目ウナギ科)	
一般生態	<p>北海道中部以南の日本各地に分布する。</p> <p>河川の中流～下流域、河口域、湖及び内湾等にも生息する。</p> <p>降河回遊魚で、産卵は西マリアナ海嶺南端部の海域で行われ、孵化後、河口部に達した葉形幼生は、変態してシラスウナギとなり、河川を遡上して成長する。</p> <p>夜間に活動し、水生昆虫類、小型魚類、貝類及びエビ類等を食する。</p> <p>なお、本種は、産卵後に日本沿岸に到着するまでの4～5ヵ月で移動する距離は約5,500kmである。</p>
確認状況	<p>相模原市において、春季及び夏季調査時に合計3地区で7個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で6個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、河川であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲及び改変の可能性のある範囲の近傍で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性があるが、周辺に同質の環境は広く分布する。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し適切に処理すること等により、本種の生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41(3) 重要な魚類の予測結果

コイ (コイ目コイ科)	
一般生態	<p>全国的に分布する。野生型は、関東平野、琵琶湖淀川水系、岡山平野及び高知県四万十川で確認されている。</p> <p>大きな川の中流～下流域から汽水域、湖、池沼等に生息する。</p> <p>産卵期は4～7月で、卵は水草に産みつけられる。</p> <p>食性は底生動物を中心とする雑食性である。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において、合計3地区で確認された。</p> <p>川崎市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計2地区で9個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で9個体確認された。</p> <p>相模原市においては、春季及び冬季調査時に合計1地区で2個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1個体、相当離れた地域で1個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川及び人工的に管理された池であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備等を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41(4) 重要な魚類の予測結果

アブラハヤ (コイ目コイ科)	
一般生態	<p>日本海側では青森県から福井県にかけて、太平洋・瀬戸内海側では青森県から岡山県にかけて分布する。</p> <p>主に河川の上流～中流域に生息し、瀬及び平瀬の底層にいる。</p> <p>産卵期は春から初夏で、主として瀬及び平瀬の砂泥底又は砂礫底に産卵する。</p> <p>雑食性で、底生動物、付着藻類及び落下昆虫等を食する。</p> <p>なお、棟方(2009)らによると、本種の移動距離は約600mの河川区間内を移動・分散する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計7地区で確認された。</p> <p>川崎市においては、夏季調査時に2個体が相当離れた地域で確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に6地区から相当数の個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で100個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域でも相当数の個体が確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川及び山地部の沢であった。確認地点の周囲は早瀬、平瀬、瀬及び水際といった様々な環境であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備等を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41(5) 重要な魚類の予測結果

ウグイ (コイ目コイ科)		
一般生態	<p>琉球列島等を除き、ほぼ全国に分布する。 河川の上流域から河口域、山間の湖沼等に生息し、降海型は内湾、外海の沿岸部まで見られる。 産卵期は春から夏で、瀬の礫中に産卵する。 雑食性で、付着藻類、水生昆虫、魚類、けもの等の死体、小魚及び魚卵等を食する。 なお、KATANOら(2010)によると、本種の移動距離は海を経由して別の河川へ移動する。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計4地区で100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で36個体、相当離れた地域で100個体以上確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川であった。確認地点の周囲は早瀬、平瀬、淵及び水際といった様々な環境であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41(6) 重要な魚類の予測結果

カマツカ (コイ目コイ科)	
一般生態	<p>岩手県・山形県以南の本州、四国、九州等に分布する。</p> <p>川の中流～下流域、湖の沿岸及び灌漑用水路等に生息し、砂底ないし砂礫底のところに多い。</p> <p>産卵期は5～6月で、川の浅くて流れの緩やかな砂礫底に産卵する。</p> <p>主に底生動物をとる雑食性で、幼魚は藻類も食する。</p> <p>なお、山嶋ら(2009)によると、本種の行動圏は約300mである。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計3地区で確認された。</p> <p>川崎市においては、夏季、秋季及び冬季調査時に合計1地区で30個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1個体、相当離れた地域で29個体確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計2地区で100個体以上確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で100個体以上、相当離れた地域で2個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川で、砂地の平瀬であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41(7) 重要な魚類の予測結果

ニゴイ (コイ目コイ科)		
一般生態	<p>中部地方以北の本州、錦川以西の山口県及び九州に不連続に分布する。大きな川の中～下流汽水域、湖に生息し、流れの緩やかな水域の底層部、特に砂底に多い。</p> <p>産卵期は4～7月で、産卵は降雨後に川の中流域で行われる。</p> <p>雑食性で、カゲロウ類、トビケラ類、カワゲラ類及びユスリカ類を主体に、付着藻類や小魚等も食する。</p> <p>なお、竹下ら(1991)によると、本種の産卵遡上距離は約21km以上に及ぶ。</p>	
確認状況	<p>川崎市において、夏季調査時に1地区で15個体が、改変の可能性のある範囲の近傍で確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は多摩川であった。確認地点の周囲は河床が泥のワンドといった環境であり、比較的限られた環境であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-41(8) 重要な魚類の予測結果

ドジョウ (コイ目コイ科)	
一般生態	<p>ほぼ日本全国に分布。 水田及び湿地と周辺の細流に生息する。平野部を中心に生息するが、圃場整備がされていない水田が近くにあればかなり上流域にも生息する。 産卵期は6～7月で、水田に遡上し数日後夜間に産卵する。 雑食性で藻類、底生動物及び植物の茎、根、種を食する。 なお、西田ら(2005)によると、本種の移動距離は100～300mである。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計7地区で確認された。 川崎市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計4地区で100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で12個体、相当離れた地域で100個体以上確認された。 相模原市においては、春季、夏季及び秋季調査時に合計3地区で14個体を確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で10個体、相当離れた地域で3個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認されたのは、河川であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備等を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺には同質の生息環境が広く分布する。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41(9) 重要な魚類の予測結果

シマドジョウ (コイ目コイ科)	
一般生態	<p>山口県西部を除く本州と、四国に広くほぼ連続的に分布するほか、九州にも一部分布する。</p> <p>河川中流～下流域上部にかけての砂底ないし砂礫底に生息する。</p> <p>産卵期は5～6月で、湧水及び湧水を起源とする細流等に集団で移動して産卵すると推定される。</p> <p>底生動物及びデトリタス等を食する。</p> <p>なお近年、別種レベルで分化しているとされる4集団が認められており、それぞれに標準和名が提唱されている。</p> <p>なお、本種が生活史の中でどれほどの距離を移動するかは不明であるが、吉田（2013）によると、産卵のために河川や、細流、農業用水路に移動する。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計5地区で確認された。</p> <p>川崎市においては、春季、夏季及び冬季調査時に合計1地区で44個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で33個体、相当離れた地域で11個体確認された。</p> <p>相模原市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計4地区において水系全域にわたり相当数の個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で100個体以上、相当離れた地域で100個体以上確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川で、周囲は早瀬、平瀬、淵及び水際といった様々な環境であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41 (10) 重要な魚類の予測結果

ホトケドジョウ (コイ目コイ科)		
一般生態	青森県を除く東北地方～三重県、京都府及び兵庫県に分布する。流れの緩やかな細流の砂泥底に生息する。産卵期は3月下旬～6月上旬で、水草等に産卵・放精する。主に浮遊性から底生性の小動物を食する。なお、加地ら(2011)によると、本種の移動距離は約400m以上であることを調査より得ている。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計5地区で確認された。川崎市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計2地区で23個体が確認された。その内、相当離れた地域で23個体確認された。相模原市においては、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計3地区で36個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1個体、改変の可能性のある範囲の近傍で22個体、相当離れた地域で13個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は河川、湿地及び水路であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により、生息環境である河川の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41 (11) 重要な魚類の予測結果

ナマズ (ナマズ目ナマズ科)		
一般生態	現在ではほぼ日本全土に分布するが、関東以東では江戸時代中期以降に移植されたと考えられている。湖沼及び河川の中流～下流域に生息する。産卵期は5月～6月で、田植えの終わった田等に進入して産卵する。夜間に活動し、小魚及びカエル等を食する。	
確認状況	川崎市において、夏季調査時に合計1地区で2個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は河川で、周囲は河床が泥の流れが緩やかな水際といった環境であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-41 (12) 重要な魚類の予測結果

ヤマメ (サケ目サケ科)	
一般生態	<p>北海道、神奈川県・山口県以北の本州、大分県・宮崎県を除く九州等に不連続に分布する。</p> <p>真夏でも20℃を超えない清澄な水で、淵と早瀬あるいは落ち込みが交互に連なるところを生息場所とする。</p> <p>産卵期は10～11月で、瀬尻の砂礫底に産卵する。</p> <p>流れてくる水生昆虫及び落下昆虫等を食する。</p> <p>降海個体をサクラマスという。</p> <p>なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、NAKANOら(1990)によると、亜種であるアマゴは非繁殖期には20m以下、繁殖期には移動距離がわずかに増加する傾向があるが、定住性がみられる。</p>
確認状況	<p>相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計4地区で100個体以上確認された。その内改変の可能性のある範囲の近傍で2個体、相当離れた地域で100個体以上確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川及び沢で、周囲は平瀬、淵及び水際植生の間といった環境であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41 (13) 重要な魚類の予測結果

メダカ南日本集団 (ダツ目メダカ科)	
一般生態	<p>岩手県南部以南の本州太平洋側、四国、九州及び対馬及び屋久島等周辺の島嶼、京都府から山口県までの日本海側、奄美諸島、沖縄諸島に分布する。</p> <p>平野部の河川、湖沼、水田地帯の用水路等に生息し、止水や緩流域を好む。</p> <p>産卵期は主に春から夏で、水草等に産卵する。</p> <p>食性はプランクトンのほか、小さな落下昆虫等を食する雑食性である。</p> <p>近年、本種とメダカ北日本集団 (<i>Oryzias sakaizumii</i>) の2種に分けられ、分布が異なるほか、体側鱗の黒い縁取りの有無等外部形態によっても区別される。</p> <p>なお、佐原(私信)によると、水路のみで生息する本種の移動距離は条件がよければ1500m程度である。</p>
確認状況	<p>川崎市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計3地区で相当数の個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で100個体以上、相当離れた地域で100個体以上確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川及び公園内の人工池であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 工事作業に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備等を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-41 (14) 重要な魚類の予測結果

カジカ (カサゴ目カジカ科)		
一般生態	<p>本州～九州に分布する河川陸封種である。 河川上流に生息し、瀬の石礫底に多い。 産卵期は東日本では3月下旬～6月上旬で、瀬の石礫底に産卵する。 肉食性で、主に水生昆虫を食するほか、流下昆虫、底生小動物、小魚も食する。 なお、橐田 (2007) によると、最外郭法によって算出された夜間の行動圏サイズは平均9.8m²、レンジ0.3-79.9m²である。</p>	
確認状況	<p>相模原市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計5地区で相当数の個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で100個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域でも相当数の個体が確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川及び山地部の沢で、周囲は早瀬、平瀬、淵及び水際といった様々な環境であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-41 (15) 重要な魚類の予測結果

スミウキゴリ (スズキ目ハゼ科)		
一般生態	<p>北海道日高地方から鹿児島県屋久島までの河川に分布する。 中・小河川の河口付近から下流域に生息し、流れの緩やかな岸より及び物陰にすむ。 両側回遊魚で、5～7月に平たい礫の下面に産卵床をつくり産卵し、孵化仔魚はそのまま海まで流下する。成長した稚魚は、6～8月に河川河口域に遡上する。 小型の魚類、エビ類、ヨコエビ類及び水生昆虫等を捕食する。</p>	
確認状況	<p>川崎市において、春季、夏季、秋季及び冬季調査時に合計3地区で100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で100個体以上、相当離れた地域で8個体確認された。</p>	
確認地点の生息環境	<p>確認地点は河川であった。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されているが、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

g) 重要な底生動物

予測地域に生息地が存在すると考えられる重要な底生動物の予測結果は、表 8-4-1-42 に示す。

表 8-4-1-42(1) 重要な底生動物の予測結果

マルタニシ (原始紐舌目タニシ科)		
一般生態	北海道南部から九州の各地に分布する。 平野部の水田、池沼、用水路等に生息する。 雑食性で、底泥、水生植物に付着している微小な藻類及びデトリタス等を摂食する。卵胎生で、6~8月頃に稚貝を産出する。 殻高約60mm、殻径約44mmになる。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に合計2地点で40個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2地点40個体が確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、休耕地にみられた湿地であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲で確認され、工事の実施により本種の生息環境である湿地等は縮小・消失する可能性がある。また、周辺には同質の環境は限られる。 したがって、確認地点における生息環境は保全されない可能性があると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-42(2) 重要な底生動物の予測結果

コシダカヒメモノアラガイ (基眼目モノアラガイ科)		
一般生態	北海道から九州に分布する。 平地から山間にかけての水田の畦及び湿地等の止水環境の水際に生息し、水面より上部の湿った岩盤・転石上及び草本類の株元、コンクリート壁面等に付着する。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計5地点で確認された。 川崎市においては、冬季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。 相模原市においては、秋季及び冬季調査時に合計4地点で6個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で3地点5個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、水際にイネ科草本及び低木が茂る開放的な池であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍、相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-42(3) 重要な底生動物の予測結果

モノアラガイ (基眼目モノアラガイ科)	
一般生態	<p>北海道から九州まで各地に分布する。 小川、川の淀み、池沼、水田等の水草及び礫に付着している。泥底にいることもある。</p> <p>水から出ることはい少ない。植物食で、微小な藻類をヤスリのような歯舌で削り取って食する。水温が高くなる6月頃から産卵を繰り返す。水生植物の葉及び茎に長さ10mm程度の透き通ったゼラチン質の卵塊を産む。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計14地点で確認された。</p> <p>川崎市においては、冬季調査時に合計2地点で7個体が確認された。その内、相当離れた地域で2地点7個体確認された。</p> <p>相模原市においては、夏季、秋季及び冬季調査時に合計12地点で85個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点20個体、相当離れた地域で10地点65個体確認された。</p>
確認地点の生息環境	<p>確認地点は、糸状藻類が生育し水際にイネ科草本及び低木が茂る開放的な池であった。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により生息環境である河川等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種の生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性はあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さいため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-42(4) 重要な底生動物の予測結果

スジエビ (エビ目テナガエビ科)		
一般生態	北海道～九州、種子島、屋久島に分布する。日本産の淡水エビとしては最も分布が広い。 池、沼及び湖等の止水域から河川まで多岐にわたる。こうした生息域の違いは、体色及び大きさの違いとなつて見られることも多い。 春から秋にかけて水温が上昇すると繁殖期を迎える。雌は比較的大型の緑色の卵を腹部に抱く。卵はゾエア幼生の形で孵化し、稚エビに変態して着底する。	
確認状況	川崎市において、秋季及び冬季調査時に合計4地点で25個体が確認された。その内、相当離れた地域で4地点25個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は河川の水際植生で、周囲は河床が主に礫底でヨシ等の水際植生が点在する環境であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-1-42(5) 重要な底生動物の予測結果

モクズガニ (エビ目モクズガニ科)		
一般生態	日本全国に分布する。 河川の下流域から中流域に生息する。 繁殖期は10月から翌年6月までと長い。この季節になると雌雄ともに河川の下流域に下る。食用として利用されることも多い。日本産の淡水カニとしては最大の種である。	
確認状況	川崎市において、夏季調査時に1地点1個体、相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、河川の水際植生であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は相当離れた地域で確認されており、工事の実施による生息環境の縮小・消失はなく、水環境の変化も生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

h) 重要な土壌動物

予測地域に生息地が存在すると考えられる重要な土壌動物の予測結果は、表 8-4-1-43 に示す。

表 8-4-1-43 重要な土壌動物の予測結果

キシノウエトタテグモ (クモ目トタテグモ科)		
一般生態	<p>東京、神奈川、名古屋、京都、大阪等の都心部に多産。他の県ではあまり見られない。神社、寺院、学校、公園、人家の庭等に生息し、土台石のわき、土の詰まった石垣、崖及び植え込みの縁等の地面に穴を掘り、入口に片開きの扉を付けた住居を作る。クモは扉のすぐ内側にいて、扉の前を通る昆虫、ワラジムシ等を捕える。</p> <p>体長は雌12~20mm、雄10~15mm。背甲及び歩脚腿節は黒褐色、それ以外の歩脚の節はやや赤みを帯び、腹部は黒褐色ないし紫褐色で、対になった白色横条が顕著な個体とそうでない個体がいる。</p> <p>なお、中西ら(2009)によると、キシノウエトタテグモの仔グモの親巢からの移動直線距離は32.3 ± 7.8cm(平均±標準偏差)である。</p>	
確認状況	川崎市において、秋季調査時に合計2地点で2個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点2個体確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、公園であった。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種は改変の可能性のある範囲の近傍で確認されているが、工事の実施による生息環境の変化は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

ウ) 文献調査でのみ確認された重要な種に対する予測結果

文献調査により対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性が高いと考えられる重要な種のうち、現地調査では確認されなかった重要な種は、哺乳類 8 種、鳥類 37 種、爬虫類 1 種、両生類 4 種、昆虫類 206 種、魚類 8 種、底生動物 2 種、土壌動物類 0 種であった。

a) 哺乳類

予測対象種は、カワネズミ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、ニホンツキノワグマ、ニホンカモシカ、ホンドモモンガ、スミスネズミ、ハタネズミの 8 種である。

これらの種のうち、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、ニホンツキノワグマ、ニホンカモシカ、ホンドモモンガ、スミスネズミは、山地や里地・里山、低地・平地の樹林が主な生息環境である。ハタネズミは、山地や里地・里山、低地・平地の草地が主な生息環境である。カワネズミは、山地の水域が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な哺乳類の生息環境は保全されると予測される。

b) 鳥類

予測対象種は、ウズラ、ヤマドリ、ヒシクイ、マガン、アカツクシガモ、シマアジ、トモエガモ、ヨシゴイ、オオヨシゴイ、ヒクイナ、タゲリ、ケリ、ムナグロ、シロチドリ、ヤマシギ、キョウジョシギ、ヒバリシギ、タマシギ、オジロワシ、チュウヒ、イヌワシ、オオコノハズク、コノハズク、トラフズク、ヤマセミ、オオアカゲラ、ヤイロチョウ、チゴモズ、エゾムシクイ、ゴジュウカラ、マミジロ、コマドリ、コルリ、ニュウナイスズメ、ホオアカ、ノジコ、コジュリンの37種である。

これらの種のうち、ヤマドリ、イヌワシ、オオコノハズク、コノハズク、トラフズク、オオアカゲラ、ヤイロチョウ、チゴモズ、エゾムシクイ、ゴジュウカラ、マミジロ、コマドリ、コルリ、ニュウナイスズメ、ノジコは、山地や里地・里山、低地・平地の樹林が主な生息環境である。ウズラ、チュウヒ、ホオアカは、山地や里地・里山、低地・平地の草地が主な生息環境である。ヒシクイ、マガン、アカツクシガモ、シマアジ、トモエガモ、ヨシゴイ、オオヨシゴイ、ヒクイナ、タゲリ、ケリ、ムナグロ、シロチドリ、キョウジョシギ、ヒバリシギ、タマシギ、オジロワシ、ヤマセミ、コジュリンは、山地や里地・里山、低地・平地の湿地や水域が主な生息環境である。ヤマシギは、山地や里地・里山、低地・平地の樹林と湿地が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な鳥類の生息環境は保全されると予測される。

c) 爬虫類

予測対象種は、ニホンイシガメの1種で、池や河川が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な爬虫類の生息環境は保全されると予測される。

d) 両生類

予測対象種は、ヒダサンショウウオ、トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエル、ナガレタゴガエルの4種である。

これらの種のうち、ヒダサンショウウオ、トウキョウダルマガエル、ニホンアカガエルは、山地や里地・里山、低地・平地の湿地や水域が主な生息環境である。また、ナガレタゴガエルは、山地の樹林や溪流が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な両生類の生息環境は

保全されると予測される。

e) 昆虫類

予測対象種は、ガガンボカゲロウ、チェルノバマダラカゲロウ、キイトトンボ、モートンイトトンボ、セスジイトトンボ、オオイトトンボ、モノサシトンボ、ホソミオツネイトンボ、オツネイトンボ、アオハダトンボ、ムカシヤンマ、キイロサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、コサナエ、ネアカヨシヤンマ、カトリヤンマ、サラサヤンマ、ヨツボシトンボ、ハラビロトンボ、チョウトンボ、マイコアカネ、ジョウクリカワゲラ、クツワムシ、マツムシ、スズムシ、ニセハネナガヒシバツタ、ハネナガイナゴ、セグロイナゴ、カワラバツタ、イナゴモドキ、ツマグロバツタ、チツチゼミ、コムズムシ、ヤブガラシグンバイ、アシボソトビイロサシガメ、オオアシナガサシガメ、ミナミトゲヘリカメムシ、フトハサミツノカメムシ、キバネツノトンボ、カワラゴミムシ、ホソハンミョウ、セアカオサムシ、キベリマルクビゴミムシ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アシグロチビヒョウタンゴミムシ、コチビヒョウタンゴミムシ、ホソチビヒョウタンゴミムシ、オサムシモドキ、フタボシチビゴミムシ、タカオチビゴミムシ、ヨウザワメクラチビゴミムシ、ニシタンザワメクラチビゴミムシ、アオヘリミズギワゴミムシ、ウメヤルリミズギワゴミムシ、ヒロムネナガゴミムシ、オオナガゴミムシ、コホソナガゴミムシ、ニッコウオオズナガゴミムシ、オオキンナガゴミムシ、アシミゾナガゴミムシ、アシミゾヒメヒラタゴミムシ、キアシツヤヒラタゴミムシ、チョウセンゴモクムシ、キュウシュウツヤゴモクムシ、セグロマメゴモクムシ、クロズカタキバゴミムシ、ヨツモンカタキバゴミムシ、オオヨツボシゴミムシ、ヨツボシゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コアトワアオゴミムシ、オオトックリゴミムシ、フタモンクビナガゴミムシ、ダイミョウアトキリゴミムシ、アリスアトキリゴミムシ、クロサヒラタアトキリゴミムシ、オオアオホソゴミムシ、アオバネホソクビゴミムシ、クビボソコガシラミズムシ、キボシケシゲンゴロウ、コマルケシゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、コシマチビゲンゴロウ、セスジゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、コムズスマシ、クロサワツブミズムシ、チビヒラタガムシ、マルヒラタガムシ、シジミガムシ、コガムシ、ガムシ、タマガムシ、ヤマハマベエンマムシ、ドウガネエンマムシ、ルリエンマムシ、ヤマトモンシデムシ、ヒメヒラタシデムシ、チビクワガタ、ヒラタクワガタ、ナガスネエンマコガネ、ダルママグソコガネ、ツヤチャイロコガネ、アカマダラコガネ、ムラサキツヤハナムグリ、ケスジドロムシ、ウバタマムシ、クロチビタマムシ、ウバタマコメツキ、スジグロボタル、キイロジョウカイ、キムネヒメジョウカイモドキ、オオキマダラケシキスイ、チャイロズマルヒメハナムシ、ルリヒラタムシ、キバラチビオオキノコ、トカラナガツツキノコムシ、キスジヘリハネムシ、マメハンミョウ、オオマルクビヒラタカミキリ、ケブカヒラタカミキリ、ムネアカクロハナカミキリ、カタキハナカミキリ、モモグロハナカミキリ、アオスジカミキリ、マルクビケマダラカミキリ、ヨツボシカミキリ、ミドリカミキリ、アカネトラカミキリ、クロトラカミキリ、クリストフコトラカミキリ、トラフカミキリ、ブドウトラカミキリ、イタヤカミキリ、ヒゲナガモモブトカミキリ、ナカバヤシモモブトカミキリ、

ルリカミキリ、ハンノキカミキリ、イネネクイハムシ、キアシクビボソハムシ、ヨツボシナガツツハムシ、ヨツボシアカツツハムシ、コヤツボシツツハムシ、ムツキボシツツハムシ、ヤナギハムシ、クロセスジハムシ、スジカミナリハムシ、フタホシカギアシゾウムシ、トサヤドリキバチ、コンボウアメバチ、オオセイボウ、エゾアカヤマアリ、アオスジベッコウ、ヤマトハキリバチ、ルリモンハナバチ、ハマダラハルカ、ウシアブ、ミツオビヒゲナガハナアブ、ニトベベッコウハナアブ、カワムラモモブトハナアブ、ケブカハチモドキハナアブ、ヒメハチモドキハナアブ、ツマモンハススジハマダラミバエ、ルリイロスカシクロバ、ニホンセセリモドキ、ギンイチモンジセセリ、ホシチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、コキマダラセセリ、ミヤマチャバネセセリ、ヒメシロチョウ、スジボソヤマキチョウ、ヤマキチョウ、ムモンアカシジミ、ウラクロシジミ、ダイセンシジミ、オナガシジミ、ウスイロオナガシジミ、ミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ、キマダラルリツバメ、シルビアシジミ、クロツバメシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ウラギンヒョウモン、アサマイチモンジ、ホシミスジ、オオミスジ、シータテハ、クジャクチョウ、スミナガシ、ツマジロウラジャノメ、ギフウスキナミシヤク、サザナミフユナミシヤク、フチグロトゲエダシヤク、オナガミズアオ、ウスミモンキリガ、シロミハイイロヨトウ、オオチャバネヨトウ、コシロシタバ、ナミグルマアツバの 206 種である。

これらの種のうち、チッチゼミ、ヤブガラシグンバイ、オオアシナガサシガメ、ミナミトゲヘリカメムシ、フトハサミツノカメムシ、コチビヒョウタンゴミムシ、タカオチビゴミムシ、ヨウザワメクラチビゴミムシ、ニシタンザワメクラチビゴミムシ、ニッコウオオズナガゴミムシ、オオキンナガゴミムシ、キュウシュウツヤゴモクムシ、ダイミョウアトキリゴミムシ、クロサヒラタアトキリゴミムシ、ドウガネエンマムシ、チビクワガタ、ヒラタクワガタ、ツヤチャイロコガネ、アカマダラコガネ、ムラサキツヤハナムグリ、ウバタマムシ、ウバタマコメツキ、キムネヒメジョウカイモドキ、オオキマダラケシキスイ、チャイロズマルヒメハナムシ、ルリヒラタムシ、キバラチビオオキノコ、トカラナガツツキノコムシ、キスジヘリハネムシ、オオマルクビヒラタカミキリ、ケブカヒラタカミキリ、ムネアカクロハナカミキリ、カタキハナカミキリ、モモグロハナカミキリ、アオスジカミキリ、マルクビケマダラカミキリ、ヨツボシカミキリ、ミドリカミキリ、アカネトラカミキリ、クロトラカミキリ、クリストフコトラカミキリ、トラフカミキリ、ブドウトラカミキリ、イタヤカミキリ、ヒゲナガモモブトカミキリ、ナカバヤシモモブトカミキリ、ルリカミキリ、ムツキボシツツハムシ、トサヤドリキバチ、コンボウアメバチ、オオセイボウ、エゾアカヤマアリ、ハマダラハルカ、ニトベベッコウハナアブ、カワムラモモブトハナアブ、ケブカハチモドキハナアブ、ヒメハチモドキハナアブ、ツマモンハススジハマダラミバエ、ルリイロスカシクロバ、ニホンセセリモドキ、ムモンアカシジミ、ウラクロシジミ、ダイセンシジミ、オナガシジミ、ウスイロオナガシジミ、ハヤシミドリシジミ、キマダラルリツバメ、アサマイチモンジ、オオミスジ、シータテハ、スミナガシ、ギフウスキナミシヤク、サザナミフユナミシヤク、オナガミズアオ、コシロシタバ、ナミグルマアツバは、山地や里地・里山、低地・平地の樹林が主な生息環境である。クツワムシ、マツムシ、スズムシ、ハネナガイナゴ、セグロイナゴ、イナゴモドキ、ツماغロバッター、キバネツノト

ンボ、ホソハンミョウ、セアカオサムシ、アオヘリミズギワゴミムシ、オオナガゴミムシ、アリスアトキリゴミムシ、オオアオホソゴミムシ、ヤマトモンシデムシ、ナガスネエンマコガネ、ダルママグソコガネ、クロチビタマムシ、ヨツボシナガツツハムシ、クロセスジハムシ、アオスジベッコウ、ウシアブ、ホシチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、コキマダラセセリ、ヒメシロチョウ、スジボソヤマキチョウ、ヤマキチョウ、ウラギンヒョウモン、ホシミスジ、クジャクチョウ、ツマジロウラジャノメ、フチグロトゲエダシヤク、シロミミハイイロヨトウは、山地や里地・里山、低地・平地の草地が主な生息環境である。ヒメヒラタシデムシ、ルリモンハナバチ、ウラギンスジヒョウモンは、山地や里地・里山、低地・平地の樹林や草地が主な生息環境である。オオヨツボシゴミムシ、ヨツボシゴミムシ、ハンノキカミキリは、山地や里地・里山、低地・平地の樹林や湿地及び水域が主な生息環境である。アシボソトビイロサシガメ、ミヤマチャバネセセリは、山地や里地・里山、低地・平地の草地や湿地及び水域が主な生息環境である。ガガンボカゲロウ、チェルノバマダラカゲロウ、キイトトンボ、モートンイトトンボ、セスジイトトンボ、オオイトトンボ、モノサシトンボ、ホソミオツネントンボ、オツネントンボ、アオハダトンボ、ムカシヤンマ、キイロサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、コサナエ、ネアカヨシヤンマ、カトリヤンマ、サラサヤンマ、ヨツボシトンボ、ハラビロトンボ、チョウトンボ、マイコアカネ、ジョウクリカワゲラ、ニセハネナガヒシバツタ、カワラバツタ、コムズムシ、カワラゴミムシ、キベリマルクビゴミムシ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アシグロチビヒョウタンゴミムシ、ホソチビヒョウタンゴミムシ、オサムシモドキ、フタボシチビゴミムシ、ウメヤルリミズギワゴミムシ、ヒロムネナガゴミムシ、コホソナガゴミムシ、アシミヅナガゴミムシ、アシミヅヒメヒラタゴミムシ、キアシツヤヒラタゴミムシ、チョウセンゴモクムシ、セグロマメゴモクムシ、クロズカタキバゴミムシ、ヨツモンカタキバゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コアトワアオゴミムシ、オオトックリゴミムシ、フタモンクビナガゴミムシ、アオバネホソクビゴミムシ、クビボソコガシラミズムシ、キボシケシゲンゴロウ、コマルケシゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、コシマチビゲンゴロウ、セスジゲンゴロウ、クロズマメゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、コムズスマシ、クロサワツブミズムシ、チビヒラタガムシ、マルヒラタガムシ、シジミガムシ、コガムシ、ガムシ、タマガムシ、ヤマハマベエンマムシ、ルリエンマムシ、ケスジドロムシ、スジグロボタル、キイロジョウカイ、マメハンミョウ、イネネクイハムシ、キアシクビボソハムシ、ヨツボシアカツツハムシ、コヤツボシツツハムシ、ヤナギハムシ、スジカミナリハムシ、フタホシカギアシゾウムシ、ヤマトハキリバチ、ミツオビヒゲナガハナアブ、ギンイチモンジセセリ、ミドリシジミ、シルビアシジミ、ウスミミモンキリガ、オオチャバネヨトウは、山地や里地・里山、低地・平地の湿地や水域が主な生息地である。クロツバメシジミは、岩場、石垣が主な生息地である。このため、工事の実施又は鉄道施設の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な昆虫類の生息環境は

保全されると予測される。

f) 魚類

予測対象種は、キンブナ、アカヒレタビラ、ギバチ、アカザ、アマゴ、カマキリ、ボウズハゼ、オオヨシノボリの8種である。

これらの種は、山地や里地・里山、低地・平地の水域が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な魚類の生息環境は保全されると予測される。

g) 底生動物

予測対象種は、オオタニシ、ヒラマキミズマイマイの2種である。

これらの種は、低地・平地や里地・里山の湿地が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な底生動物の生息環境は保全されると予測される。

イ) 注目すべき生息地への影響

予測地域に生息地が存在すると考えられる注目すべき生息地の予測結果は、表 8-4-1-44 に示す。

表 8-4-1-44(1) 注目すべき生息地の予測結果

ギフチョウとその生息地（相模原市緑区（旧藤野町全域））		
概要	神奈川県指定の天然記念物であり、相模原市緑区（旧藤野町全域）が指定されている。 太平洋側での分布の東限域に当たり、県内では絶滅に瀕しているとされている。	
確認状況	相模原市において、牧馬地区の広葉樹林で1個体を確認した。 相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	確認地点は、広葉樹林内の林道及び樹林内であった。確認地点の周囲は針広混交樹林及び果樹園が見られる環境であり、周辺には同様な環境が広がっていた。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性があるが、その面積は小さい。 したがって、本種の生息地は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における生息環境の改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-44(2) 注目すべき生息地の予測結果

三角山及び宮が瀬一札掛林道のギフチョウ生息地		
概要	「天然記念物緊急調査 植生図・主要動植物地図」において、学術上価値の高い生物群集及び生物の所在地に指定されている。 （該当箇所：相模原市緑区根小屋周辺、鳥屋周辺）	
確認状況	相模原市において、鳥屋地区の林道脇で1個体を確認した。 相当離れた地域で確認された。	
確認地点の生息環境	森林	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、直接の改変は受けないものの、工事の実施により生息環境である樹林等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 したがって、本種の生息地は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された丘陵部の樹林は、「工事の実施」における生息環境の改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-44(3) 注目すべき生息地の予測結果

オニヤンマ、オナガアゲハ、ウスバシロチョウ、スミナガシ、ウスタビガ、アオバセセリの確認地点	
概要	「第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査 神奈川県動植物分布図」において、特定昆虫類に選定されている。 (該当箇所：鳥屋周辺)
確認状況	相模原市において、6種の文献による記録種の内、オニヤンマ、オナガアゲハ、ウスバシロチョウの3種が現地調査により鳥屋地区において確認された。
確認地点の生息環境 河川、森林、草地	
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種らは改変の可能性のある範囲、改変の可能性のある範囲の近傍及び相当離れた地域で確認されており、工事の実施により、生息環境である河川、樹林及び草地等の一部が縮小・消失する可能性がある。しかしながら、その面積は小さく、また周辺に同質の生息環境が広く分布する。 工事の実施に伴う排水は必要に応じて汚濁処理設備及び仮設沈砂池を配置し処理することにより、本種らの生息環境への影響はほとんど及ばない。 したがって、本種らの生息地は保全されると予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種らが確認された地点は、「工事の実施」における生息環境の改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境は保全されると予測する。

表 8-4-1-44(4) 注目すべき生息地の予測結果

自然環境保全地域（石砂山）	
概要	クリーコナラ群集とスギーヒノキ植林を中心に、アラカシーウラジロガシ群落が点在する。この地域内にはギフチョウが生息し、林床にはカントウカンアオイ、シュンラン、ヒトリシズカ等が自生している。
確認状況	相模原市において、上記の1地域が指定されている。
確認地点の生息環境 森林、草地	
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 本自然環境保全地域は地下をトンネルで通過するため生息環境の変化は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 「工事の実施」における生息環境の改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生息環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生息環境に変化は生じないと予測する。

ホ) 文献調査でのみ確認された注目すべき生息地に対する予測結果

予測対象とする注目すべき生息地は、「キマダラルリツバメとその生息地」（相模原市緑区（旧藤野町全域））1箇所である。

工事の実施又は鉄道施設の存在により、生息環境の一部が縮小・消失する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な昆虫類の生息地は保全されると予測する。

2) 環境保全措置の検討

ア. 環境保全措置の検討の状況

本事業では、計画の立案の段階において、動物に係る環境影響を回避又は低減するため「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること」、「資材運搬等の適正化」、「汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置」、「防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用」及び「工事施工ヤード等の緑化、林縁保護植栽による動物の生息環境の確保」について検討した。さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）又は鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、地下駅、車両基地、変電施設）の存在による動物に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。

検討にあたっては、「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること」を基本とした上で、さらに影響を低減させる措置を実施する。また、その結果を踏まえ、必要な場合には、損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を検討した。

環境保全措置の検討の状況を、表 8-4-1-45 に示す。

表 8-4-1-45(1) 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	保全対象種	実施の適否	適否の理由
重要な種の生息地の全体又は一部を回避	保全対象種全般	適	重要な種の生息地の全体又は一部を回避することで、影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること	保全対象種全般	適	工事施工ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより重要な種の生息地の改変をできる限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
侵入防止柵の設置	哺乳類の保全対象種全般	適	中型及び大型の哺乳類等の侵入による影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
小動物が脱出可能な側溝の設置	小型哺乳類、爬虫類及び両生類等の保全対象種全般	適	側溝にスロープ等を設置することにより、小動物が脱出可能な構造とすることで、小型哺乳類や爬虫類、両生類等への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
小動物の移動経路の確保	小型哺乳類、爬虫類及び両生類等の保全対象種全般	適	小型哺乳類や爬虫類、両生類等への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。

表 8-4-1-45(2) 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	保全対象種	実施の 適否	適否の理由
工事従事者への講習・指導	保全対象種全般	適	不用意な林内への立ち入り及びゴミ捨ての禁止等について工事従事者に指導することで、人為的な攪乱による影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
資材運搬等の適正化	保全対象種全般	適	運行ルートを自然環境保全地域など動物の重要な生息地を出来る限り回避するよう設定し、配車計画を運行ルートに応じた車両の台数や速度、運転方法などに留意して計画することにより動物全般への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置	河川を生息環境とする保全対象種全般	適	汚濁水の発生が抑えられることで、魚類等の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用	鳥類(猛禽類)の保全対象種全般	適	鳥類等の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
照明の漏れ出しの抑制	昆虫類等の保全対象種全般	適	専門家等の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けないような配慮による漏れ光の抑制、昆虫類等の誘引効果が少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行うことで、走光性の強い昆虫類等への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
コンディショニングの実施	鳥類(猛禽類)の保全対象種全般	適	段階的に施工規模を大きくし、徐々に工事に伴う騒音等に慣れさせること等により、猛禽類等の重要な種への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
工事施工ヤード等の緑化、林縁保護植栽による動物の生息環境の確保	保全対象種全般	適	改変する区域の一部において、工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りを実施し、適切に管理しながら緑化及び林縁の保護植栽を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
放流時の放流箇所及び水温の調整	トンネルからの湧水を放流する河川・沢を生息環境とする保全対象種全般	適	トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、河川・沢を生息環境とする保全対象種への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。

表 8-4-1-45(3) 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	保全対象種	実施の 適否	適否の理由
動物の生息環境の創出	ホンシュウカヤネズミ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、シオヤトンボ、ヒメアカネ、オナガササキリ、カヤコオロギ、コオイムシ、コガシラミズムシ、ヘイケボタル、マルタニシ	適	回避、低減のための措置を講じても生息環境の一部がやむを得ず消失する場合において、重要な種の生息環境を創出することで、重要な種の生息環境を代償できることから、環境保全措置として採用する。
動物個体の移植	アカハライモリ、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、シオヤトンボ、ヒメアカネ、コオイムシ、コガシラミズムシ、ヘイケボタル、マルタニシ	適	回避、低減のための措置を講じても生息環境の一部がやむを得ず消失する場合において、重要な種の生息地の消失等を代償できることから、環境保全措置として採用する。
代替巣等の設置	ノスリ	適	回避、低減のための措置を講じても生息環境の一部がやむを得ず消失する場合において、鳥類等の生息地の消失等を代償できることから、環境保全措置として採用する。

工事計画を検討するにあたり、重要な種の生息状況や、専門家の助言等を踏まえ、環境影響を可能な限り回避又は低減し、必要な場合には損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を講じていく。

小動物の移動経路を分断する場合の措置については、今後施設や工事の計画を詳細に検討していく段階で、専門家の意見を踏まえ、生息環境の状況が適切に把握できるようなモニタリングを継続して実施した上で検討を進め、その内容については重要種の位置情報に係る情報を除いて公表していく。

また両生類、爬虫類のうち、一部の冬眠する重要種については、過去の事例や専門家の意見も踏まえ、確認位置から重要種の生息地の分布範囲を推定し、改変の可能性のある範囲との関係から、一部改変の可能性のある範囲で確認されるものの、殆どは同質の生息環境が広がり、地域個体群に影響を与える程度ではなく、種として生息環境は保全されると予測して

いる。一方で、同質の生息環境が限られている場合は一部保全されないものと予測し、該当する重要種に対しては工事前に移植や生息環境の創出などの環境保全措置を実施する。個体レベルでの影響については、環境保全措置である「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」や「工事に伴う改変区域をできる限り小さくする」などを実施することで、改変の可能性のある範囲で確認されている個体への影響の回避、低減を図るが、今後、事業計画を具体的に検討する段階において、必要に応じて専門家の助言を受け、さらに検討を進める。

・オオタカ（長竹地区）について

長竹地区の非常口（山岳部）の位置選定として、「出来る限り樹林等の自然環境の改変を避けること」、「トンネルを掘り進め始める非常口の適地として、改変区域をできる限り小さくするよう、平坦地ではなく、山林と平坦地の境目となるような斜面に面している土地であること」、「改変区域をできる限り小さくするよう、工事用車両の通行できるような広い幅員を持った道路から直接乗り入れられる土地であること」、「非常口（山岳部）と本線との距離が小さいと非常口（山岳部）と本線を結ぶ通路の勾配が急になるため、適切な勾配を確保できるよう、ある程度本線と非常口（山岳部）との距離が取れる箇所であること」及び「必要面積を確保できる土地であることや用地取得が比較的容易であること」等を勘案し、本非常口の位置を選定したが、やむを得ず改変の可能性のある範囲にオオタカの営巣中心域の一部が含まれることとなった。

オオタカの営巣地は改変の可能性のある範囲から約 250m 離れた場所に位置するものの、その間には小尾根を挟むため、巣から改変区域への視認性は低く、影響の程度としては小さいと考えられる。さらに、改変の可能性のある範囲周辺には幹線道路や学校、幼稚園のような人工物が既に存在し、当該ペアは人為的活動にある程度慣れていていると考えられる。

営巣エリアや高利用域といった繁殖に重要な地域の改変をできる限り回避するよう、工事に伴う改変区域をできる限り小さくするとともに、オオタカの行動圏と工事区域の境界を明確化すること、コンディショニングを実施しながら、段階的に施工規模を大きくし、徐々に工事に伴う騒音等に慣れさせること、防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用等を行う。さらに、工事従事者に対しても不用意に林内へ立ち入らないよう指導を徹底していくことにより、影響の低減を図る。

今後は、事後調査を実施して生息状況の確認を行い、工事に対する影響の程度を把握し、改変区域のすぐ近傍において営巣が確認された場合には、施工順序の見直しや工事工程の調整を行い、繁殖への影響の大きな時期に騒音等の少ない作業を実施するなどの措置についても専門家等の助言を踏まえて検討していく。

イ. 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）又は鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、地下駅、車両基地、変電施設）の存在による動物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること」、「侵入防止柵の設置」、「小動物が脱出可能な側溝の設置」、「小動物の移動経路の確保」、「工事従事者への講習・指導」、「資材運搬等の適正化」、「汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置」、「防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用」、「照明の漏れ出しの抑制」、「コンディショニングの実施」、「工事施工ヤード等の緑化、林縁保護植栽による動物の生息環境の確保」、「放流時の放流箇所及び水温の調整」、「動物の生息環境の創出」、「動物個体の移植」及び「代替巣等の設置」を実施する。なお、「代替巣等の設置」については複数の種が巣を競合するという知見もあるため、今後の継続調査の結果や専門家意見を踏まえ、詳細な設置検討を行っていく。

また、工事排水の排出先となる河川においては、モニタリングを実施し、排水による影響を監視していく計画としている。

環境保全措置の内容を、表 8-4-1-46 に示す。

表 8-4-1-46(1) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	重要な種の生息地の全体又は一部を回避
	位置・範囲	重要な種の生息地
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	重要な種の生息環境の全体又は一部を回避することで、影響を回避又は低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(2) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること
	位置・範囲	工事施工箇所
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	工事施工ヤード内に設置する諸設備を検討し、設置する設備やその配置を工夫することなどにより重要な種の生息環境の改変をできる限り小さくすることで、影響を回避又は低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(3) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	哺乳類の保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	侵入防止柵の設置
	位置・範囲	事業区域周辺
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	中型及び大型の哺乳類等の侵入による影響を回避又は低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(4) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	小型哺乳類、爬虫類及び両生類等の保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	小動物が脱出可能な側溝の設置
	位置・範囲	事業の適地
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	側溝にスロープ等を設置することにより、小動物が脱出可能な構造とすることで、小型哺乳類や爬虫類、両生類等への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(5) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	小型哺乳類、爬虫類及び両生類等の保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	小動物の移動経路の確保
	位置・範囲	事業の適地
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	小型哺乳類や爬虫類、両生類等への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(6) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	工事従事者への講習・指導
	位置・範囲	事業区域及びその周囲
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	不用意な林内への立ち入り及びゴミ捨ての禁止等について工事従事者に指導することで、人為的な攪乱による影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(7) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	資材運搬等の適正化
	位置・範囲	資材運搬経路
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	運行ルートを自然環境保全地域など動物の重要な生息地を出来る限り回避するよう設定し、配車計画を運行ルートに応じた車両の台数や速度、運転方法などに留意して計画することにより動物全般への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(8) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	河川を生息環境とする保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置
	位置・範囲	事業改変区域及びトンネル坑口等
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置により汚濁水の発生が抑えられることで、魚類等の生息環境への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(9) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	鳥類（猛禽類）の保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用
	位置・範囲	改変区域
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音、振動の発生が抑えられることで、鳥類等の生息環境への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(10) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	昆虫類等の保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	照明の漏れ出しの抑制
	位置・範囲	山岳部における事業区域及びその周囲
	時期・期間	工事中 供用時
環境保全措置の効果	専門家等の助言を得つつ、設置する照明については、極力外部に向けないような配慮による漏れ光の抑制、昆虫類等の誘引効果が少ない照明の採用、適切な照度の設定等を行うとともに、管理上支障のない範囲で夜間は消灯するなど点灯時間への配慮を行うことで、走光性の昆虫類等への影響を低減できる。	
効果の不確実性	あり	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(11) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	鳥類（猛禽類）の保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	コンディショニングの実施
	位置・範囲	事業区域及びその周囲
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	段階的に施工規模を大きくし、徐々に工事に伴う騒音等に慣れさせること等により、猛禽類等の重要な種への影響を低減できる。	
効果の不確実性	あり	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(12) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	工事施工ヤード等の緑化、林縁保護植栽による動物の生息環境の確保
	位置・範囲	事業区域
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	改変する区域の一部において、工事の実施に際し、周辺の植生を考慮した上で、使用した工事施工ヤード等の定期的な下刈りを実施し、適切に管理しながら緑化及び林縁の保護植栽を図り、その効果を確認することにより、林内環境への影響を軽減し、重要な種の生息環境への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(13) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	トンネルからの湧水を放流する河川・沢を生息環境とする保全対象種全般	
実施内容	種類・方法	放流時の放流箇所及び水温の調整
	位置・範囲	トンネルの工事を実施する箇所
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、河川・沢を生息環境とする保全対象種への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(14) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	ホンシュウカヤネズミ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、シオヤトンボ、ヒメアカネ、オナガササキリ、カヤコオロギ、コオイムシ、コガシラミズムシ、ヘイケボタル、マルタニシ等	
実施内容	種類・方法	動物の生息環境の創出
	位置・範囲	事業区域及び周囲
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	車両基地の計画では、生息する重要な種の生息環境は、やむを得ず縮小、消失することとなるため、代償措置として、湿地、草地等の類似した生息環境を創出することで生態系への影響を代償することができる。なお、生息環境の創出は、事例等から知見が得られており、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	
効果の不確実性	あり	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(15) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	アカハライモリ、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、シオヤトンボ、ヒメアカネ、コオイムシ、コガシラミズムシ、ヘイケボタル、マルタニシ	
実施内容	種類・方法	動物個体の移植
	位置・範囲	事業区域及び周囲
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	車両基地計画地に生息する対象種の生息環境はやむを得ず縮小、消失することとなるため、代償措置として類似した環境を持つ場所等へ移植を行うことで、生息環境への影響を代償することができる。なお、動物個体の移植は、事例等から知見が得られており、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	
効果の不確実性	あり	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-1-46(16) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	ノスリ	
実施内容	種類・方法	代替巣等の設置
	位置・範囲	事業区域及び周囲
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	車両基地計画地において、ノスリの生息環境の一部は、やむを得ず縮小、消失することとなるため、代償措置として、周辺の類似した環境（樹種や樹高及び樹木の密度等）に代替巣等を設置することで、生息環境への影響を代償することができる。なお、代替巣等の設置はオオタカ等での事例から知見が得られており、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	
効果の不確実性	あり	
他の環境への影響	なし	

ウ. 環境保全措置の効果及び当該措置を講じた後の環境の変化の状況

環境保全措置の効果は表 8-4-1-46 に示すとおりである。環境保全措置を実施することで、予測結果より重要な動物への影響は回避、低減及び代償される。

3) 事後調査

ア. 事後調査を行うこととした理由

本事業の実施による動物への影響は、環境保全措置を実施することにより影響を回避、低減及び代償できるものと予測する。

しかし、環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施するものとする。

イ. 事後調査の項目及び手法

実施する事後調査の内容は、表 8-4-1-47 に示す。

表 8-4-1-47 事後調査の概要

調査項目	調査内容	実施主体
猛禽類等の生息状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ○調査時期・期間 工事中及び工事後の繁殖期 ○調査地域・地点 営巣地及び代替巣周辺 ○調査方法 任意観察による生息状況の確認 ※専門家の助言を踏まえながら実施する。 	東海旅客鉄道株式会社
創出、移植した生息環境の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○調査時期・期間 各保全対象種の生活史及び生息特性等に応じて設定 ○調査地域・地点 創出、移植箇所周辺 ○調査方法 任意観察等による生息状況の確認 ※専門家の助言を踏まえながら実施する。 	東海旅客鉄道株式会社
照明の漏れ出し範囲における昆虫類等の生息状況	<ul style="list-style-type: none"> ○調査時期・期間 工事中及び工事完了後 ○調査地域・地点 山岳部における工事施工ヤードや供用時の各種施設等における照明設置場所及びその周辺 ○調査方法 任意観察等による生息状況の確認 ※専門家の助言を踏まえながら実施する。 	東海旅客鉄道株式会社

ウ. 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針

事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、その原因の把握に努めるとともに、専門家の助言も踏まえ、必要な場合には種の特性に合わせた改変時期の設定や改変期間の短縮についても検討し、改善を図るものとする。

エ. 事後調査の結果の公表方法

事後調査の結果の公表は、原則として事業者が行うものとするが、公表時期・方法等は、関係機関と連携しつつ適切に実施するものとする。

4) 評価

ア. 評価の手法

ア) 回避又は低減に係る評価

調査・予測結果及び環境保全措置を行った場合はその結果について、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減がなされているか、見解を明らかにすることにより行った。

イ. 評価結果

ア) 回避又は低減に係る評価

計画路線は、計画段階において、大部分をトンネル構造にする等して、改変面積を極力小さくする計画とし、動物への環境影響の回避、低減を図っている。

一部の種は、生息環境が保全されない又は一部は保全されない可能性があるとして予測されたが、濁水処理の実施、低騒音型、低振動型機械の使用等の環境保全措置を確実に実施することで、動物への環境影響の回避、低減に努める。

なお、生息環境の創出、代替巢の設置等は、環境保全措置の効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家等の助言等を踏まえて、別途対策を検討する。

さらに、列車の走行に関する騒音等が野生動物に及ぼす影響に関しては、現時点で十分な知見が蓄積されていないが、影響の把握や環境保全措置等について、整備新幹線での対応状況も見ながら検討を進めていく。

このことから、環境への影響は回避又は低減されていると評価する。